

基本計画書

基本計画									
事項	記入欄						備考		
計画の区分	大学の収容定員に係る学則変更								
フリガナ設置者	コクリツダクイガクホガジン カマトダクイガク 国立大学法人 熊本大学								
フリガナ大学の名称	カマトダクイガク 熊本大学 (Kumamoto University)								
大学本部の位置	熊本県熊本市中央区黒髪二丁目39番1号								
大学の目的	<p>1. 教育 個性ある創造の人材を育成するために、学部から大学院まで一貫した理念のもとに総合的な教育を行う。学部では、幅広く深い教養、国際的対話力、情報化への対応能力及び主体的な課題探求能力を備えた人材を育成する。大学院では、学部教育を基盤に、人間と自然への深い洞察に基づく総合的判断力と国際的に通用する専門知識・技能とを身につけた高度専門職業人を育成する。また、社会に開かれた大学として、生涯を通じた学習の場を積極的に提供する。</p> <p>2. 研究 高度な学術研究の中核としての機能を高め、最先端の創造的な学術研究を積極的に推進するとともに、人類の文化遺産の豊かな継承・発展に努める。また、総合大学の特徴を活かして、人間、社会、自然の諸科学を総合的に深化させ、学際的な研究を推進することにより、人間と環境の共生及び社会の持続可能な発展に寄与する。</p> <p>3. 地域貢献・国際貢献 地方中核都市に位置する国立大学として地域との連携を強め、地域における研究中枢的機能及び指導的人材の養成機能を果たす。世界に開かれた情報拠点として、世界に向けた学術文化の発信に努めることにより、地域の産業の振興と文化の向上に寄与する。また、知的国際交流を積極的に推進するとともに留学生教育に努め、双方向的な国際交流の担い手の育成を目指す。</p>								
新設学部等の目的	<p>第7次熊本県保健医療計画（2018年度から2023年度まで）等を踏まえ、熊本県と連携し地域や診療科の医師確保の観点からの医師養成の推進、地域医療機関との連携による地域医療への貢献を目的としている。</p> <p>令和4年度から5名の医学部医学科の入学定員増を図り、地域医療において不足する医師の養成及び確保を行う。</p>								
新設学部等の概要	新設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	開設時期及び開設年次	所在地	医学部医学科の今回の5名の入学定員の増員は、令和4年度のための臨時定員増である。また、医学部医学科の令和3年度における収容定員は680人である。
	医学部 医学科	年	人 110 (105)	年次 人 0	人 635 (630)	学士（医学）	年 月 第 年次 令和4年4月 第1年次	熊本市中央区本荘 1丁目1-1	
	計		110 (105)	0	635 (630)				
同一設置者内における変更状況（定員の移行、名称の変更等）		教育学部 学校教育教員養成課程（220）（令和3年4月事前相談）							

教育課程	新設学部等の名称	開設する授業科目の総数				卒業要件単位数				
		講義	演習	実験・実習	計					
	—	—科目	—科目	—科目	—科目	—単位				
教 員 組 織 の 概 要	学部等の名称		専任教員等					兼任 教員等		
			教授	准教授	講師	助教	計	助手		
			人	人	人	人	人	人	人	
	新 設 分	医学部 医学科		66 (66)	41 (41)	40 (40)	147 (147)	294 (294)	0 (0)	221 (221)
		計		66 (66)	41 (41)	40 (40)	147 (147)	294 (294)	0 (0)	— (—)
	既	文学部 総合人間学科		8 (8)	7 (7)	0 (0)	0 (0)	15 (15)	0 (0)	221 (221)
		歴史学科		4 (4)	8 (8)	0 (0)	0 (0)	12 (12)	0 (0)	221 (221)
		文学部 文学科		6 (6)	12 (12)	0 (0)	0 (0)	18 (18)	0 (0)	221 (221)
		コミュニケーション情報学科		7 (7)	11 (11)	0 (0)	0 (0)	18 (18)	0 (0)	221 (221)
		教育学部 小学校教員養成課程		5 (5)	6 (6)	0 (0)	0 (0)	11 (11)	0 (0)	980 (980)
		中学校教員養成課程		25 (25)	24 (24)	0 (0)	0 (0)	49 (49)	0 (0)	1,004 (1,004)
		特別支援教育教員養成課程		3 (3)	4 (4)	0 (0)	0 (0)	7 (7)	0 (0)	972 (972)
		養護教諭養成課程		3 (3)	3 (3)	1 (1)	0 (0)	7 (7)	0 (0)	1,007 (1,007)
		法学部 法学科		17 (17)	20 (20)	3 (3)	0 (0)	40 (40)	0 (0)	221 (221)
		理学部 理学科		33 (33)	25 (25)	0 (0)	11 (11)	69 (69)	0 (0)	221 (221)
	医学部 保健学科		17 (17)	8 (8)	3 (3)	16 (16)	44 (44)	0 (0)	221 (221)	
	薬学部 薬学科		16 (16)	11 (11)	1 (1)	10 (10)	38 (38)	0 (0)	221 (221)	
	創薬・生命薬科学科		6 (6)	3 (3)	2 (2)	2 (2)	13 (13)	0 (0)	221 (221)	
	工学部 土木建築学科		13 (13)	15 (15)	0 (0)	6 (6)	34 (34)	0 (0)	221 (221)	
	機械数理工学科		15 (15)	11 (11)	1 (1)	7 (7)	34 (34)	0 (0)	221 (221)	
	情報電気工学科		17 (17)	13 (13)	0 (0)	6 (6)	36 (36)	0 (0)	221 (221)	
	材料・応用化学科		16 (16)	14 (14)	0 (0)	14 (14)	44 (44)	0 (0)	221 (221)	
	分	計		211 (211)	195 (195)	11 (11)	72 (72)	489 (489)	0 (0)	— (—)
		合 計		277 (277)	236 (236)	51 (51)	219 (219)	783 (783)	0 (0)	— (—)

教員以外の職員の概要	職 種		専 任	兼 任	計					
	事 務 職 員		399 人 (399)	557 人 (557)	956 人 (956)					
	技 術 職 員		105 (105)	293 (293)	398 (398)					
	図 書 館 専 門 職 員		8 (8)	0 (0)	8 (8)					
	そ の 他 の 職 員		1,147 (1,147)	610 (610)	1,757 (1,757)					
	計		1,659 (1,659)	1,460 (1,460)	3,119 (3,119)					
校 地 等	区 分	専 用	共 用	共用する他の学校等の専用	計	放送大学熊本学習センターとの共用623㎡ 地上権設定者：公益財団法人くまもと産業支援財団 地上権設定期間：H29.9.1から3年間（以降、毎年度更新）19,945㎡ 貸与者：熊本市 借用期間：H29.4.1からH30.3.31（以降、毎年度更新）494㎡ 貸与者：益城町 借用期間：H30.10.1からR2.9.30（以降、毎年度更新）331㎡				
	校 舎 敷 地	475,024(20,770)㎡	623 ㎡	0 ㎡	475,647(20,770)㎡					
	運 動 場 用 地	39,752(0)㎡	0 ㎡	0 ㎡	39,752(0)㎡					
	小 計	514,776(20,770)㎡	623 ㎡	0 ㎡	515,399(20,770)㎡					
	そ の 他	144,293(0)㎡	0 ㎡	0 ㎡	144,293(0)㎡					
	合 計	659,069(20,770)㎡	623 ㎡	0 ㎡	659,692(20,770)㎡					
校 舎		専 用	共 用	共用する他の学校等の専用	計	放送大学熊本学習センターの専用1,112㎡				
		457,740 ㎡ (457,740 ㎡)	0 ㎡ (0 ㎡)	1,112 ㎡ (1,112 ㎡)	458,852 ㎡ (458,852 ㎡)					
教室等	講義室	演習室	実験実習室	情報処理学習施設	語学学習施設	大学全体				
	122 室	90 室	1,206 室	9 室 (補助職員 6人)	13 室 (補助職員 3人)					
専 任 教 員 研 究 室		新設学部等の名称		室 数						
		大学全体		770 室						
図 書 ・ 設 備	新設学部等の名称	図書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕	視聴覚資料 点	機械・器具 点	標本 点			
	大学全体	1,255,975 [482,340] (1,255,975 [482,340])	21,266 [7,207] (21,266 [7,207])	17,031 [15,706] (17,031 [15,706])	2,184 (2,184)	67,684 (67,684)	35 (35)			
	計	1,255,975 [482,340] (1,255,975 [482,340])	21,266 [7,207] (21,266 [7,207])	17,031 [15,706] (17,031 [15,706])	2,184 (2,184)	67,684 (67,684)	35 (35)			
図 書 館		面積	閲覧座席数		収 納 可 能 冊 数					
		12,347 ㎡	936		1,035,084					
体 育 館		面積	体育館以外のスポーツ施設の概要					大学全体		
		8,245 ㎡	陸上競技場 1 面	プール 50 m 8 コース	ラグビー場 1 面	アーチェリー場 1 基	サッカー場 1 面		弓道場 1 棟	テニスコート 14 面
経 費 の 見 積 り 及 び 維 持 方 法 の 概 要	経 費 の 見 積 り	区 分	開設前年度	第 1 年次	第 2 年次	第 3 年次	第 4 年次	第 5 年次	第 6 年次	
		教員 1 人 当り 研究費等		—	—	—	—	—	—	
		共 同 研 究 費 等		—	—	—	—	—	—	
		図 書 購 入 費	—	—	—	—	—	—	—	
	設 備 購 入 費	—	—	—	—	—	—	—	—	
	学 生 1 人 当り 納 付 金	第 1 年次	第 2 年次	第 3 年次	第 4 年次	第 4 年次	第 4 年次			
		535千円	535千円	535千円	535千円	535千円	535千円			
学 生 納 付 金 以 外 の 維 持 方 法 の 概 要			該 当 な し							

既設大学等の状況	大学の名称		熊本大学						所在地	
	学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	定員超過率	開設年度		
	文学部						1.06		熊本市中央区黒髪 2丁目40-1	
	総合人間学科	4	55	—	220	学士(文学)	1.05	平成17年度		
	歴史学科	4	35	—	140	学士(文学)	1.06	平成17年度		
	文学科	4	50	—	200	学士(文学)	0.96	平成17年度		
	コミュニケーション情報学科	4	30	—	120	学士(文学)	1.28	平成17年度		
	(学部共通)			(3年次) 10	20	学士(文学)	—	平成11年度		
	教育学部						1.06			熊本市中央区黒髪 2丁目40-1
	小学校教員養成課程	4	110	—	440	学士(教育学)	1.01	平成24年度		
	中学校教員養成課程	4	70	—	280	学士(教育学)	1.11	平成24年度		
	特別支援教育教員養成課程	4	20	—	80	学士(教育学)	1.08	平成19年度		
	養護教諭養成課程	4	30	—	120	学士(教育学)	1.04	昭和52年度		
	法学部						1.02		熊本市中央区黒髪 2丁目40-1	
	法学科	4	210	—	840	学士(法学)	1.02	平成16年度		
	(学部共通)			(3年次) 10	20	学士(法学)	—	平成12年度		
	理学部						1.02		熊本市中央区黒髪 2丁目39-1	
	理学科	4	200	—	800	学士(理学)	1.02	平成16年度		
	医学部								熊本市中央区本荘 1丁目1-1 熊本市中央区九品 寺4丁目24-1	
	医学科	6	110	—	680	学士(医学)	1.00	昭和24年度		
	保健学科	4	144	—	576	学士(看護学), 学士(保健学)	1.01	平成15年度		
	(保健学科共通)			(3年次) 16	32	学士(看護学), 学士(保健学)	—	平成18年度		
	薬学部								熊本市中央区大江 本町5-1	
	薬学科	6	55	—	330	学士(薬学)	1.02	平成18年度		
	創薬・生命薬科学科	4	35	—	140	学士(創薬科学), 学士(生命薬科学)	1.04	平成18年度		
	工学部						1.02		熊本市中央区黒髪 2丁目39-1	
	物質生命化学科	4	—	—	—	学士(工学)	—	平成18年度		
	マテリアル工学科	4	—	—	—	学士(工学)	—	平成18年度		
	機械システム工学科	4	—	—	—	学士(工学)	—	平成18年度		
	社会環境工学科	4	—	—	—	学士(工学)	—	平成18年度		
	建築学科	4	—	—	—	学士(工学)	—	平成18年度		
情報電気電子工学科	4	—	—	—	学士(工学)	—	平成18年度			
数理工学科	4	—	—	—	学士(工学)	—	平成18年度			
土木建築学科	4	124	10	516	学士(工学)	1.03	平成30年度			
機械数理工学科	4	109	10	456	学士(工学)	1.00	平成30年度			
情報電気工学科	4	149	20	636	学士(工学)	1.02	平成30年度			
材料・応用化学科	4	131	5	534	学士(工学)	1.01	平成30年度			
大学院教育学研究科 (修士課程)						—		熊本市中央区黒髪 2丁目40-1		
学校教育実践専攻	2	—	—	—	修士(教育学)	—	平成21年度			
教科教育実践専攻 (専門職学位課程)	2	—	—	—	修士(教育学)	—	平成21年度			
教職実践開発専攻	2	30	—	60	教職修士(専門職)	1.09	令和2年度			
大学院社会文化科学教育部 (博士前期課程)								熊本市中央区黒髪 2丁目40-1		
法政・紛争解決学専攻	2	14	—	33	修士(法学), 修士(公共政策学), 修士(学術)	0.72	平成31年度			
熊本大学・マサチュー セッツ州立大学ポス トン校紛争解決学 国際連携専攻	2	4	—	4	修士(紛争解決学)	0.25	令和3年度			

令和2年度入学定員減(5人)

平成30年度より
学生募集停止

令和2年度より
学生募集停止

令和3年度入学定員減(7人)

既設大学等の状況	公共政策学専攻	2	—	—	—	修士（公共政策学）、 修士（学術）	—	平成20年度	平成31年度より 学生募集停止
	現代社会人間学専攻	2	18	—	36	修士（文学）、 修士（法学）、 修士（学術）	0.74	平成20年度	
	文化学専攻	2	18	—	36	修士（文学）、 修士（学術）	0.85	平成20年度	
	教授システム学専攻	2	15	—	30	修士（教授システム学）、 修士（学術）	1.16	平成20年度	
	(博士後期課程) 人間・社会科学専攻	3	6	—	18	博士（文学）、 博士（法学）、 博士（公共政策学）、 博士（学術）	0.94	平成20年度	
	文化学専攻	3	6	—	18	博士（文学）、 博士（学術）	0.44	平成20年度	
	教授システム学専攻	3	3	—	9	博士（学術）	1.22	平成20年度	
	大学院自然科学研究科 (博士後期課程) 理学専攻	3	—	—	—	博士（理学）、 博士（学術）	—	平成18年度	
	複合新領域科学専攻	3	—	—	—	博士（理学）、 博士（工学）、 博士（学術）	—	平成18年度	
	産業創造工学専攻	3	—	—	—	博士（工学）、 博士（学術）	—	平成18年度	
	情報電気電子工学専攻	3	—	—	—	博士（工学）、 博士（学術）	—	平成18年度	
	環境共生工学専攻	3	—	—	—	博士（工学）、 博士（学術）	—	平成18年度	
	大学院自然科学教育部 (博士前期課程) 理学専攻	2	110	—	220	修士（理学）、 修士（学術）	0.80	平成30年度	
	土木建築学専攻	2	75	—	150	修士（工学）、 修士（学術）	1.09	平成30年度	
	機械数理工学専攻	2	65	—	130	修士（工学）、 修士（学術）	1.16	平成30年度	
	情報電気工学専攻	2	103	—	206	修士（工学）、 修士（学術）	1.02	平成30年度	
	材料・応用化学専攻	2	90	—	180	修士（工学）、 修士（学術）	0.93	平成30年度	
	(博士後期課程) 理学専攻	3	12	—	36	博士（理学）、 博士（学術）	0.82	平成30年度	
	工学専攻	3	46	—	138	博士（工学）、 博士（学術）	0.49	平成30年度	
	大学院医学教育部 (修士課程) 医科学専攻	2	20	—	40	修士（医科学）、 修士（健康生命科学）	1.20	平成15年度	熊本市中央区本荘 1丁目1-1
	(博士課程) 医学専攻	4	88	—	352	博士（医学）、 博士（生命科学）、 博士（健康生命科学）	0.84	平成20年度	

既設 大学等 の 状 況	大学院保健学教育部 (博士前期課程) 保健学専攻	2	24	—	48	修士(保健学), 修士(看護学)	0.93	平成22年度	熊本市中央区九品 寺4丁目24-1
	(博士後期課程) 保健学専攻	3	6	—	18	博士(保健学), 博士(看護学)	0.88	平成22年度	
	大学院薬学教育部 (博士前期課程) 創薬・生命薬科学専攻	2	35	—	70	修士(薬科学), 修士(健康生命科学)	1.01	平成22年度	熊本市中央区大江 本町5-1
	(博士後期課程) 創薬・生命薬科学専攻	3	10	—	30	博士(薬科学), 博士(生命科学), 博士(健康生命科学)	1.26	平成24年度	
(博士課程) 医療薬学専攻	4	8	—	32	博士(薬学)	0.62	平成24年度		
<p>附属施設の概要</p> <p>名称：教育学部附属幼稚園 目的：附属学校は、教育基本法及び学校教育法に規定する教育又は保育を行うとともに、教育学部の教育計画に従って、次に掲げる事項を行うことを目的とする。 (1) 教育理論及び教育の実際に関する研究並びにその実証を行うこと。 (2) 教育学部学生の教育実習の実施及びその指導に当たること。 (3) 地方の教育に協力すること。 所在地：熊本県熊本市中央区城東町5番9号 設置年月：昭和24年5月 規模等：土地 4,632㎡ 建物 1,199㎡</p> <p>名称：教育学部附属小学校 目的：附属幼稚園に同じ 所在地：熊本県熊本市中央区京町本町5番12号 設置年月：昭和24年5月 規模等：土地 51,547㎡ 建物 7,282㎡</p> <p>名称：教育学部附属中学校 目的：附属幼稚園に同じ 所在地：熊本県熊本市中央区京町本町5番12号 設置年月：昭和24年5月 規模等：土地 51,547㎡ 建物 5,885㎡</p> <p>名称：教育学部附属特別支援学校 目的：附属幼稚園に同じ 所在地：熊本県熊本市中央区黒髪5丁目17番1号 設置年月：昭和40年4月 規模等：土地 26,375㎡ 建物 4,164㎡</p> <p>名称：病院 目的：診療を通して医学の教育及び研究に資することを目的とする。 所在地：熊本県熊本市中央区本荘1丁目1番1号 設置年月：昭和24年5月 規模等：土地 82,463㎡ 建物 111,388㎡</p>									

附属施設の概要

名称	大学院生命科学研究部附属グローバル天然物科学研究センター
目的	薬用植物資源を活用した教育及び研究を行い、薬学の視点に立った環境問題への取組を通して、薬学の発展を図ることを目的とする。
所在地	熊本県熊本市中央区大江本町5番1号
設置年月	平成22年4月
規模等	土地 51,264㎡ 建物 340㎡
名称	発生医学研究所
目的	発生学の視点から様々な生命現象を解明し、医学に貢献することを目指す発生医学の研究活動を、分子、細胞、組織、器官、個体へと連続する観点から、統合的に推進することを目的とする。
所在地	熊本県熊本市中央区本荘2丁目2番1号
設置年月	平成21年4月
規模等	土地 25,088㎡ 建物 6,293㎡
名称	産業ナノマテリアル研究所
目的	未来材料“二次元マテリアル”を核として理論から産業実装化を目指した世界に類のない研究所として、新たな研究領域への展開、および産業振興・地域活性化を推進することを目的とする。
所在地	熊本県熊本市中央区黒髪2丁目39番1号
設置年月	令和2年4月
規模等	土地 115,176㎡ 建物 4,356㎡
名称	ヒトレトロウイルス学共同研究センター
目的	世界的課題である難治性ウイルス（HIV-1、HTLV-1、HBV及びその他の関連するウイルスをいう。）感染症について、本学と鹿児島大学の強みを統合することで、両大学が有する資源を有効に活用し、感染病態の基礎研究を基に、感染予防と治癒を目指した世界的・全学的な研究及び教育の総合的推進を図ることを目的とする。
所在地	熊本県熊本市中央区本荘2丁目2番1号
設置年月	平成31年4月
規模等	土地 25,088㎡ 建物 2,165㎡
名称	大学院先導機構
目的	基礎科学と応用科学の有機的連携のもと、生命科学、自然科学、人文社会科学及び学際・複合・新領域の学問分野において先端的・先導的研究等を推進することにより、若手研究者の育成、新しい研究拠点、新研究センター、新しい大学院教育システム等を創出することを目的とする。
所在地	熊本県熊本市中央区黒髪2丁目39番1号
設置年月	平成19年4月
規模等	土地 115,176㎡ 建物 3,767㎡
名称	熊本創生推進機構
目的	熊本における地域のニーズ及び課題に応じ、本学の有する知的・人的資源を最適化及び還元するとともに、県内の産業文化振興、雇用創出及び地域志向の人材育成を図り、熊本の地方創生に資することを目的とする。
所在地	熊本県熊本市中央区黒髪2丁目39番1号
設置年月	平成29年4月
規模等	土地 115,176㎡ 建物 5,362㎡
名称	グローバル推進機構
目的	グローバル戦略の企画立案を行い、教育研究における国際交流を推進するとともに、グローバル人材の育成及び地域社会のグローバル化に貢献することを目的とする。
所在地	熊本県熊本市中央区黒髪2丁目40番1号
設置年月	平成27年3月
規模等	土地 169,619㎡ 建物 2,078㎡
名称	大学教育統括管理運営機構
目的	教養教育を含む学士課程教育及び大学院課程教育の理念及び目的が達成されるよう、大学教育を統括するとともに教養教育の円滑な運営・実施及び戦略的な入学者選抜の企画・立案を行うことを目的とする。
所在地	熊本県熊本市中央区黒髪2丁目40番1号
設置年月	平成28年6月
規模等	土地 169,619㎡ 建物 427㎡

附属施設の概要

<p>名称：先進軽金属材料国際研究機構 目的：富山大学と連携し、リソースの有効活用と相互補完によるマグネシウム・アルミニウム研究の強化、チタン研究の育成、マグネシウム・アルミニウム・チタンの融合研究の促進および軽金属モノづくり高度人材育成を図り、日本の科学技術と産業の発展に貢献することを目的とする。 所在地：熊本県熊本市中央区黒髪2丁目39番1号 設置年月：令和3年4月 規模等：土地 115,176㎡ 建物 2,431㎡</p>
<p>名称：国際先端医学研究機構 目的：国際的な先端医学研究、人材発掘及び人材育成を行い、本学の生命科学分野の基礎研究から臨床応用並びに国際レベルの研究力及び教育力の向上を図ることを目的とする。 所在地：熊本県熊本市中央区本荘2丁目2番1号 設置年月：平成27年4月 規模等：土地 25,088㎡ 建物 982㎡</p>
<p>名称：国際先端科学技術研究機構 目的：国際的な先端科学技術研究、人材発掘及び人材育成を行い、本学の自然科学分野の基礎研究から応用研究並びに国際レベルの研究力及び教育力の向上を図ることを目的とする。 所在地：熊本県熊本市中央区黒髪2丁目39番1号 設置年月：平成28年4月 規模等：土地 115,176㎡ 建物 779㎡</p>
<p>名称：総合情報統括センター 目的：熊本大学ICT戦略会議が定めたICT戦略の下、関連施策を実施するとともに、本学の情報教育、情報技術の研究開発及び部局等の情報化の支援を行うことを目的とする。 所在地：熊本県熊本市中央区黒髪2丁目39番1号 設置年月：平成26年5月 規模等：土地 115,176㎡ 建物 2,381㎡</p>
<p>名称：五高記念館 目的：本学及び旧制第五高等学校、旧制第五高等学校その他本学の沿革にある学校の発足以来の資料の充実を図るとともに、質の高い学芸員教育を行い、地域文化の発展・向上に寄与することを目的とする。 所在地：熊本県熊本市中央区黒髪2丁目40番1号 設置年月：平成18年12月 規模等：土地 169,619㎡ 建物 2,225㎡</p>
<p>名称：永青文庫研究センター 目的：永青文庫資料をはじめとする熊本藩関係資料の総合的な研究を通じて当該資料に立脚した拠点的研究を組織するとともに、文化行政機関等との連携によって地域文化振興に貢献することを目的とする。 所在地：熊本県熊本市中央区黒髪2丁目40番1号 設置年月：平成29年4月 規模等：土地 169,619㎡ 建物 117㎡</p>
<p>名称：教授システム学研究センター 目的：eラーニングによるeラーニング専門家養成を通じて、地域の人材育成、社会人の学び直しの充実を図ることを目的とする。 所在地：熊本県熊本市中央区黒髪2丁目40番1号 設置年月：平成29年4月 規模等：土地 169,619㎡ 建物 407㎡</p>
<p>名称：くまもと水循環・減災研究教育センター 目的：先進的な地下水循環、沿岸環境及び減災型社会システムに関する研究を推進することで、学生及び社会人の人材育成を行うとともに、その成果を国内外に発信・展開することを通じて地域と国際社会に貢献することを目的とする。 所在地：熊本県熊本市中央区黒髪2丁目39番1号 設置年月：平成29年4月 規模等：土地 115,176㎡ 建物 2,410㎡</p>

附属施設の概要	<p>名称：先進マグネシウム国際研究センター 目的：我が国のマグネシウム研究を牽引し、マグネシウム合金に関する世界的研究拠点として、地域のみならず、我が国さらには世界の科学技術の発展及び産業の活性化に貢献することを目的とする。 所在地：熊本県熊本市中央区黒髪2丁目39番1号 設置年月：平成23年12月 規模等：土地 115,176㎡ 建物 2,431㎡</p>
	<p>名称：生命資源研究・支援センター 目的：遺伝子改変動物その他の研究資源及びこれらの研究資源情報の利用等として、諸科学分野の教育研究の総合的推進に資することを目的とする。 所在地：熊本県熊本市中央区本荘2丁目2番1号 設置年月：平成15年4月 規模等：土地 25,088㎡ 建物 15,322㎡</p>
	<p>名称：環境安全センター 目的：環境管理及び安全管理に係る教育研究の推進及び啓発を図ることにより、良好な教育研究環境及び教育研究活動等における職員、学生等の安全を確保することを目的とする。 所在地：熊本県熊本市中央区黒髪2丁目40番1号 設置年月：平成18年4月 規模等：土地 169,619㎡ 建物 477㎡</p>
	<p>名称：埋蔵文化財調査センター 目的：本学に所在する遺跡を発掘調査するとともに、出土した埋蔵文化財を記録、研究、保存及び活用することを目的とする。 所在地：熊本県熊本市中央区黒髪2丁目39番1号 設置年月：平成23年10月 規模等：土地 115,176㎡ 建物 514㎡</p>
	<p>名称：保健センター 目的：学生及び職員の保健管理に関する専門的業務を一体的に行い、心身の健康の保持増進を図ることを目的とする。 所在地：熊本県熊本市中央区黒髪2丁目40番1号 設置年月：平成16年4月 規模等：土地 169,619㎡ 建物 579㎡</p>

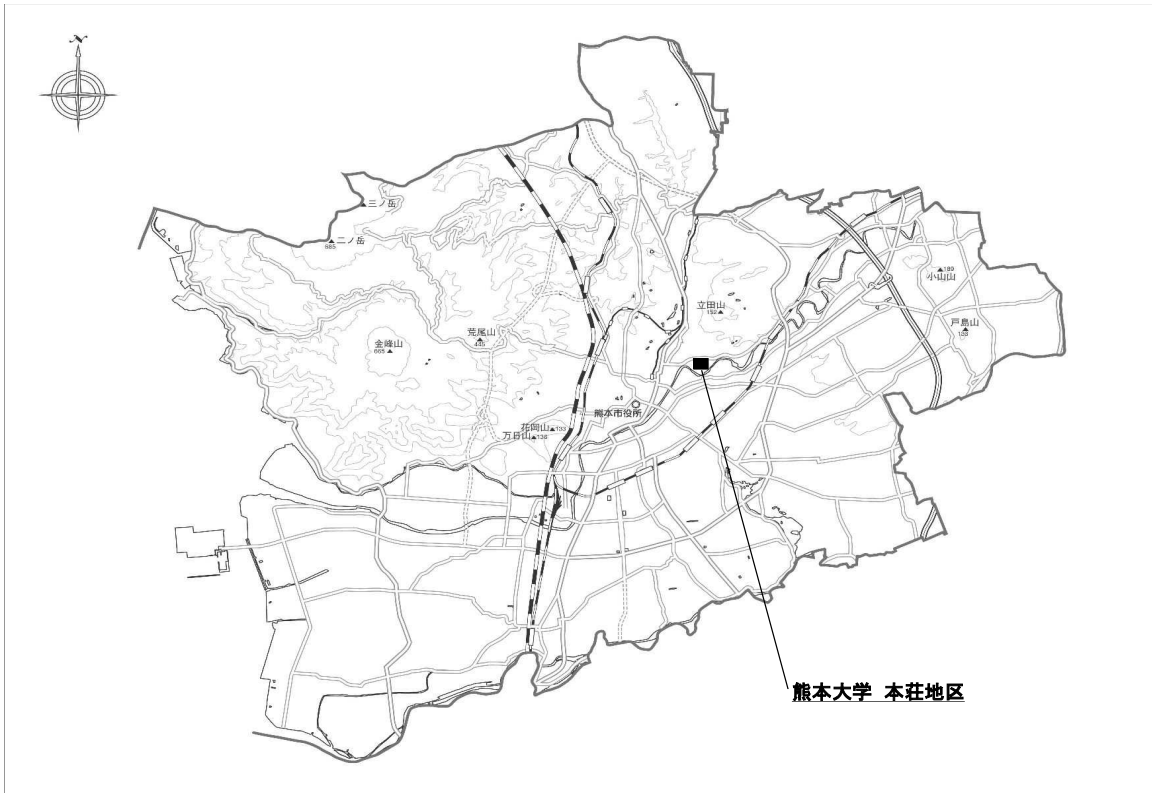
(注)

- 1 共同学科等の認可の申請及び届出の場合、「計画の区分」、「新設学部等の目的」、「新設学部等の概要」、「教育課程」及び「教員組織の概要」の「新設分」の欄に記入せず、斜線を引くこと。
- 2 「教員組織の概要」の「既設分」については、共同学科等に係る数を除いたものとする。
- 3 私立の大学の学部若しくは大学院の研究科又は短期大学の学科又は高等専門学校の収容定員に係る学則の変更の届出を行おうとする場合は、「教育課程」、「教室等」、「専任教員研究室」、「図書・設備」、「図書館」及び「体育館」の欄に記入せず、斜線を引くこと。
- 4 大学等の廃止の認可の申請又は届出を行おうとする場合は、「教育課程」、「校地等」、「校舎」、「教室等」、「専任教員研究室」、「図書・設備」、「図書館」、「体育館」及び「経費の見積もり及び維持方法の概要」の欄に記入せず、斜線を引くこと。
- 5 「教育課程」の欄の「実験・実習」には、実技も含むこと。
- 6 空欄には、「－」又は「該当なし」と記入すること。

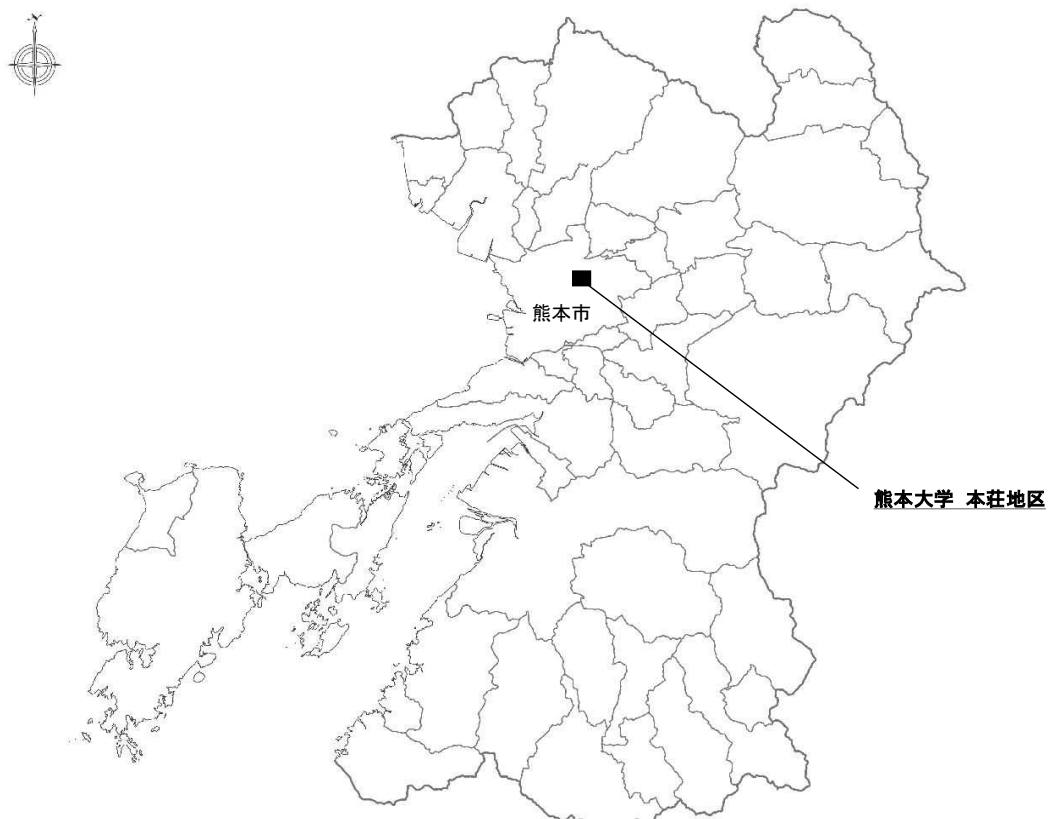
熊本大学 設置申請に係わる組織の移行表

2021年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	2022年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	変更の事由
熊本大学				熊本大学				
文学部				文学部				
総合人間学科	55	-	220	総合人間学科	55	-	220	
歴史学科	35	-	140	歴史学科	35	-	140	
文学科	50	-	200	文学科	50	-	200	
コミュニケーション情報学科	30	-	120	コミュニケーション情報学科	30	-	120	
		<small>3年次</small>				<small>3年次</small>		
(学部共通)	-	10	20	(学部共通)	-	10	20	
教育学部				教育学部				
小学校教員養成課程	110	-	440	学校教育教員養成課程	<u>220</u>	-	<u>880</u>	学部の学科の設置 入学定員変更(Δ10)
中学校教員養成課程	70	-	280			-		
特別支援教育教員養成課程	20	-	80			-		
養護教諭養成課程	30	-	120			-		
法学部				法学部				
		<small>3年次</small>				<small>3年次</small>		
法学科	210	10	860	法学科	210	10	860	
理学部				理学部				
理学科	200	-	800	理学科	200	-	800	
医学部				医学部				
医学科(6年制)	110	-	640	医学科(6年制)	110	-	<u>635</u>	医学部医学科臨時定員の 令和2から4年度までの増 員に伴う収容定員変更
		<small>3年次</small>				<small>3年次</small>		
保健学科	144	16	608	保健学科	144	16	608	
薬学部				薬学部				
薬学科(6年制)	55	-	330	薬学科(6年制)	55	-	330	
創薬・生命薬科学科	35	-	140	創薬・生命薬科学科	35	-	140	
工学部				工学部				
		<small>3年次</small>				<small>3年次</small>		
土木建築学科	124	10	516	土木建築学科	124	10	516	
機械数理工学科	109	10	456	機械数理工学科	109	10	456	
情報電気工学科	149	20	636	情報電気工学科	149	20	636	
材料・応用化学科	131	5	534	材料・応用化学科	131	5	534	
		<small>3年次</small>				<small>3年次</small>		
計	1,667	81	7,140	計	<u>1,657</u>	81	<u>7,095</u>	

熊本大学大学院 教育学研究科 教職実践開発専攻(P)	30	-	60	熊本大学大学院 教育学研究科 教職実践開発専攻(P)	30	-	60
社会文化科学教育部 法政・紛争解決学専攻(M)	14	-	25	社会文化科学教育部 法政・紛争解決学専攻(M)	14	-	25
熊本大学・マサチューセツ ツ州立大学ボストン校紛争 解決学国際連携専攻(M)	4	-	8	熊本大学・マサチューセツ ツ州立大学ボストン校紛争 解決学国際連携専攻(M)	4	-	8
現代社会人間学専攻(M)	18	-	36	現代社会人間学専攻(M)	18	-	36
文化学専攻(M)	18	-	36	文化学専攻(M)	18	-	36
教授システム学専攻(M)	15	-	30	教授システム学専攻(M)	15	-	30
人間・社会科学専攻(D)	6	-	18	人間・社会科学専攻(D)	6	-	18
文化学専攻(D)	6	-	18	文化学専攻(D)	6	-	18
教授システム学専攻(D)	3	-	9	教授システム学専攻(D)	3	-	9
自然科学教育部 理学専攻(M)	110	-	220	自然科学教育部 理学専攻(M)	110	-	220
土木建築学専攻(M)	75	-	150	土木建築学専攻(M)	75	-	150
機械数理工学専攻(M)	65	-	130	機械数理工学専攻(M)	65	-	130
情報電気工学専攻(M)	103	-	206	情報電気工学専攻(M)	103	-	206
材料・応用化学専攻(M)	90	-	180	材料・応用化学専攻(M)	90	-	180
理学専攻(D)	12	-	36	理学専攻(D)	12	-	36
工学専攻(D)	46	-	138	工学専攻(D)	46	-	138
医学教育部 医科学専攻(M)	20	-	40	医学教育部 医科学専攻(M)	20	-	40
医学専攻(4年制D)	88	-	352	医学専攻(4年制D)	88	-	352
保健学教育部 保健学専攻(M)	24	-	48	保健学教育部 保健学専攻(M)	24	-	48
保健学専攻(D)	6	-	18	保健学専攻(D)	6	-	18
薬学教育部 創薬・生命薬科学専攻(M)	35	-	70	薬学教育部 創薬・生命薬科学専攻(M)	35	-	70
創薬・生命薬科学専攻(D)	10	-	30	創薬・生命薬科学専攻(D)	10	-	30
医療薬学専攻(4年制D)	8	-	32	医療薬学専攻(4年制D)	8	-	32
計	806	-	1,890	計	806	-	1,890



— 熊本市 —



— 熊本県 —



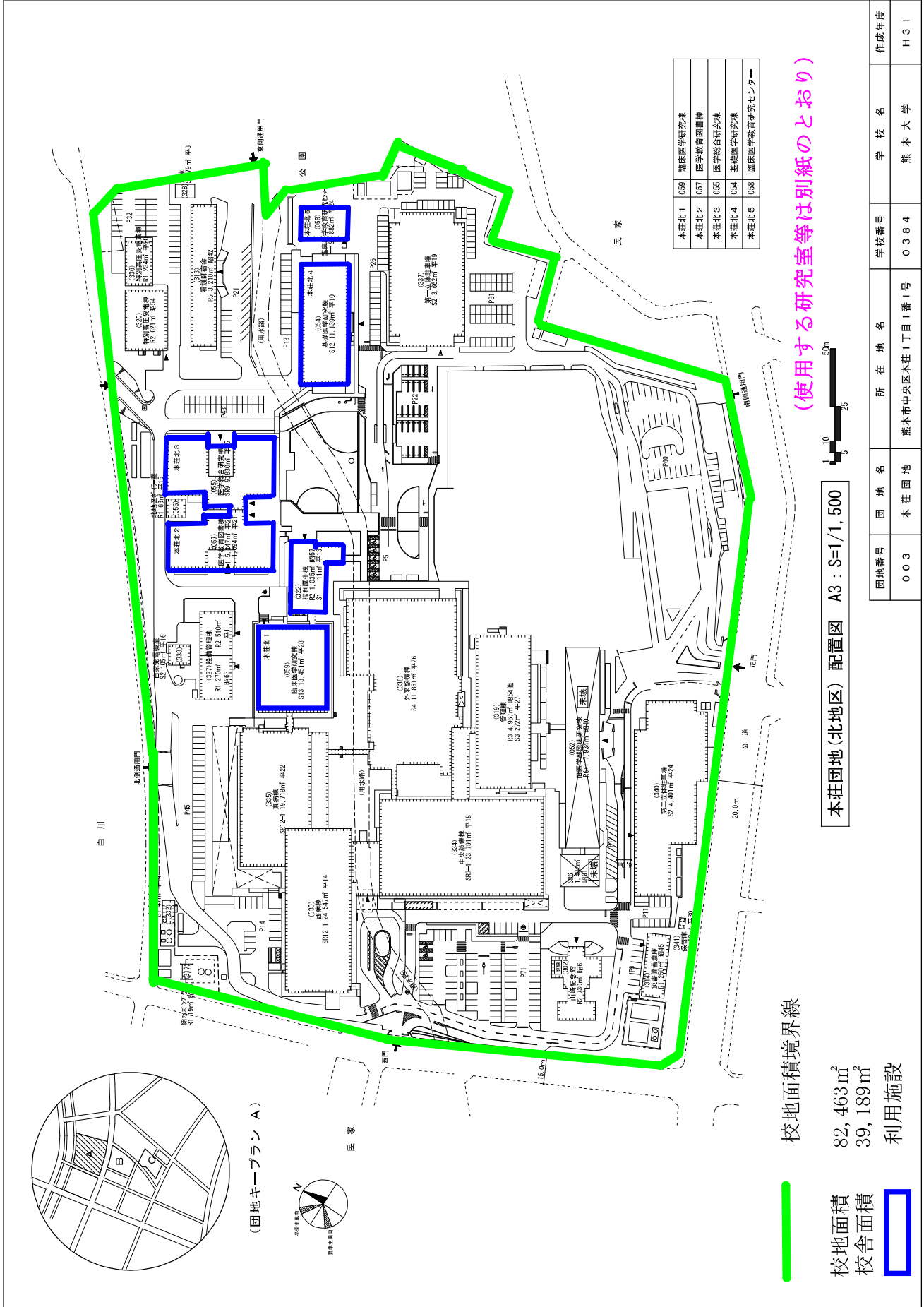
熊本大学本荘校地（本荘団地（北地区））

〒860-8556 熊本市中央区本荘1丁目1番1号

<交通アクセス>

・バス利用の場合	JR 熊本駅より約10分「大学病院前」下車
・電車利用の場合	JR 南熊本駅より徒歩約15分

配置図



○熊本大学学則

(平成16年4月1日学則第2号)

改正	平成17年3月24日学則第2号	平成17年12月22日学則第4号	平成18年2月23日学則第2号
	平成18年9月7日学則第6号	平成18年10月26日学則第9号	平成18年10月26日学則第10号
	平成18年11月30日学則第12号	平成19年2月22日学則第3号	平成19年3月22日学則第5号
	平成19年9月27日学則第7号	平成20年1月24日学則第2号	平成20年3月27日学則第5号
	平成20年9月25日学則第6号	平成20年11月27日学則第8号	平成21年3月26日学則第2号
	平成21年12月24日学則第5号	平成22年2月24日学則第1号	平成22年3月24日学則第4号
	平成22年6月24日学則第7号	平成22年9月30日学則第9号	平成23年2月24日学則第1号
	平成23年5月26日学則第4号	平成23年7月28日学則第6号	平成23年9月22日学則第8号
	平成23年11月24日学則第10号	平成24年3月22日学則第2号	平成24年11月29日学則第6号
	平成25年2月28日学則第2号	平成25年7月25日学則第5号	平成26年4月25日学則第3号
	平成26年11月27日学則第6号	平成27年1月22日学則第1号	平成27年2月27日学則第4号
	平成27年3月26日学則第6号	平成27年6月25日学則第9号	平成28年1月28日学則第2号
	平成28年2月24日学則第4号	平成28年3月24日学則第6号	平成28年5月26日学則第8号
	平成28年9月23日学則第9号	平成29年2月23日学則第2号	平成29年11月24日学則第5号
	平成30年3月22日学則第2号	平成30年4月26日学則第5号	平成30年9月27日学則第6号
	平成30年12月27日学則第9号	平成31年2月28日学則第2号	平成31年3月28日学則第5号
	令和元年5月7日学則第7号	令和2年2月27日学則第2号	令和2年3月26日学則第4号
	令和2年9月24日学則第5号	令和2年10月2日学則第7号	令和3年2月24日学則第2号
	令和3年4月22日学則第4号		

目次

第1章 総則

- 第1節 目的(第1条)
- 第2節 教育研究組織等(第2条―第14条)
- 第3節 技術支援組織(第14条の2)
- 第4節 職員組織(第15条・第16条)

第2章 学部通則

- 第1節 修業年限、在学期間、学年、学期及び休業日(第17条―第22条)
- 第2節 入学(第23条―第33条)
- 第3節 教育課程の編成、履修方法及び単位認定等(第34条―第46条)
- 第4節 休学、転部、転科、転課程、転学、留学、退学及び除籍(第47条―第55条)
- 第5節 健康管理(第56条・第57条)
- 第6節 卒業(第58条―第62条)
- 第7節 研究生、科目等履修生、特別聴講学生及び外国人留学生(第63条―第76条)
- 第8節 授業料等(第77条―第87条)
- 第9節 賞罰(第88条・第89条)
- 第10節 寄宿舍(第90条)
- 第11節 特別の課程(第91条)

附則

第1章 総則

第1節 目的

(教育研究上の目的)

第1条 熊本大学(以下「本学」という。)は、教育基本法(平成18年法律第120号)及び学校教育法(昭和22年法律第26号。以下「学教法」という。)の精神に則り、総合大学として、知の創造、継承及び発展に努め、知的、道徳的及び応用的能力を

備えた人材を育成することにより、地域と国際社会に貢献することを目的とする。

- 2 学部の教育研究上の目的は、それぞれの学部の規則で定め、公表するものとする。

第2節 教育研究組織等

(学部、学科、課程及び収容定員)

第2条 本学に、文学部、教育学部、法学部、理学部、医学部、薬学部及び工学部を置き、学科及び課程は、次のとおりとする。

文学部 総合人間学科 歴史学科 文学科 コミュニケーション情報学科

教育学部 小学校教員養成課程 中学校教員養成課程 特別支援教育教員養成課程 養護教諭養成課程

法学部 法学科

理学部 理学科

医学部 医学科 保健学科

薬学部 薬学科 創薬・生命薬科学科

工学部 土木建築学科 機械数理工学科 情報電気工学科 材料・応用化学科

- 2 収容定員は、別に定める。

- 3 学部に関する規則は、別に定める。

第3条 削除

(専攻科)

第4条 本学に、特別支援教育特別専攻科を置く。

- 2 専攻科に関する規則は、別に定める。

(別科)

第5条 本学に、養護教諭特別別科を置く。

- 2 別科に関する規則は、別に定める。

(大学院)

第6条 本学に、大学院を置き、次の研究科並びに研究部及び教育部を置く。

教育学研究科

人文社会科学研究部

先端科学研究部

生命科学研究部

社会文化科学教育部

自然科学教育部

医学教育部

保健学教育部

薬学教育部

- 2 大学院に関する規則は、別に定める。

(研究所)

第6条の2 本学に、次の研究所を置く。

発生医学研究所

産業ナノマテリアル研究所

- 2 研究所に関する規則は、別に定める。

(病院)

第6条の3 本学に、病院を置く。

- 2 病院に関する規則は、別に定める。

(附属学校)

第7条 本学に、教育学部附属の次の学校を置く。

附属幼稚園 附属小学校 附属中学校 附属特別支援学校

2 附属学校に関する規則は、別に定める。

(学部附属の教育研究施設等)

第8条 本学に、次の学部、研究部、教育部又は研究所に附属する教育施設及び研究施設を置く。

文学部	漱石・八雲教育研究センター
教育学部	教育実践総合センター
工学部	工学研究機器センター グローバル人材基礎教育センター

大学院人文社会科学 研究部	国際人文社会科学 研究センター
------------------	--------------------

大学院先端科学研究部	イノベーション研究教育センター 生物環境農学国際 研究センター
------------	------------------------------------

大学院生命科学研究部	エコチル調査南九州・沖縄ユニットセンター 臨床医学 教育研究センター 健康長寿代謝制御研究センター グ ローバル天然物科学研究センター 生体情報研究センタ ー
------------	--

大学院自然科学教育部	総合科学技術共同教育センター
発生医学研究所	臓器再建研究センター

2 教育施設及び研究施設に関する規則は、別に定める。

(大学院先導機構)

第8条の2 本学に、大学院先導機構を置く。

2 大学院先導機構に関する規則は、別に定める。

(熊本創生推進機構)

第8条の3 本学に、熊本創生推進機構を置く。

2 熊本創生推進機構に関する規則は、別に定める。

(グローバル推進機構)

第8条の4 本学に、グローバル推進機構を置く。

2 グローバル推進機構に関する規則は、別に定める。

(大学教育統括管理運営機構)

第8条の5 本学に、大学教育統括管理運営機構を置く。

2 本学に、大学教育統括管理運営機構に附属する次の教育施設及び研究施設を置く。

数理科学総合教育センター
多言語文化総合教育センター

3 大学教育統括管理運営機構及び附属施設に関する規則は、別に定める。

(先進軽金属材料国際研究機構)

第8条の6 本学に、先進軽金属材料国際研究機構を置く。

2 先進軽金属材料国際研究機構に関する規則は、別に定める。

(研究機構)

第8条の7 本学に、次の研究機構を置く。

国際先端医学研究機構
国際先端科学技術研究機構

2 研究機構に関する規則は、別に定める。

(学内共同教育研究施設)

第9条 本学に、次の学内共同教育研究施設を置く。

総合情報統括センター

五高記念館

永青文庫研究センター

教授システム学研究センター

くまもと水循環・減災研究教育センター

先進マグネシウム国際研究センター

生命資源研究・支援センター

環境安全センター

埋蔵文化財調査センター

2 学内共同教育研究施設に関する規則は、別に定める。

(ヒトレトロウイルス学共同研究センター)

第10条 本学に、ヒトレトロウイルス学共同研究センターを置く。

2 ヒトレトロウイルス学共同研究センターに関する規則は、別に定める。

(附属図書館)

第11条 本学に、附属図書館を置く。

2 附属図書館に関する規則は、別に定める。

(保健センター)

第12条 本学に、保健センターを置く。

2 保健センターに関する規則は、別に定める。

第13条 削除

(その他の組織)

第14条 本学に、本節に定めるもののほか、必要な教育研究組織等を置くことができる。

第3節 技術支援組織

第14条の2 本学に、技術部を置く。

2 技術部に関する規則は、別に定める。

第4節 職員組織

(職員)

第15条 本学に、学長及び副学長を置き、学部に学部長を、研究科(研究部及び教育部を含む。第6項において同じ。)に研究科長(研究部にあつては研究部長、教育部にあつては教育部長。第6項において同じ。)を置く。

2 本学に教授、准教授、専任講師、助教及び助手を置く。

3 前2項に定めるもののほか、本学に事務職員、技術職員、医療職員その他必要な職員を置く。

4 学長は、校務をつかさどり、所属職員を統督する。

5 副学長は、学長を助け、命を受けて校務をつかさどる。

6 学部長及び研究科長は、学部又は研究科に関する校務をつかさどる。

7 教授は、専攻分野について、教育上、研究上又は実務上の特に優れた知識、能力及び実績を有する者であつて、学生を教授し、その研究を指導し、又は研究に従事する。

8 准教授は、専攻分野について、教育上、研究上又は実務上の優れた知識、能力及び実績を有する者であつて、学生を教授し、その研究を指導し、又は研究に従

事する。

- 9 専任講師は、教授又は准教授に準ずる職務に従事する。
 - 10 助教は、専攻分野について、教育上、研究上又は実務上の知識及び能力を有する者であつて、学生を教授し、その研究を指導し、又は研究に従事する。
 - 11 助手は、その所属する組織における教育研究の円滑な実施に必要な業務に従事する。
 - 12 第3項に規定する職員の職務については、別に定める。
- 第16条 附属学校に、校長、教頭、教諭、養護教諭及び事務職員を置く。
- 2 前項に定めるもののほか、附属学校に主幹教諭、栄養教諭その他必要な職員を置くことができる。
 - 3 校長は、校務をつかさどり、所属職員を監督する。
 - 4 教頭は、校長を助け、校務を整理し、及び必要に応じ児童、生徒又は幼児(以下「児童等」という。)の教育をつかさどる。
 - 5 教頭は、校長に事故があるときはその職務を代理し、校長が欠けたときはその職務を行う。
 - 6 主幹教諭は、校長及び教頭を助け、命を受けて校務の一部を整理し、並びに児童等の教育をつかさどる。
 - 7 教諭は、児童等の教育をつかさどる。
 - 8 養護教諭は、児童等の養護をつかさどる。
 - 9 栄養教諭は、児童等の栄養の指導及び管理をつかさどる。

第2章 学部通則

第1節 修業年限、在学期間、学年、学期及び休業日

(修業年限)

第17条 学部の修業年限は、4年とする。ただし、医学部医学科及び薬学部薬学科においては6年とする。

(長期にわたる教育課程の履修)

第17条の2 学部は、その定めるところにより、学生が、職業を有している等の事情により、修業年限を超えて一定の期間にわたり計画的に教育課程を履修し卒業することを希望する旨を申し出たときは、その計画的な履修を認めることができる。

(入学前に一定の単位を修得した者の修業年限の通算)

第18条 第69条に定める科目等履修生及び第91条に定める特別の課程履修生として、本学で一定の単位を修得した者が、本学に入学する場合において、当該単位の修得により本学の教育課程の一部を履修したと認められるときは、その単位数その他の事項を勘案して、相当期間を修業年限に通算することができる。ただし、その期間は、修業年限の2分の1を超えてはならない。

(在学期間)

第19条 在学期間は、修業年限の2倍の年数を超えることができない。

2 前項の規定にかかわらず、理学部及び工学部の在学期間は、6年を超えることができない。

3 第17条の2の規定により長期にわたる教育課程の履修が認められた学生の在学期間については、学部規則の定めるところによる。

(学年)

第20条 学年は、4月1日に始まり、翌年3月31日に終わる。

(学期)

第21条 学年を次の2期に分ける。

前学期 4月1日から9月30日まで

後学期 10月1日から翌年3月31日まで

2 前項に規定する学期の期間は、前半及び後半に分けることができる。

3 前2項に規定する学期の区分及び期間は、学部の事情により、学長の承認を得て変更することができる。

(休業日)

第22条 定期休業日は、次のとおりとする。

(1) 国民の祝日に関する法律(昭和23年法律第178号)に定める休日

(2) 日曜日及び土曜日

(3) 開学記念日 11月1日

(4) 春季休業 4月1日から4月3日まで

(5) 夏季休業 8月11日から9月30日まで

(6) 冬季休業 12月25日から翌年1月10日まで

2 臨時休業日は、必要に応じて学長がその都度定める。

3 春季休業、夏季休業及び冬季休業については、学部の事情により、学長の承認を得て変更することができる。

第2節 入学

(入学時期)

第23条 入学の時期は、学年又は学期の始めとする。

(入学資格)

第24条 入学資格者は、学教法第90条第1項及び学校教育法施行規則(昭和22年文部省令第11号。以下「学教法施行規則」という。)第150条の定めるところにより、次の各号のいずれかに該当する者でなければならない。

(1) 高等学校又は中等教育学校を卒業した者

(2) 通常の課程による12年の学校教育を修了した者(通常の課程以外の課程により、これに相当する学校教育を修了した者を含む。)

(3) 外国において、学校教育における12年の課程を修了した者又はこれに準ずる者で文部科学大臣の指定したもの

(4) 文部科学大臣が高等学校の課程と同等の課程を有するものとして認定した在外教育施設の当該課程を修了した者

(5) 専修学校の高等課程(修業年限が3年以上であることその他の文部科学大臣が定める基準を満たすものに限る。)で文部科学大臣が別に指定するものを文部科学大臣が定める日以後に修了した者

(6) 文部科学大臣の指定した者

(7) 高等学校卒業程度認定試験規則(平成17年文部科学省令第1号)により文部科学大臣の行う高等学校卒業程度認定試験に合格した者(同規則附則第2条の規定による廃止前の大学入学資格検定規程(昭和26年文部省令第13号)による大学入学資格検定に合格した者を含む。)

(8) その他本学において、相当の年齢に達し、高等学校を卒業した者と同等以上の学力があると認められた者

(入学志願手続)

第25条 入学志願者は、所定の検定料を添え、別に定める志願手続により願い出なければならない。

(入学者の選考)

第26条 入学志願者については、選考を行う。

2 前項の選考方法については、別に定める。

(合格者の決定)

第27条 前条の選考による合格者の決定は、教授会の意見を聴いて、学長が行う。

(入学の許可)

第28条 合格者が、指定の期日までに、所定の入学料を納付したときは、学長は、その入学を許可する。

2 合格者が、入学料の免除又は徴収猶予を申請し、受理された場合は、前項の規定にかかわらず、学長は、その入学を許可する。

(入学の手続)

第29条 入学を許可された者は、指定の期日までに、所定の誓約書及び保証書を提出しなければならない。

2 入学を許可された者が、正当な理由がなくて、指定の期日までに前項の手続をとらないときは、入学の許可を取り消すことがある。

(再入学・編入学・転入学)

第30条 次の各号のいずれかに該当する者が、再入学、編入学又は転入学を志願するときは、教育上支障のない場合に限り、別に定めるところにより、選考の上、学長は、入学を許可することができる。

(1) 願いにより退学した者又は第55条第1号、第4号、第5号若しくは第6号に該当し学籍を除かれた者で、退学又は除籍後2年以内に再入学を願い出たもの

(2) 学教法施行規則第155条第1項第7号の規定により、医学を履修する博士課程に入学した者で同課程を修了し、又は単位取得退学後若しくは願いによる退学後、速やかに医学部へ再入学を願い出たもの

(3) 短期大学又は高等専門学校を卒業した者で、編入学を願い出たもの

(4) 専修学校の専門課程(修業年限が2年以上であることその他の文部科学大臣の定める基準を満たすものに限る。)を修了した者(学教法第90条第1項に規定する者に限る。)で編入学を願い出たもの

(5) 高等学校、中等教育学校の後期課程又は特別支援学校の高等部の専攻科の課程(修業年限が2年以上であることその他の文部科学大臣の定める基準を満たすものに限る。)を修了した者(学教法第90条第1項に規定する者に限る。)で、編入学を願い出たもの

(6) 大学を卒業した者で、編入学を願い出たもの

(7) 学教法第104条第4項の規定により学士の学位を授与された者で編入学を願い出たもの

(8) 大学に2年以上在学し、かつ、所定の単位を修得し、願いにより退学した者で、編入学を願い出たもの

(9) 外国において、学校教育における14年の課程を修了した者で編入学を願い出たもの

(10) 外国の短期大学を卒業した者又は外国の短期大学の課程を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって、文部科学大臣が別に指定するものの当該課程を我が国において修了した者(学教法第90条第1項に規定する者に限る。)で、編入学を願い出たもの

(11) 学教法施行規則附則第7条に規定する従前の規定による学校の課程を修了し、又は卒業した者で、編入学を願い出たもの

(12) 他の大学の学生で、転入学を願い出たもの

2 前項により入学を許可された者の在学年数及び既修得単位の認定は、教授会において行う。

(第3年次編入学)

第31条 第3年次に編入学を志願する者があるときは、別に定めるところにより、選考の上、学長は、入学を許可する。

2 前項により入学を許可された者の既修得単位の認定は、教授会において行う。

(再入学、編入学又は転入学を許可された者の在学期間)

第32条 前2条により入学を許可された者の在学期間は、第19条の規定にかかわらず、在学年数の2倍を超えることができない。

2 前項の規定にかかわらず、第19条第2項の規定により、修業年限の2倍に満たない在学期間を定める学部にあつては、学部規則の定めるところによる。

(適用規定)

第33条 第23条、第25条及び第27条から第29条までの規定は、第30条及び第31条により入学する者に適用する。

第3節 教育課程の編成、履修方法及び単位認定等

(教育課程の編成方針)

第34条 各学部は、学部及び学科又は課程等の教育上の目的を達成するために必要な授業科目を自ら開設し、教養教育に関する授業科目及び必要に応じ他の学部が開設する授業科目を含めて体系的に教育課程を編成するものとする。

2 教育課程の編成に当たっては、学部等の専攻に係る専門の学芸を教授するとともに、幅広く深い教養及び総合的な判断力を培い、豊かな人間性を涵養するよう適切に配慮しなければならない。

3 教養教育に関する授業は、全学協力の下に大学教育統括管理運営機構が行う。

(教育課程の編成方法等)

第35条 本学の教育課程は、リベラルアーツ科目、現代教養科目、Multidisciplinary Studies、基礎科目、キャリア科目及び開放科目からなる教養教育並びに専門基礎科目及び専門科目からなる専門教育により編成する。

2 教養教育及び専門教育の授業科目は、必修科目、選択科目及び自由科目に区分し、これを各年次に適切に配当するものとする。

3 第1項の授業は、文部科学大臣が定めるところにより、多様なメディアを高度に利用して、当該授業を行う教室等以外の場所で履修させることができる。

4 第1項の授業は、外国において履修させることができる。前項の規定により、多様なメディアを高度に利用して、当該授業を行う教室等以外の場所で履修させる場合についても、同様とする。

(履修方法)

第36条 各学部の学生は、当該学部所定の教育課程を履修しなければならない。

2 教育課程の授業科目、単位及び履修方法は、熊本大学教養教育履修規則(平成16年4月1日制定)及び学部規則の定めるところによる。

(履修科目の登録の上限)

第37条 学部は、学生が各年次にわたって適切に授業科目を履修するため、卒業の要件として学生が修得すべき単位数について、学生が1年間又は1学期に履修科目として登録することができる単位数の上限を定めるよう努めなければならない。

2 学部は、その定めるところにより、所定の単位を優れた成績をもって修得した学生については、前項に定める上限を超えて履修科目の登録を認めることができる。

(授業の聴講等)

第38条 授業の聴講等は、所定の手続を経なければならない。

2 他の学部の授業の聴講等には、特に規定する場合を除き、所属学部長及び当該学部長の承認を受けなければならない。

(大学院授業科目の履修)

第38条の2 学生が、本学大学院へ入学を希望するときは、学部と大学院を連携させる一貫した教育プログラムに基づき、本学大学院の研究科又は教育部の授業科目を履修することを認めることができる。

2 前項の研究科又は教育部の授業科目の履修には、所属学部長及び当該研究科又は教育部の長の承認を受けなければならない。

3 前2項に関し必要な事項は、別に定める。

(単位の計算方法)

第39条 授業科目の単位の計算方法は、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準とし、授業の方法に応じ、次の基準によるものとする。

(1) 講義及び演習については、15時間から30時間までの範囲で別に定める時間の授業をもって1単位とする。

(2) 実験、実習及び実技については、30時間から45時間までの範囲で別に定める時間の授業をもって1単位とする。

2 学部が、一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合の単位数を計算するに当たっては、その組合せに応じ、前項各号に規定する基準を考慮して学部が定める時間の授業をもって1単位とする。

3 前2項の規定にかかわらず、卒業論文、卒業研究及び卒業制作等の授業科目については、これらの学修の成果を評価して単位を与えることが適切と認められる場合には、これらに必要な学修等を考慮して、単位数を定めることができる。

(成績評価基準等の明示等)

第39条の2 学部は、学生に対して、授業の方法及び内容並びに1年間の授業の計画をあらかじめ明示するものとする。

2 学部は、学修の成果に係る評価及び卒業の認定に当たっては、客観性及び厳格性を確保するため、学生に対してその基準をあらかじめ明示するとともに、当該基準に従って適切に行うものとする。

(単位の授与)

第40条 一つの授業科目を履修した者には、学力試験及び出席状況その他によって認定の上、単位を与える。

(メディアを利用して行う授業による修得単位)

第41条 第35条第3項及び第4項の授業方法により修得した単位は、合わせて60単位を超えない範囲で卒業に必要な単位の中に算入することができる。ただし、124単位を超える単位数を卒業要件とする学部にあつては、別に定める。

2 第43条から第45条までの規定により修得した単位数のうち、前項の授業方法により修得した単位は、同項に定める単位数の中に算入するものとする。

(1年間の授業期間)

第42条 1年間の授業を行う期間は、定期試験等の期間を含め、35週にわたることを原則とする。

(他の大学等における授業科目の履修等)

第43条 教育上有益と認めるときは、学生が他の大学(外国の大学を含む。)又は短期大学(外国の短期大学を含む。)において履修した授業科目について修得した単位を本学における授業科目の履修により修得したものとみなすことができる。休学期間中の履修についても、同様とする。

- 2 前項の規定により学生が修得した単位は、60単位を超えない範囲で本学における授業科目の履修により修得したものとみなすことができる。
- 3 前2項の規定は、学生が外国の大学又は短期大学が行う通信教育における授業科目を我が国において履修する場合及び外国の大学又は短期大学の教育課程を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であつて、文部科学大臣が別に指定するものの当該教育課程における授業科目を我が国において履修する場合について準用する。
- 4 前3項に関し必要な事項は、別に定める。
(大学以外の教育施設等における学修)

第44条 教育上有益と認めるときは、学生が行う短期大学又は高等専門学校の専攻科における学修その他文部科学大臣が別に定める学修を、本学における授業科目の履修とみなし、別に定めるところにより単位を与えることができる。

- 2 前項により与えることができる単位数は、前条第2項及び第3項により本学において修得したものとみなす単位数と合わせて60単位を超えないものとする。
(入学前の既修得単位の取扱い等)

第45条 教育上有益と認めるときは、学生が本学に入学する前に大学(外国の大学を含む。)又は短期大学(外国の短期大学を含む。)において履修した単位(大学設置基準(昭和31年文部省令第28号)第31条第1項及び第2項の規定により修得した単位を含む。)を本学に入学した後の本学の授業科目の履修により修得したものとみなすことができる。

- 2 教育上有益と認めるときは、学生が本学に入学する前に行った前条第1項に規定する大学以外の教育施設等における学修を、本学に入学した後の本学の授業科目の履修とみなし、別に定めるところにより単位を与えることができる。
- 3 前2項の規定により修得したものとみなし、又は与えることのできる単位数は、編入学、転学等の場合を除き、本学において修得した単位以外のものについては、60単位を超えないものとする。

第46条 前3条により修得したものとみなし、又は与えることのできる単位数は、それぞれに規定する単位数にかかわらず、合わせて60単位を超えないものとする。

- 2 前3条の規定による単位の認定は、教授会において行う。

第4節 休学、転部、転科、転課程、転学、留学、退学及び除籍

(休学)

第47条 疾病その他やむを得ない理由により、2か月以上修学することができない者は、所定の休学願により、学部長を経て、学長に休学を願い出なければならない。ただし、疾病のため休学する場合は、医師の診断書を添えるものとする。

- 2 前項の場合、学長は、その学期又は学年に限り、これを許可することができる。

第48条 疾病その他の理由により、修学することが適当でないと認められる者に対しては、学長は、休学を命ずることができる。

(休学期間)

第49条 休学は、更新することができる。ただし、その期間は、通算して修業年限

を超えることができない。

2 第30条及び第31条により入学を許可された者並びに第51条により転部、転科又は転課程(以下「転部等」という。)を許可された者の休学期間は、前項ただし書の規定にかかわらず、通算して在学年数に相当する年数を超えることができない。

3 休学期間は、在学期間に算入しない。

(復学)

第50条 休学期間中に復学しようとする者は、所定の復学願により、学部長を経て、学長に願い出なければならない。ただし、疾病のため休学していた場合は、医師の診断書を添えるものとする。

2 前項の場合、学長は、これを許可する。

3 休学期間を満了して復学する場合も、期間満了1か月前に、第1項に準じて願い出なければならない。

(転部、転科及び転課程)

第51条 転部等を志願する者があるときは、教育上支障のない場合に限り、別に定めるところにより、学長が許可する。

2 前項により転部等を許可された者の在学年数及び既修得単位の認定は、転部等後の学部の教授会において行う。

3 第1項により転部等を許可された者の在学期間は、第19条第1項の規定にかかわらず、在学年数の2倍を超えることができない。ただし、修業年限の2倍に満たない在学期間を定める学部にあつては、学部規則の定めるところによる。

(転学)

第52条 他の大学へ転学しようとする者は、所定の転学願により、学部長を経て、学長に願い出なければならない。

2 前項の場合、学長は、これを許可する。

(留学)

第53条 外国の大学又は短期大学で学修するため留学を志願する者は、所定の留学願により、学部長を経て、学長に願い出なければならない。

2 前項の場合、学長は、これを許可する。

3 留学の期間は、第17条の修業年限に含まれるものとする。

(願いによる退学)

第54条 退学しようとする者は、所定の退学願により、学部長を経て、学長に願い出なければならない。ただし、疾病のため退学する場合は、医師の診断書を添えるものとする。

2 前項の場合、学長は、これを許可する。

(除籍)

第55条 次の各号のいずれかに該当する者は、学部長の申し出により、学長がこれを除籍する。

(1) 行方不明の届出のあった者

(2) 第19条、第32条及び第51条第3項に規定する期間を超えた者

(3) 第49条第1項ただし書及び第2項に規定する期間を超えた者

(4) 納付すべき入学金を指定の期日までに納付しない者

(5) 授業料の納付を怠り督促をしても納付しない者

(6) 正当な理由がなくて欠席が長期にわたる者

(7) 成業の見込がないと認められる者

第5節 健康管理

(健康診断)

第56条 学生は、毎年定期及び臨時の健康診断を受けなければならない。

(健康管理上の諸処置)

第57条 前条の健康診断のほか、学校保健安全法(昭和33年法律第56号)その他の法令に基づき、本学の指示する予防接種又は諸種の検査等を受けなければならない。

2 学長は、学生の健康管理の必要に応じ、集団生活に不適當な者及び学業の履修が困難と判定される者に対して治療を命じ又は出席を停止させることができる。

第6節 卒業

(卒業の要件)

第58条 卒業の要件は、本学に、第17条に規定する年限以上在学し、かつ、学部所定の教育課程を履修し、卒業に必要な単位を修得しなければならない。

(早期卒業)

第59条 前条の規定にかかわらず、本学の学生(医学及び臨床に係る実践的な能力を培うことを主たる目的とする薬学を履修する課程に在学する者を除く。)で本学に、3年以上在学したもの(これに準ずるものとして文部科学大臣が定める者を含む。)が卒業に必要な単位を優秀な成績で修得したと認める場合には、その卒業を認めることができる。

(学位の授与)

第60条 卒業者には、熊本大学学位規則(平成16年4月1日制定)の定めるところにより、学士の学位を授与する。

(卒業の認定)

第61条 卒業の認定は、教授会の意見を聴いて、学年又は学期の終わりに学長が行う。

2 前項の規定にかかわらず、単位未修得等のため、卒業の認定を受けることができなかった者については、次学期中にこれを行うことができる。

3 前項の取扱いについては、別に定める。

(教育職員の免許状授与の所要資格の取得)

第62条 教育職員免許法(昭和24年法律第147号)に規定する教育職員の免許状授与の所要資格の取得については、学部規則の定めるところによる。

第7節 研究生、科目等履修生、特別聴講学生及び外国人留学生

(研究生)

第63条 本学において、特殊の専門事項について研究しようとする者がいるときは、学部の授業、研究に支障のない限り、選考の上、研究生として入学を許可することがある。

2 入学の時期は、学年又は学期の始めとする。ただし、特別の事情がある場合は、学期の中途とすることがある。

第64条 研究生として入学を許可する者は、次の各号のいずれかに該当する資格を有する者でなければならない。

(1) 大学を卒業した者(短期大学を含む。)

(2) 旧高等学校令による高等学校及び旧専門学校令による専門学校を卒業した者

(3) 教授会で適當であると認めた者

第65条 研究生として入学を志願する者は、入学願書に研究事項、研究期間及び履

歴等を記載し、所定の検定料を添え、学長に願い出なければならない。

第66条 研究生の在学期間は、原則として1年とする。ただし、研究生が研究の都合により在学期間の更新を願い出たときは、これを許可することがある。

第67条 研究生は、研究事項について指導教員の指導のもとに研究を行うものとする。

2 研究生は、指導教員及び授業担当教員の承認を経て、研究に直接関係のある授業に出席することができる。

第68条 研究生は、研究期間が終了したとき又は研究を終了したときは、指導教員を経て、研究成果報告書を学部長に提出しなければならない。

(科目等履修生)

第69条 本学において、一又は複数の授業科目を選んで履修しようとする者があるときは、授業に支障のない限り、選考の上、科目等履修生として入学を許可することがある。

2 科目等履修生に関する規則は、別に定める。

第70条から第72条まで 削除

(特別聴講学生)

第73条 本学において授業科目を履修しようとする他の大学(外国の大学を含む。)、短期大学(外国の短期大学を含む。)又は高等専門学校のあるときは、当該大学、短期大学又は高等専門学校との協議に基づき、その履修を認めることがある。

2 前項により、授業科目の履修を認められた学生は、特別聴講学生と称する。

3 前2項に関し必要な事項は、別に定める。

第74条 研究生、科目等履修生及び特別聴講学生については、別段の定めのあるものを除くほか、学部学生に関する規則を準用する。

(外国人留学生)

第75条 外国人で、大学において教育を受ける目的をもって入国し、本学に入学を志願する者があるときは、選考の上、学長は、外国人留学生として入学を許可することがある。

2 前項の外国人留学生に対しては、日本語教育等の充実を図るため、日本語科目及び日本事情に関する科目を置くことができる。

3 外国人留学生に関する規則は、別に定める。

(外国において教育を受けた学生に関する授業科目等の特例)

第76条 前条第2項の規定に基づき外国人留学生に対して開設する授業科目の履修は、外国人留学生以外の学生で、外国において相当の期間中等教育(中学校又は高等学校に対応する学校における教育をいう。)を受けたものの教育について必要であると認める場合に準用する。

第8節 授業料等

(検定料、入学料、授業料及び寄宿料の額)

第77条 検定料、入学料、授業料及び寄宿料の額は、国立大学法人熊本大学諸料金規則(平成16年4月1日制定)に定めるところによる。

(入学料の免除)

第78条 入学料の納入が経済的理由等により困難であると認められる者に対しては、入学料を免除することができる。

(入学料の徴収猶予)

第79条 入学料の納入が経済的理由等により困難であると認められる者に対して

は、指定の期日まで入学料の徴収を猶予することができる。

(授業料の徴収方法)

第80条 授業料は、次の2期に分けて年額の2分の1ずつを徴収する。ただし、学生の申出があったときは、前期中に、当該年度の後期に係る授業料を徴収することができる。

前期(4月1日から9月30日までをいう。以下同じ。)

徴収期 4月1日から4月30日まで

後期(10月1日から翌年の3月31日までをいう。以下同じ。)

徴収期 10月1日から10月31日まで

- 2 入学年度の前期又は前期及び後期に係る授業料については、入学を許可される者の申出があったときは、前項の規定にかかわらず、入学を許可するときに徴収する。
- 3 前期の徴収期後に入学を許可された者は、入学した日の属する月からその期末までの授業料を別に定めるところにより納めなければならない。
- 4 学期の途中で復学を許可された者は、復学の日の属する月からその期末までの授業料を別に定めるところにより納めなければならない。
- 5 学年の途中で卒業する者は、卒業の日の属する月までの授業料を納めなければならない。
- 6 研究生、科目等履修生、特別聴講学生等の授業料徴収の方法に関し必要な事項は、別に定める。

(納入の請求)

第81条 授業料は、その納入の請求を所定の場所への掲示をもって行うことができる。

(既納の検定料、入学料及び授業料の取扱い)

第82条 既納の検定料、入学料及び授業料は、返還しない。

- 2 前項の規定にかかわらず、次の各号のいずれかに該当する者に対しては、その者の申出により、当該各号に定める額を返還するものとする。
 - (1) 検定料を納めた者で、出願しなかったもの 当該検定料相当額
 - (2) 検定料を納めた者で、出願が受理されなかったもの 当該検定料相当額
 - (3) 一の入学試験に係る検定料を、2回以上納めた者 所定の検定料を超える額に相当する額
 - (4) 学部において、出願書類等による選抜(以下この号において「第1段階目の選抜」という。)を行い、その合格者に限り学力検査その他による選抜(以下この号において「第2段階目の選抜」という。)を行う場合において、第1段階目の選抜で不合格となった者 第2段階目の選抜に係る検定料相当額
 - (5) 個別学力検査出願受付後に大学入学共通テスト受験科目の不足等による出願無資格者であることが判明した者 前号に定める額に相当する額
 - (6) 入学を許可するときに授業料を納めた者で、3月31日までに入学を辞退したもの 当該授業料相当額
 - (7) 前期中に後期に係る授業料を併せて納めた者で、後期に係る授業料の徴収期前に休学又は退学したもの 当該後期に係る授業料の額

(授業料の免除)

第83条 休学を許可され、又は命ぜられた者に対しては、授業料を免除することができる。

第84条 経済的理由によって納付が困難であり、かつ、学業優秀と認められる者に

対しては、授業料を免除することができる。

- 2 前項に規定する者のほか死亡等やむを得ない事情があると認められる者に対しては、授業料を免除することができる。

(授業料の徴収猶予及び月割分納)

第85条 経済的理由等やむを得ない事情があると認められる者に対しては、授業料の徴収を猶予し、又は月割分納を許可することができる。

(免除、徴収猶予等の取消)

第86条 第79条の徴収猶予、第84条の免除又は前条の徴収猶予若しくは月割分納の許可があったあとで、その理由が消滅したと認めるときは、その許可を取り消す。

(免除及び徴収猶予に関する規則)

第87条 この学則に定めるもののほか、入学料及び授業料の免除及び徴収猶予の実施に関する規則は、別に定める。

第9節 賞罰

(表彰)

第88条 学生として表彰に値する行為があったときは、学長は、これを表彰する。この場合、学長は、当該表彰について国立大学法人熊本大学教育研究評議会(以下「教育研究評議会」という。)に報告する。

- 2 表彰に関し必要な事項は、別に定める。

(懲戒)

第89条 学生が本学の規則に背き、又は学生としての本分に反する行為があったときは、学部長の申出により、学長は、これを懲戒する。この場合、学長は、当該懲戒について教育研究評議会に報告する。

- 2 懲戒は、訓告、停学及び退学とする。
- 3 前項の退学は、次の各号のいずれかに該当する学生に対して行うことができる。
 - (1) 性行不良で改善の見込がないと認められる者
 - (2) 大学の秩序を乱し、その他学生としての本分に反した者
- 4 停学の期間は、修業年限に算入せず、在学期間に算入する。
- 5 懲戒に関し必要な事項は、別に定める。

第10節 寄宿舍

(寄宿舍)

第90条 本学に、寄宿舍を置く。

- 2 寄宿舍に関する規則は、別に定める。

第11節 特別の課程

第91条 本学の学生以外の者を対象として、学教法第105条に規定する特別の課程を編成し、これを履修する者(以下「特別の課程履修生」という。)に対し、単位を与えることができる。

- 2 特別の課程履修生に対する単位の授与については、第40条の規定を準用する。
- 3 前2項に関し必要な事項は、別に定める。

附 則

- 1 この学則は、平成16年4月1日から施行する。
- 2 次の学科については、第2条第1項の規定にかかわらず、平成16年3月31日に当該学科に在学する者が当該学科に在学しなくなる日までの間、存続するものとする

る。

法学部 公共政策学科

理学部 数理科学科 物理科学科 物質化学科 地球科学科 生物科学科 環境理学科

- 3 熊本大学学則等を廃止する規則(平成16年3月26日制定)により廃止された熊本大学学則(昭和24年6月1日制定)の附則の規定により存続するものとされた学科又は課程のうち、平成16年3月31日に存続するものについては、第2条第1項の規定にかかわらず、平成16年3月31日に当該学科又は課程に在学する者が当該学科又は課程に在学しなくなる日までの間、存続するものとする。
- 4 前2項の規定により存続する学科又は課程の授業科目の履修、卒業等に関する事項については、なお従前の例による。

附 則(平成17年3月24日学則第2号)

- 1 この学則は、平成17年4月1日から施行する。
- 2 文学部の人間科学科及び地域科学科は、改正後の第2条第1項の規定にかかわらず、平成17年3月31日に当該学科に在学する者が当該学科に在学しなくなるまでの間、存続するものとする。

附 則(平成17年12月22日学則第4号)

この学則は、平成17年12月22日から施行する。

附 則(平成18年2月23日学則第2号)

- 1 この学則は、平成18年4月1日から施行する。
- 2 次の学科については、改正後の第2条第1項の規定にかかわらず、平成18年3月31日に当該学科に在学する者が当該学科に在学しなくなるまでの間、存続するものとする。

薬学部 薬科学科

工学部 環境システム工学科 知能生産システム工学科 電気システム工学科 数理情報システム工学科

附 則(平成18年9月7日学則第6号)

この学則は、平成18年9月25日から施行する。

附 則(平成18年10月26日学則第9号)

この学則は、平成18年10月26日から施行する。

附 則(平成18年10月26日学則第10号)

この学則は、平成18年12月1日から施行する。

附 則(平成18年11月30日学則第12号)

この学則は、平成19年4月1日から施行する。

附 則(平成19年2月22日学則第3号)

- 1 この学則は、平成19年4月1日から施行する。
- 2 教育学部の養護学校教員養成課程は、改正後の第2条第1項の規定にかかわらず、平成19年3月31日に当該課程に在学する者が当該課程に在学しなくなる日までの間、存続するものとする。

附 則(平成19年3月22日学則第5号)

この学則は、平成19年4月1日から施行する。

附 則(平成19年9月27日学則第7号)

この学則は、平成19年10月1日から施行する。

附 則(平成20年1月24日学則第2号)

この学則は、平成20年4月1日から施行する。ただし、第17条の次に1条を加える改正規定は、平成20年1月24日から施行する。

附 則(平成20年3月27日学則第5号)

この学則は、平成20年4月1日から施行する。

附 則(平成20年9月25日学則第6号)

この学則は、平成20年9月25日から施行する。

附 則(平成20年11月27日学則第8号)

この学則は、平成21年1月1日から施行する。

附 則(平成21年3月26日学則第2号)

- 1 この学則は、平成21年4月1日から施行する。
- 2 この学則による改正後の第19条第2項、第32条第2項及び第51条第4項の規定は、平成21年度入学者から適用し、平成20年度以前に入学した者については、なお従前の例による。

附 則(平成21年12月24日学則第5号)

この学則は、平成22年1月1日から施行する。

附 則(平成22年2月24日学則第1号)

この学則は、平成22年4月1日から施行する。

附 則(平成22年3月24日学則第4号)

この学則は、平成22年4月1日から施行する。

附 則(平成22年6月24日学則第7号)

この学則は、平成22年7月1日から施行する。

附 則(平成22年9月30日学則第9号)

この学則は、平成22年10月1日から施行する。

附 則(平成23年2月24日学則第1号)

- 1 この学則は、平成23年4月1日から施行する。
- 2 この学則による改正後の第35条第1項の規定は、平成23年度入学者から適用し、平成22年度以前に入学した者については、なお従前の例による。

附 則(平成23年5月26日学則第4号)

この学則は、平成23年6月1日から施行する。

附 則(平成23年7月28日学則第6号)

この学則は、平成23年8月1日から施行する。

附 則(平成23年9月22日学則第8号)

この学則は、平成23年10月1日から施行する。

附 則(平成23年11月24日学則第10号)

この学則は、平成23年12月1日から施行する。

附 則(平成24年3月22日学則第2号)

- 1 この学則は、平成24年4月1日から施行する。
- 2 この学則による改正後の第35条第1項の規定は、平成24年度入学者から適用し、平成23年度以前に入学した者については、なお従前の例による。

附 則(平成24年11月29日学則第6号)

- 1 この学則は、平成24年12月1日から施行する。
- 2 改正後の第8条第1項に規定する大学院自然科学研究科の減災型社会システム実践研究教育センターは、平成30年11月30日まで存続するものとする。

附 則(平成25年2月28日学則第2号)

- 1 この学則は、平成25年4月1日から施行する。
- 2 この学則による改正後の第6条の2に規定するパルスパワー科学研究所は、令和5年3月31日まで存続するものとする。
- 3 この学則による改正後の第19条第2項の規定は、平成25年度入学者から適用し、平成24年度以前に入学した者については、なお従前の例による。

附 則(平成25年7月25日学則第5号)

この学則は、平成25年7月25日から施行する。

附 則(平成26年4月25日学則第3号)

この学則は、平成26年5月1日から施行する。

附 則(平成26年11月27日学則第6号)

この学則は、平成26年12月1日から施行する。

附 則(平成27年1月22日学則第1号)

この学則は、平成27年4月1日から施行する。

附 則(平成27年2月27日学則第4号)

この学則は、平成27年3月1日から施行する。

附 則(平成27年3月26日学則第6号)

この学則は、平成27年4月1日から施行する。

附 則(平成27年6月25日学則第9号)

この学則は、平成27年7月1日から施行する。

附 則(平成28年1月28日学則第2号)

この学則は、平成28年4月1日から施行する。

附 則(平成28年2月24日学則第4号)

この学則は、平成28年4月1日から施行する。

附 則(平成28年3月24日学則第6号)

この学則は、平成28年4月1日から施行する。

附 則(平成28年5月26日学則第8号)

この学則は、平成28年6月1日から施行する。

附 則(平成28年9月23日学則第9号)

この学則は、平成28年10月1日から施行し、改正後の第30条第1項第5号の規定は、平成28年4月1日から適用する。

附 則(平成29年2月23日学則第2号)

- 1 この学則は、平成29年4月1日から施行する。
- 2 この学則による改正後の第35条第1項の規定は、平成29年度入学者から適用し、平成28年度以前に入学した者については、なお従前の例による。

附 則(平成29年11月24日学則第5号)

この学則は、平成29年12月9日から施行する。

附 則(平成30年3月22日学則第2号)

- 1 この学則は、平成30年4月1日から施行する。
- 2 工学部の物質生命化学科、マテリアル工学科、機械システム工学科、社会環境工学科、建築学科、情報電気電子工学科及び数理工学科は、改正後の第2条第1項の規定にかかわらず、平成30年3月31日に当該学科に在学する者が当該学科に在学しなくなるまでの間、存続するものとする。
- 3 大学院自然科学研究科附属総合科学技術共同教育センターは、改正後の第8条の規定にかかわらず、平成30年3月31日に自然科学研究科に在学する者が当該研究科に在学しなくなる日までの間、存続するものとする。

附 則(平成30年4月26日学則第5号)

この学則は、平成30年5月1日から施行する。

附 則(平成30年9月27日学則第6号)

この学則は、平成31年4月1日から施行する。

附 則(平成30年12月27日学則第9号)

この学則は、平成31年1月1日から施行する。

附 則(平成31年2月28日学則第2号)

この学則は、平成31年4月1日から施行する。

附 則(平成31年3月28日学則第5号)

この学則は、平成31年4月1日から施行する。

附 則(令和元年5月7日学則第7号)

この学則は、令和元年5月7日から施行する。

附 則(令和2年2月27日学則第2号)

この学則は、令和2年4月1日から施行する。

附 則(令和2年3月26日学則第4号)

この学則は、令和2年4月1日から施行する。

附 則(令和2年9月24日学則第5号)

この学則は、令和2年10月1日から施行する。

附 則(令和2年10月2日学則第7号)

この学則は、令和2年10月2日から施行する。

附 則(令和3年2月24日学則第2号)

この学則は、令和3年4月1日から施行する。

附 則(令和3年4月22日学則第4号)

この学則は、令和3年4月23日から施行する。

○熊本大学学生定員規則（案）

（平成 16 年 4 月 1 日規則第 120 号）

（趣旨）

第 1 条 この規則は、熊本大学学則（平成 16 年 4 月 1 日制定）第 2 条第 2 項、熊本大学特別支援教育特別専攻科規則（平成 16 年 4 月 1 日制定）第 3 条第 1 項及び熊本大学養護教諭特別別科規則（平成 16 年 4 月 1 日制定）第 3 条及び熊本大学大学院学則（平成 16 年 4 月 1 日制定）第 12 条の規定に基づき、熊本大学（以下「本学」という。）及び熊本大学大学院（以下「本学大学院」という。）の学生の収容定員又は入学定員を定める。

（学生の収容定員）

第 2 条 本学の学部の収容定員は、次のとおりとする。

学部の収容定員の表（令和 4 年度）

学部	学科・課程	各年次の収容定員						収容定員
		第 1 年次	第 2 年次	第 3 年次	第 4 年次	第 5 年次	第 6 年次	
文学部	総合人間学科	55	55	55	55			220
	歴史学科	35	35	35	35			140
	文学科	50	50	50	50			200
	コミュニケーション情報学科	30	30	30	30			120
	(学部共通)			10	10			20
	計	170	170	180	180			700
教育学部	小学校教員養成課程	110	110	110	110			440
	中学校教員養成課程	70	70	70	70			280
	特別支援教育教員養成課程	20	20	20	20			80
	養護教諭養成課程	30	30	30	30			120
	計	230	230	230	230			920
法学部	法学科	210	210	210	210			840
	(学部共通)			10	10			20
	計	210	210	220	220			860
理学部	理学科	200	200	200	200			800
	計	200	200	200	200			800
医学部	医学科	110	110	110	115	115	115	675
	保健学科	144	144	144	144			576
	(保健学科共通)			16	16			32
	計	254	254	270	275	115	115	1,283
薬学部	薬学科	55	55	55	55	55	55	330

	創薬・生命薬科学科	35	35	35	35			140
	計	90	90	90	90	55	55	470
工学部	土木建築学科	124	124	134	134			516
	機械数理工学科	109	109	119	119			456
	情報電気工学科	149	149	169	169			636
	材料・応用化学科	131	131	136	136			534
	物質生命化学科	-	-	-	-			0
	マテリアル工学科	-	-	-	-			0
	機械システム工学科	-	-	-	-			0
	社会環境工学科	-	-	-	-			0
	建築学科	-	-	-	-			0
	情報電気電子工学科	-	-	-	-			0
	数理工学科	-	-	-	-			0
	(学部共通)			-	-			0
		計	513	513	558	558		
合計		1,667	1,667	1,748	1,753	170	170	7,175

備考 (学部共通)又は(保健学科共通)は、第3年次編入学定員である。

各年次の收容定員の欄中「-」で示すものは、廃止予定又は募集停止の学科である。

第3条 本学の専攻科の收容定員は、次のとおりとする。

専攻科の收容定員の表(令和4年度)

専攻科	専攻	收容定員
特別支援教育特別専攻科	特別支援教育専攻	15
合計		15

第4条 本学の別科の学生の收容定員は、次のとおりとする。

別科の收容定員の表(令和4年度)

別科	收容定員
養護教諭特別別科	40
合計	40

第5条 本学大学院の修士課程及び博士前期課程の收容定員は、次のとおりとする。

修士課程及び博士前期課程の收容定員の表(令和4年度)

研究科又は教育部	専攻	各年次の收容定員		收容定員
		第1年次	第2年次	
教育学研究科	学校教育実践専攻	-	-	0
	教科教育実践専攻	-	-	0
	計	-	-	0

社会文化科学教育部	法政・紛争解決学専攻	14 (3)	11	25 (3)
	熊本大学・マサチューセッツ州立大学ボストン校紛争解決学国際連携専攻	4	4	8
	公共政策学専攻	-	-	0
	現代社会人間学専攻	18	18	36
	文化学専攻	18	18	36
	教授システム学専攻	15	15	30
	計	69 (3)	66	135 (3)
自然科学教育部	理学専攻	110	110	220
	土木建築学専攻	75	75	150
	機械数理工学専攻	65	65	130
	情報電気工学専攻	103	103	206
	材料・応用化学専攻	90	90	180
	計	443	443	886
医学教育部	医科学専攻	20	20	40
	計	20	20	40
保健学教育部	保健学専攻	24	24	48
	計	24	24	48
薬学教育部	創薬・生命薬科学専攻	35	35	70
	計	35	35	70
合計		591 (3)	588	1,179 (3)

備考 括弧書きの数字は、標準修業年限を1年とする入学定員で内数。

各年次の収容定員の欄中「-」で示すものは、廃止予定又は募集停止の専攻である。

第6条 本学大学院の博士課程(博士前期課程を除く。)の収容定員は、次のとおりとする。

博士課程(博士前期課程を除く。)の収容定員の表(令和4年度)

研究科又は教育部	専攻	各年次の収容定員				収容定員
		第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	
自然科学研究科	理学専攻	-	-	-		0
	複合新領域科学専攻	-	-	-		0
	産業創造工学専攻	-	-	-		0
	情報電気電子工学専攻	-	-	-		0
	環境共生工学専攻	-	-	-		0
	計	-	-	-		0

社会文化科学教育部	人間・社会科学専攻	6	6	6		18
	文化学専攻	6	6	6		18
	教授システム学専攻	3	3	3		9
	計	15	15	15		45
自然科学教育部	理学専攻	12	12	12		36
	工学専攻	46	46	46		138
	計	58	58	58		174
医学教育部	医学専攻	88	88	88	88	352
	計	88	88	88	88	352
保健学教育部	保健学専攻	6	6	6		18
	計	6	6	6		18
薬学教育部	医療薬学専攻	8	8	8	8	32
	創薬・生命薬科学専攻	10	10	10		30
	計	18	18	18	8	62
合計		185	185	185	96	651

備考 各年次の収容定員の欄中「-」で示すものは、廃止予定又は募集停止の専攻である。

第7条 本学大学院の教職大学院の課程の収容定員は、次のとおりとする。

教職大学院の課程の収容定員の表(令和4年度)

研究科	専攻	各年次の収容定員		収容定員
		第1年次	第2年次	
教育学研究科	教職実践開発専攻	30	30	60
合計		30	30	60

附 則

この規則は、平成16年4月1日から施行する。

附 則(平成17年3月24日規則第52号)

この規則は、平成17年4月1日から施行する。

附 則(平成18年2月23日規則第18号)

この規則は、平成18年4月1日から施行する。

附 則(平成19年2月22日規則第9号)

この規則は、平成19年4月1日から施行する。

附 則(平成20年1月24日規則第22号)

この規則は、平成 20 年 4 月 1 日から施行する。

附 則(平成 21 年 3 月 26 日規則第 56 号)

- 1 この規則は、平成 21 年 4 月 1 日から施行する。
- 2 改正後の第 2 条の表に規定する医学部医学科の第 1 年次収容定員 115 人については、平成 22 年度から令和元年度までとし、令和 2 年度からは 110 人とする。

附 則(平成 22 年 2 月 24 日規則第 10 号)

この規則は、平成 22 年 4 月 1 日から施行する。

附 則(平成 23 年 2 月 24 日規則第 11 号)

この規則は、平成 23 年 4 月 1 日から施行する。

附 則(平成 24 年 3 月 22 日規則第 36 号)

この規則は、平成 24 年 4 月 1 日から施行する。

附 則(平成 25 年 3 月 29 日規則第 24 号)

この規則は、平成 25 年 4 月 1 日から施行する。

附 則(平成 26 年 3 月 31 日規則第 40 号)

この規則は、平成 26 年 4 月 1 日から施行する。

附 則(平成 27 年 3 月 12 日規則第 93 号)

この規則は、平成 27 年 4 月 1 日から施行する。

附 則(平成 28 年 3 月 18 日規則第 41 号)

この規則は、平成 28 年 4 月 1 日から施行する。

附 則(平成 29 年 2 月 28 日規則第 95 号)

この規則は、平成 29 年 4 月 1 日から施行する。

附 則(平成 30 年 3 月 16 日規則第 39 号)

この規則は、平成 30 年 4 月 1 日から施行する。

附 則(平成 31 年 3 月 27 日規則第 44 号)

この規則は、平成 31 年 4 月 1 日から施行する。

附 則(令和元年 5 月 7 日規則第 303 号)

この規則は、令和元年5月7日から施行する。

附 則(令和2年3月27日規則第61号)

- 1 この規則は、令和2年4月1日から施行する。
- 2 改正後の第2条の表に規定する医学部医学科の第1年次収容定員110人については、令和2年度から令和4年度までとし、令和5年度からは105人とする。

附 則(令和3年3月31日規則第99号)

この規則は、令和3年4月1日から施行する。

附 則

この規則は、令和4年4月1日から施行する。

学則の変更の趣旨等を記載した書類

1. 学則変更（収容定員変更）の内容

熊本大学医学部医学科の平成 20 年度以降の入学定員については、平成 21 年度に「緊急医師確保対策」に基づき平成 29 年度までの期限を付した 5 名の臨時定員増（平成 29 年度に平成 31 年度まで延長）及び「経済財政改革の基本方針 2008」に基づき 5 名の恒久定員増を、また、平成 22 年度に「経済財政改革の基本方針 2009」に基づき平成 31 年度までの期限を付した 5 名の臨時定員増をそれぞれ実施した。

平成 31 年度を期限とする 10 名の入学定員について、令和 3 年度までの期限を付した再度の入学定員 5 名増を行い、令和 2 年度の入学定員を再度の定員増を行わなかった場合の 105 名から 110 名に増員を行った。

さらに、地域の医師確保等の観点から、令和 2・3 年度の増加と同様の枠組みを維持し、再度の入学定員 5 名増を行い、令和 4 年度の入学定員を再度の定員増を行わなかった場合の 105 名から 110 名に増員を行う。

これにあわせて、収容定員についても令和 4 年度のみ臨時の入学定員増を踏まえ、再度の定員増を行わなかった場合の 630 名から 635 名に増員する。

2. 学則変更（収容定員変更）の必要性

熊本県の医療施設に従事する医師数は、人口 10 万人当たり、289.8 人（厚生労働省「平成 30 年医師・歯科医師・薬剤師調査」）で、全国平均 246.7 人を上回っている（資料 1）。

しかしながら、熊本市と熊本市以外の地域を比較すると、熊本市（熊本圏域）では、414.1 人であるのに対して、熊本市以外の地域では、199.3 人となっている。熊本県の医療施設に従事する医師数（平成 30 年：5,091 人）について、その 6 割が熊本市に集中している。平成 28 年から平成 30 年の間に熊本市内の医師数が 7 人増加したのに対し、熊本市外の医師数は 83 人増加しており、熊本市外の医師数は増加傾向にあるものの、未だ医師の地域偏在は大きい状況である。また、地域で勤務する医師のうち、65 歳以上の割合は年々高まっており、高齢化の傾向にある。

また、熊本県の地域医療における将来推計として、2036 年に向けて、県全体では人口は減少傾向にあるものの、医療需要は増加傾向にあり、厚生労働省の計算によると、将来時点において、複数の圏域で医師が不足する可能性がある。（資料 2）。

これまで、熊本大学では、熊本県と連携し、地域や診療科の医師確保の観点から、平成 19 年度の「緊急医師確保対策」に基づく 5 名の増員及び「経済財政改革の基本方針 2008」に伴う 5 名の増員によって、平成 21 年度から入学定員を 10 名増員した。

さらに平成 22 年度からは「経済財政改革の基本方針 2009」により、熊本県医師修学資金（地域枠）の給付を条件とした推薦入試（地域枠）を新設し、5 名増とした。

そして、平成 31 年度までに認可を受けた臨時的な定員数 10 名から 2 年間を通じて地域枠の学生を確保できていない定員数 4 名を減じた数 6 名を上限として増員申請数を熊本県

と協議し、令和3年度までの期限を付した再度の入学定員5名増を行った。

今回、熊本県から、上記のような状況を踏まえ、本学に対して地域医療に従事する医療人育成及びその増員の延長について要望があったため、令和2・3年度の増加と同様の枠組みを維持し、令和4年度のみ再度の5名増員を申請することとした。

3. 学則変更（収容定員変更）に伴う教育課程等の変更

（1）入学者選抜

熊本大学医学部医学科の令和3年度入学者選抜試験は、一般選抜（前期日程90名）及び学校推薦型選抜（推薦入学（一般枠15名、地域枠5名））によって実施しており、地域枠5名については、熊本県による医師修学資金給付制度により、奨学金を貸与している（資料4）。

これまで、入学者に対する県内高等学校出身者の占める割合は概ね30～40%で推移しており、令和3年度については、46%まで上昇した（資料3）。

令和4年度から、県内各地の中核医療機関で医師不足及び特定の診療科の医師確保への対策として、医学科定員を5名増員延長し、地域医療を担う医師の養成等を図ることとした（資料5、6）。

また、令和4年度の学校推薦型選抜においては、これまでの「地域枠」の定員を臨時定員5名に恒久定員3名を加えた8人に増員するとともに、新たに、出願資格を熊本県出身者に限定し、かつ、卒業後の進路条件を緩やか（勤務する地域病院の選択肢を拡大）にするなど、多様性のある「熊本みらい医療枠」（入学定員10名）を導入することで、引き続き熊本県に定着し、地域医療を担う人材の確保に貢献する（資料6）。

なお、受験者の確保を目的として、ホームページ、熊本大学広報誌、オープンキャンパス、県内高等学校長との懇談会、県内高等学校進路指導連絡協議会との懇談会、九州地区国立大学・高等学校連絡協議会及び各種進学説明会等のあらゆる機会を通じて広報活動を行う。

（2）教育課程

1) 現行の取組を更に強化するもの（資料7）

- ① 授業において、地域医療の概要と実態を講義する。この過程で、医学教育モデル・コア・カリキュラムに求められている項目に関して学ばせる。具体的には、地域医療のあり方と熊本県の現状と課題について講義し、医師として地域医療に貢献するためにはいかなる能力を身に付けるべきか、ということを理解させるため、以下の項目を講義する。

（A）4年生「公衆衛生学」講義

年間47コマ（1コマ90分授業）実施しているが、その中で地域医療に関する講義を充実させ、地域医療に求められる医師としての役割と機能及び体制などの地域医療のあり方を学ばせる。さらに地域における保健（母子保健、老人保健、精神保健、学校保健）・医療・福祉・介護の分野間の連携及び多職種間の連携の必要性を講義し、現状と課題さら

にあるべき姿を考察できるよう学生に学ばせる。また、地域保健医療計画、衛生行政、地域保健における保健所の活動について学ばせる。

(具体的な講義項目)

- ア 社会保障・社会福祉の理念： 自由権から生存権
社会保障の目的・理念： 責任の所在の変遷
- イ 地域における福祉施設の体系と機能： ①在宅と施設、②老人関係施設の種類→養護老人ホーム、特別養護老人ホーム、老人保健施設
- ウ 介護保険法制定後の老人福祉・医療施設の現状
- エ 地域における健康福祉システム(地域リハビリテーション)
- オ 地域保健・保健所の機能
- カ 医療法、医療保険制度

(B) 4年生「医療と社会」講義

年間17コマ(1コマ90分授業)実施している「医療と社会」の一部を地域医療の講義にあて、地域医療に求められる医師としての役割と機能及び体制などの地域医療のあり方を学ばせる。また、熊本県における医師の偏在(地域及び診療科)の現状とその理由を学ばせる。さらに地域医療の基盤となるプライマリ・ケアの必要性を理解させる。

(具体的な講義項目)

- キ 地域医療の実際
- ク 患者中心の医療

② 実習において、熊本県内の地域医療とそれを取り巻く状況を学修し、地域医療に従事する医師としてどのような実践能力を身につけるべきかを学ばせるため、以下の項目についての実習を行う。

(A) 1年生「早期臨床体験実習Ⅰ」

「早期臨床体験実習Ⅰ」は1年次に20コマ(1コマ90分授業：終日5日間)を実施しており、その中で地域医療機関や介護老人保健施設の体験実習を行っているが、今後は体制が整えば、保健所についても実施する。もって地域保健医療計画、衛生行政、保健所活動について、熊本県の地域保健について学ばせる。

(B) 3年生「早期臨床体験実習Ⅲ」

「早期臨床体験実習Ⅲ」は3年次に22コマ(1コマ90分授業：終日5日間+半日)を実施しており、その中で地域医療機関(地域開業診療所等)の現状を自らの目で知ることが目的とした見学型実習を行っている。もって熊本県の地域医療について学ばせる。

(C) 4～5年生「臨床実習」

地域医療に貢献するためにはプライマリ・ケアの能力が必要である。そのため、4～5年次の「臨床実習」の際に、救急車同乗実習を行い、熊本市消防署が行っている救急業務の実態を見学し、救急現場での初期対応を学び、併せて熊本市における救急患者受入れ状況を知ることを通し地域救急医療の現状を学ばせる。さらに体制が整えば、災害救急医療

におけるトリアージを学ばせる。また、地域医療機関に学生を派遣して、地域のプライマリ・ケアの体験を充実させる。もって地域医療の基礎となるプライマリ・ケアの必要性を理解させ、医師としてどのような実践能力を身に付けるべきかを学ばせる。

(D) 5～6年生「特別臨床実習」

地域医療機関の中から、2015年に、熊本県北部の地域医療機関の中核である公立玉名中央病院からの寄附を受け、地域医療の実践教育を行う施設として、玉名教育拠点が開設され、寄附講座教員が常駐して、地域医療を志す医師、研修医及び医学生に対し、実践教育の場を提供している。さらに2019年からは、熊本県天草地区の地域医療機関の中核である天草地域医療センターからの寄附を受け、天草教育拠点が開設され地域医療を志す医師、研修医及び医学生に対し、実践教育の場を提供している。これらの施設において、地域医療の実際を体験し、医師としてどのような態度・能力が求められているか学ばせる。

2) 今後の取組

① 地域医療の現状と課題の把握

平成28年4月に設置された「地域医療・総合診療実践学寄附講座」の教員を主体として、熊本県における地域医療の現状、地域医療に求められる医師像、地域医療における医療連携などを教授し、地域医療への関心を醸成する。熊本県地域医療構想についても理解を深めさせる。

② 熊本大学医学部と自治医科大学との交流会の拡大

平成19年度から実施している「熊本大学医学部と自治医科大学との交流会」を拡大し、地域医療の必要性等学ばせるコースワークを策定し、自治医科大学学生とともに熊本大学医学部学生を参加させる。この際、熊本県健康福祉部や自治医科大学出身の医師などの協力を仰ぎ、熊本県の地域医療の現状と特徴、解決すべき課題等について理解を深めさせる。

③ 地域の保健師活動の現状と課題の把握

地域保健における保健所の活動の実際を学ぶことに加え、保健所がカバーできない部分を補っている市町村の保健師活動についても学ぶため、保健師を非常勤講師として招聘し、地域の保健師活動の現状と課題について学ばせる。

④ 地域中核病院等での実習体験

地域枠入学者を含む熊本県医師修学資金受給者ならびに希望者を対象として、夏休みに、地域中核病院或いは僻地の一人医師診療所における実習を体験させる。これにより、学生を地域及び僻地医療に積極的に参加・貢献させるとともに、地域における、救急医療、災害医療、在宅ターミナルケアの体制を実地見聞させ、その実際を理解させる。さらに、離島や山間部における僻地医療の実際を体験して、地域医療の現状と課題について学ばせる。

- ⑤ 熊本大学大学院生命科学研究部附属臨床医学教育研究センターと寄附講座の連携
地域医療を含む医学教育全般を統括する組織として「臨床医学教育研究センター」を平成 22 年度に設置し、「地域医療・総合診療実践学寄附講座」との連携を図りながら、地域医療教育を充実させる。

4. その他

(1) 地域の医療機関との連携の推進

1) 現行の取組

① 地域医療連携センターの設置

地域医療連携を推進するため、平成 12 年度に地域医療連携センターを設置した。同センターでは、患者の目線で適切な診療支援体制を考えており、医療をはじめ、社会福祉制度、介護サービスなどの情報提供や、在宅療養支援、介護保険などの相談支援等の活動を行っている。

② モービル CCU（冠動脈疾患集中治療救急車）の導入、ヘリポートの設置等

平成 19 年 12 月にモービル CCU を導入し、患者搬送の利便を図った。また、平成 18 年 6 月の新中央診療棟竣工に伴い、同棟屋上に設置したヘリポートの運用を開始した。これにより、熊本県が所有する防災ヘリコプターでの患者搬送が飛躍的に伸びており、現在、月 4~5 回程度のヘリポート利用があり、特に県境の救急患者の受入れを行えるようにし、僻地医療の改善に大きく寄与することが可能となった。

③ 都道府県がん診療連携拠点病院

熊本大学病院は、平成 18 年 8 月 24 日付けで都道府県がん診療連携拠点病院に指定された。

現在、熊本大学病院に、熊本県がん診療連携協議会を、当協議会の下部組織として、がん診断部会、化学療法部会、放射線療法部会、緩和ケア部会、相談支援・情報連携部会、がん登録部会の 6 部会を設置し、熊本県における「がん医療の均てん化」に向けた各種の取組を推進している。

④ NICU（新生児集中治療室）等の整備

平成 21 年度に「周産期医療環境整備事業（NICU 等設置）」に選定されたのを受け、周産期医療分野の環境整備を図り、ハイリスクが予測される母体又は胎児受入れを可能とする機能強化に取り組んでいる。

具体的には、新生児医療部門に新生児集中治療室（NICU）12 床、回復保育室（GCU）12 床を、更に周産期医療部門に母体・胎児集中治療室（MFICU）6 床を整備し、平成 23 年 4 月に熊本県内で 2 番目の総合周産期母子医療センター施設認定を受けた。

⑤ 大学直営の学内保育所の設置

女性医師等にとって働きやすい環境を整備し、その定着を図るため、昭和45年4月に熊本大学病院敷地内に設置し老朽化していた保育所を、男女共同参画推進事業の一環として、医学部地区に園舎を新設した。熊本大学直営として平成21年4月1日に開園し、園児の受入れを行っている。

⑥ 学生実習受入施設への説明会の開催

早期臨床体験実習Ⅰ、Ⅲ等の学外実習において、学生の受入れがある地域の医療施設に対して説明会を開催している。実習の趣旨や実施方法を説明するとともに、施設間で、これまでの受入れ経験に基づく教育・指導方法について情報交換する場を提供している。

2) 今後の取組

① 臨床研修のための地域医療機関の指導医等への教育FD（実習目的・指導方法等）を実施して、医学部と連携した地域医療教育の向上を図る。

② 総合臨床研修センターでのスキルスラボの充実を図る。具体的には、地域医療を担う医学部生や卒後臨床研修医の医療技術の修得・向上を目的とした、基本的救命処置シミュレーター、心音シミュレーター、肺音シミュレーター等の各種臨床実地トレーニングシステムを整備する。

(2) その他の地域医療貢献策

1) 医学部及び熊本大学病院等でのこれまでの取組

① 地域医療機関との連携

地域医療に関する卒前の継続的な教育、総合診療（専門）医の育成や地域の医療機関における診療支援に関連する研究を行うことを目的として、「地域医療・総合診療実践学寄附講座」が平成28年4月に設置された。特任教員5名が配置され、「地域医療」と「総合診療科」の2つのプログラムを提供しており、「地域医療」では、学生が県内の協力病院へ赴き、泊まり込みでの実習を行い、「総合診療科」では、大学病院内の総合診療科で実習を行っている。

② 熊本県地域医療対策協議会への参画

病院長が委員として参画し、地域医療等の行政に専門的な立場から意見を述べている。

③ 総合臨床研修センターの設置

熊本大学病院は、医師の卒前・卒後教育の充実を図るとともに、コ・メディカル部門の教育・研修支援及び地域の医療従事者に対するリカレント教育を実施するため、平成15

年度に総合臨床研修センターを設置した。

新研修医制度の施行により、現在、卒後臨床研修管理委員会が管理する研修プログラムに基づき、同センターに研修医を受け入れるとともに、研修医セミナーや研修医指導者研修等を実施し、医師の初期教育における総合的支援を行っている。

また、平成 18 年度に同センター施設が新中央診療棟 7 階に完成したことによって、各診療科等が実施する地域の医療従事者を含めた研修会の活動スペースが確保された。

なお、同センターでは、地域の医療従事者を対象とした ICLS（心肺蘇生法）の講習会を毎年 5 回程度開催している。

2) 医学部及び熊本大学病院等での今後の取組

① 今後のがん医療の均てん化に向けた取組

熊本県は、がん対策基本法（平成 19 年 4 月施行）に基づき、平成 30 年度から平成 35 年度までを計画期間とする「第 3 次熊本県がん対策推進計画」を策定した。

熊本大学病院においては、熊本県と連携しながら、当該計画に基づいた各種活動を展開している。

② 臨床シミュレーションシステムを活用した医療人教育の促進

総合臨床研修センターにおいては、平成 19 年度に臨床シミュレーションシステムを導入した。

現在、当該システムを活用した研修プログラムを作成するため、臨床シミュレーションシステムワーキンググループを組織して検討を行っており、現段階で 8 つの医療分野（心肺蘇生法関係、身体診察関係、穿刺手技関係、内視鏡手技関係、産婦人科関係、外科手技関係、麻酔手技関係、看護教育関係）で 27 種類の教育プログラム案を作成するとともに、同施設利用に当たって、関係規則の整備を進めている。

今後は、院内の医療教育に活用し、更に充実を図った上で、地域の医療関係者に対しても、心肺蘇生法など今日の医療従事者全員が必要とする基礎的臨床能力や医療の職種ごとに必要とされる能力の向上、さらには内視鏡・外科・麻酔といった専門的な臨床能力の修得まで、幅広い分野においてシミュレーション教育を提供できる体制を整備し、地域における医療教育の中心的な役割を担うことを目指している。

③ 救急医療体制の構築

救急医療は「医の原点」といわれ、社会のセーフティネットの一つとして地域住民の安心・安全の確保のために不可欠な医療である。熊本県唯一の大学病院である熊本大学病院は二次および三次救急医療機関の指定を受け、軽症から重症（救命救急医療）まで、多種多様な救急患者を受け入れている。救急外来では、救急専門医数名を含むスタッフ医師を中心に、必要に応じて専門診療科の協力を得ながら初期診療を行い、重症患者は集中治療部（ICU）や高度治療室（HCU）に入室して高度な入院治療を行っている。

熊本大学病院の救急部門の体制整備により、医学科の臨床実習や卒後臨床研修における救急医学教育の場を提供している。

資料目次

資料1 熊本県の医師の状況

資料2 熊本県の地域医療における将来推計

資料3 志願者・入学者における県内高等学校出身者等の推移

資料4 令和3年度学校推薦型選抜学生募集要項(抜粋)

資料5 熊本県医師修学資金制度のお知らせ

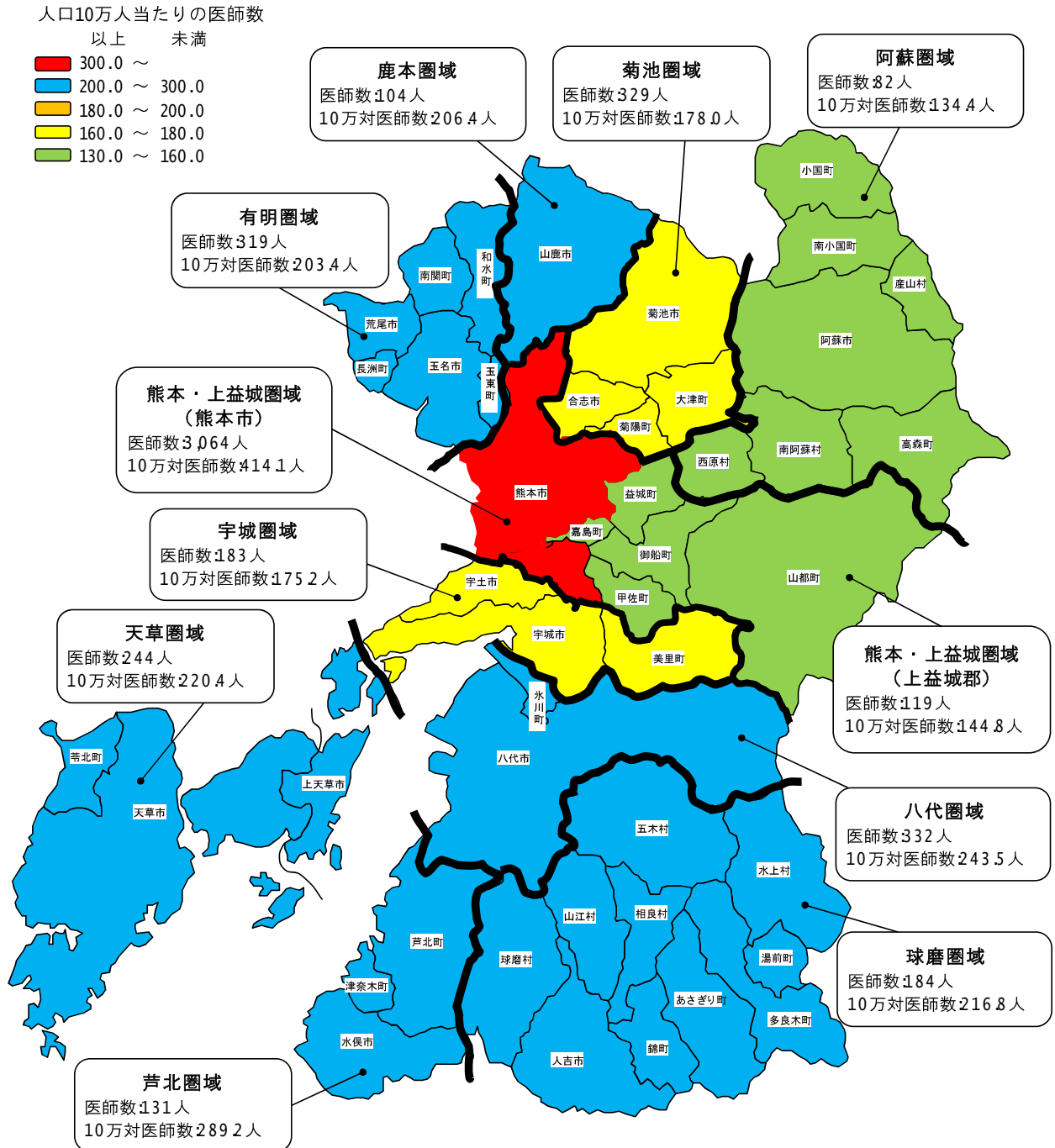
資料6 令和3年2月22日付プレスリリース等

資料7 熊本大学医学部医学科モデルカリキュラム

資料8 「令和4年度入学定員増員計画」の写し

【図1】 県内の医療施設従事医師数

熊本県の医師数(実数) : **5,091人**
 <人口10万人当たりの医師数> 熊本県**289.8人** 熊本市外**199.3人** 全国**246.7人**



(厚生労働省「平成30年医師・歯科医師・薬剤師調査」に基づき熊本県医療政策課作成)

【表1】県内の医療施設従事医師数の推移※

圏域	平成20年	平成22年	平成24年	平成26年	平成28年	平成30年	平成20年→平成30年	
							増減数	増減率
全国	271,897	280,431	288,850	296,845	304,759	311,963	40,066	14.7%
熊本県	4,450	4,679	4,814	4,938	5,001	5,091	641	14.4%
熊本・上益城	2,694	2,894	3,029	3,137	3,172	3,183	489	18.2%
熊本市	2,575	2,780	2,911	3,016	3,057	3,064	489	19.0%
上益城郡	119	114	118	121	115	119	0	0.0%
宇城	164	177	183	182	174	183	19	11.6%
有明	274	282	279	284	289	319	45	16.4%
鹿本	95	92	95	93	97	104	9	9.5%
菊池	285	296	312	311	322	329	44	15.4%
阿蘇	80	81	81	92	86	82	2	2.5%
八代	294	302	294	310	318	332	38	12.9%
芦北	135	135	133	134	136	131	▲4	-3.0%
球磨	181	174	166	161	176	184	3	1.7%
天草	248	246	242	234	231	244	▲4	-1.6%
熊本市外	1,875	1,899	1,903	1,922	1,944	2,027	152	8.1%

【表2】県内の人口10万人当たりの医療施設従事医師数の推移

圏域	平成20年	平成22年	平成24年	平成26年	平成28年	平成30年	平成20年→平成30年	
							増減数	増減率
全国	212.9	219.0	226.5	233.6	240.1	246.7	33.8	15.9%
熊本県	244.2	257.5	266.4	275.3	281.9	289.8	45.6	18.7%
熊本・上益城	323.3	329.6	352.1	367.4	379.6	385.3	62.0	19.2%
熊本市	353.1	378.5	394.6	407.6	413.1	414.1	61.0	17.3%
上益城郡	134.9	130.4	136.1	140.5	137.4	144.8	9.9	7.3%
宇城	146.6	159.5	167.3	168.4	164.1	175.2	28.6	19.5%
有明	160.9	167.0	167.9	173.9	180.7	203.4	42.5	26.4%
鹿本	168.5	166.1	175.5	175.3	187.4	206.4	37.9	22.5%
菊池	166.7	170.0	175.6	172.3	176.7	178.0	11.3	6.8%
阿蘇	116.4	119.4	121.2	140.7	136.3	134.4	18.0	15.5%
八代	200.8	208.3	205.5	220.1	229.4	243.5	42.7	21.3%
芦北	255.8	262.9	266.1	277.2	290.1	289.2	33.4	13.1%
球磨	187.4	183.7	179.6	179.4	201.0	216.8	29.4	15.7%
天草	189.7	193.3	196.5	196.6	200.7	220.4	30.7	16.2%
熊本市外	171.6	175.4	177.9	182.3	187.8	199.3	27.7	16.1%

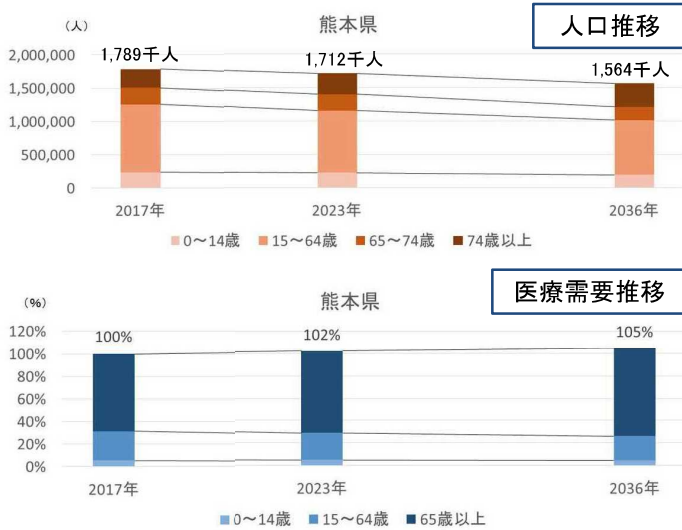
(〔表1・表2〕：厚生労働省「医師・歯科医師・薬剤師調査」を基に熊本県医療政策課作成)

※ 旧城南町、旧富合町及び旧植木町についてな熊本市の合併前から熊本・上益城圏域(熊本市)に、旧蘇陽町については旧矢部町及び旧清和村と合併して山都町となる前から熊本・上益城圏域(上益城)に含めています。

熊本県の地域医療における将来推計

1. 人口・医療需要の推計

- 2036年に向けて、県全体では人口は減少傾向にあるものの、医療需要は増加傾向。
- ただし、圏域ごとに見ると、2036年に向けて医療需要が増加又は現状維持となるのは熊本・上益城、宇城及び菊池圏域のみ。



二次医療圏名	医療需要の推移 (2017年を100%)	
	2023年	2036年
県全体	102%	105%
熊本・上益城	108%	118%
宇城	101%	100%
有明	98%	92%
鹿本	96%	90%
菊池	107%	121%
阿蘇	98%	93%
八代	97%	92%
芦北	94%	83%
球磨	95%	87%
天草	94%	84%

【厚生労働省「平成30年度医師偏在指標作成支援データ集」を基に熊本県医療政策課作成】

熊本県の地域医療における将来推計

令和元年7月2日 第1回熊本県地域医療対策協議会資料を一部改編のうえ再掲

2. 厚生労働省資料に基づく2036年の必要医師数

- 厚生労働省の計算によると、将来時点において、複数の圏域で医師が不足する可能性。

将来時点(2036年)における必要医師数

※下位:過去の医師増減実績を最小に見積もっても達成できる医師数
上位:過去の医師増減実績を最大に見積もった時の医師数

二次医療圏名	2036年				
	必要医師数①	供給推計		過剰医師数 (②-①)	不足医師数 (③-①)
		下位②	上位③		
熊本県全体	4086	4576	6476	—	—
熊本・上益城	2264	2955	4181	690	—
宇城	289	147	208	—	▲ 81
有明	396	253	358	—	▲ 38
鹿本	139	87	123	—	▲ 17
菊池	500	283	401	—	▲ 99
阿蘇	190	75	106	—	▲ 84
八代	355	294	416	—	—
芦北	131	125	177	—	—
球磨	241	156	220	—	▲ 21
天草	306	202	285	—	▲ 21

(厚生労働省 医師需給分科会資料(H31.3.22))

志願者・入学者における県内高等学校出身者等の推移

【総合型選抜及び学校推薦型選抜】

区分	入学定員	全体		熊本県内			九州内（熊本県を除く）			九州外		
		志願者数	入学者数	志願者数	入学者数	入学者の割合	志願者数	入学者数	入学者の割合	志願者数	入学者数	入学者の割合
平成20年度	100	1,365	101	289	32	32%	502	43	43%	574	26	25%
平成21年度	110	886	111	243	41	37%	329	49	44%	314	21	19%
平成22年度	115	871	116	272	45	39%	349	55	47%	250	16	14%
平成23年度	115	923	116	290	52	45%	354	44	38%	279	20	17%
平成24年度	115	1,133	116	292	42	36%	415	35	30%	426	39	34%
平成25年度	115	868	116	210	40	34%	352	56	48%	306	20	18%
平成26年度	115	609	116	141	26	22%	270	54	47%	198	36	31%
平成27年度	115	770	115	149	31	27%	299	54	47%	322	30	26%
平成28年度	115	411	115	107	36	31%	151	52	45%	153	27	24%
平成29年度	115	599	116	132	42	36%	184	37	32%	283	37	32%
平成30年度	115	410	115	116	40	35%	147	46	40%	147	29	25%
平成31年度	115	620	116	129	45	39%	209	50	43%	282	21	18%
令和2年度	110	574	110	123	41	37%	206	54	49%	245	15	14%
令和3年度	110	388	110	125	51	46%	151	45	41%	112	14	13%

【学校推薦型選抜（一般枠）】

区分	入学定員	全体		熊本県内			九州内（熊本県を除く）			九州外		
		志願者数	入学者数	志願者数	入学者数	入学者の割合	志願者数	入学者数	入学者の割合	志願者数	入学者数	入学者の割合
平成20年度	10	37	10	5	2	20%	23	7	70%	9	1	10%
平成21年度	15	45	15	11	4	27%	21	7	47%	13	4	26%
平成22年度	15	53	15	8	5	33%	34	10	67%	11	0	0%
平成23年度	15	48	15	6	4	27%	30	10	67%	18	1	6%
平成24年度	15	69	15	7	5	33%	43	7	47%	19	3	20%
平成25年度	15	36	15	5	3	20%	24	12	80%	7	0	0%
平成26年度	15	36	15	6	2	13%	19	11	73%	11	2	14%
平成27年度	15	43	15	4	3	20%	26	11	73%	13	1	7%
平成28年度	15	42	15	7	3	20%	21	10	67%	14	2	13%
平成29年度	15	39	15	8	7	47%	17	5	33%	14	3	20%
平成30年度	15	72	15	7	4	27%	34	7	47%	31	4	26%
平成31年度	15	75	15	11	5	33%	23	7	47%	41	3	20%
令和2年度	15	69	15	10	4	27%	29	10	67%	30	1	6%
令和3年度	15	45	16	6	4	25%	24	10	63%	15	2	12%

【学校推薦型選抜（地域枠）】

区分	入学定員	全体		熊本県内			九州内（熊本県を除く）			九州外		
		志願者数	入学者数	志願者数	入学者数	入学者の割合	志願者数	入学者数	入学者の割合	志願者数	入学者数	入学者の割合
平成20年度		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
平成21年度		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
平成22年度	5	7	5	7	5	100%	-	-	-	-	-	-
平成23年度	5	13	5	13	5	100%	-	-	-	-	-	-
平成24年度	5	11	5	11	5	100%	-	-	-	-	-	-
平成25年度	5	8	5	8	5	100%	-	-	-	-	-	-
平成26年度	5	10	5	10	5	100%	-	-	-	-	-	-
平成27年度	5	10	5	10	5	100%	-	-	-	-	-	-
平成28年度	5	11	5	11	5	100%	-	-	-	-	-	-
平成29年度	5	13	5	13	5	100%	-	-	-	-	-	-
平成30年度	5	18	5	18	5	100%	-	-	-	-	-	-
平成31年度	5	15	5	15	5	100%	-	-	-	-	-	-
令和2年度	5	14	5	14	5	100%	-	-	-	-	-	-
令和3年度	5	10	5	10	5	100%	-	-	-	-	-	-

令和3年度（2021年度）
学校推薦型選抜 学生募集要項

○学校推薦型選抜 II

（大学入学共通テストを課す）

教 育 学 部
医 学 部
薬 学 部
工 学 部

インターネットによる出願受付のみ



医学部

熊本大学医学部では、医学・保健学（看護学・放射線技術科学・検査技術科学）の発展に寄与し、広く社会に貢献できる医療者・研究者・教育者を育成するために、豊かな人間性、優れた協調性、高い倫理観、十分な基礎学力、科学的探究心、国際的視野を持つ人を求めています。

〈医学科〉

I 教育理念・目標及び求める人材像

熊本大学医学部医学科の使命

豊かな人間性と高い倫理観を持ち、医学およびその関連領域における社会的な使命を追求、達成しうる医師・医学者を育てる。

アドミッション・ポリシー

熊本大学医学部医学科の使命を達成するために、医学部医学科では、次のような人を求めています。

1. 病める人たちやその家族の気持ちを理解できる人
2. チーム医療の中心的役割を果たすための優れた協調性を持つ人
3. 地域医療に関心を持ち、地域住民の健康増進に貢献する意欲を持つ人
4. 科学的探究心が旺盛で、国際的視野で医科学研究を展開する意欲に溢れる人
5. 社会に対する幅広い視野を有し、地域や国際社会における保健医療や福祉に深い関心を持つ人
6. 日々進歩する医学や医療の最新知識を吸収できる基礎学力を持ち、生涯にわたって自己学習を継続できる人

II 入学者選抜の基本方針

医学部医学科の入学試験では、高等学校までの教育課程を踏まえ、基礎的知識（基礎学力）・論理的思考力・判断力・表現力等を評価します。

（医学科への入学までに身につけてほしいこと）

受験生の多様性に合わせて、大学入学共通テスト及び個別学力検査では物理・化学・生物から2科目選択となっていますが、入学後、医学科の様々な専門科目の基礎として、高等学校で学ぶ「生物・生物基礎」は重要な科目です。生物学の教科書はバランス良く構成されており、最新の生命現象についても平易に解説されていますので、幅広く学ぶことが必要です。

また、教科の基礎学力だけでなく、論理的な文章を書くための国語力、グローバルでグローバルな医療の世界での共有言語である英語の素養を十分に身につけ、国際的な広い視野とコミュニケーション能力を備えていることも重要です。

III 選抜方法

【特別入試】

1. 学校推薦型選抜Ⅱ（一般枠）

高等学校での学習成績が優秀であり、出身学校長が責任をもって推薦できる者を対象に、大学入学共通テスト、推薦書、調査書及び面接で総合的に選抜します。

2. 学校推薦型選抜Ⅱ（地域枠）

将来、地域医療を目指す者で、高等学校での学習成績が優秀であり、出身学校長が責任をもって推薦できるものを対象に、大学入学共通テスト、推薦書、調査書及び面接で総合的に選抜します。

IV 各選抜で特に重視するポイント（◎：特に大きい比重，○：大きい比重）

評価観点	学力の3要素			求める人材像 (アドミッション・ポリシー)		
	知識・技能 (基礎学力)	思考力, 判断力, 表現力	主体性, 多様性, 協働性	チーム医療に 必要とされる コミュニケーション能力・ 協調性	地域医療 への関心 ・貢献	医学研究 への関心・ 持続的な学 習意欲
入試区分						
前期日程	◎	◎	◎	◎	◎	◎
学校推薦型選 抜Ⅱ（一般枠）	◎	◎	◎	◎	◎	◎
学校推薦型選 抜Ⅱ（地域枠）	◎	◎	◎	◎	◎	◎
私費外国人 留学生入試	◎	◎	◎	○	○	○

〈保健学科〉

I 教育理念・目標及び求める人材像

保健学（看護学，放射線技術科学，検査技術科学）の発展を担い，広く社会に貢献できる資質の高い医療者・研究者・教育者を育成するために，保健学科では次のような人を求めています。

1. 看護職（看護師，保健師，助産師）並びに診療放射線技師，臨床検査技師という職業に魅力を感じ，専門分野において地域貢献するとともに，国際的な広い視野で物事を考え，活躍する意欲と熱意のある人
2. 人間に対する尊厳の念を持ち，多様な価値観を受け入れる寛容さと優れた協調性を備えた人間性豊かな人で，医療における高い倫理観とマナーを育ていける資質を持った人
3. 高等学校までの履修科目の基礎事項を理解した上で，国語，外国語とともに2科目以上の理科（生物，化学，物理）において優れた学力を有する人
4. 高等学校までに自らの目標に基づいて取り組んだ経験やクラブ活動あるいは生徒会活動，ボランティア活動等の経験を有し，様々な社会環境を受け入れることができる豊かな人間性を持った人
5. 専門分野の知識や技術に興味・関心を持って学び，実験や臨地実習においても真摯な態度で自らの課題を設定して問題解決し，新しい分野にも積極的に取り組んでいくフロンティア精神を持った人
6. 協調性に富み，チーム医療の一員としてお互いの仕事を尊重しつつ協同的に働き，専門分野における役割・機能の責務を果たし，指導的役割を担える資質を有する人
7. 科学的探求心と積極的学習意欲を備え，学部卒業後は専門職業人や教育者・研究者としての能力を高め，指導的立場に立って社会貢献しようという意欲のある人

II 入学者選抜の基本方針

医学部保健学科の入学試験では，高等学校までの教育課程を踏まえ，基礎的知識（基礎学力）・思考力・判断力・表現力等を評価します。また，入学後のカリキュラムを考慮して，選抜にあたっては数学・理科科目を主とした論理的思考能力や科学的探求心，英語科目による読解・表現のための外国語能力，国語科目を主とした理解力及び構成的論述能力，医療従事者に必要な倫理観や協調性，社会貢献等への関心やその他学習意欲等を重視します。

募集人員・出願方法

本学では、特別選抜として学校長（出願要件を満たす教育施設）の推薦に基づき、入学定員の一部について、次のとおり入学者選抜を実施します。

1. 募集人員

学 部	学 科 ・ 課 程 ・ 専 攻		募 集 人 員	
教育学部	小学校教員養成課程		30人	
	中学校教員養成課程	理 科	5人	
		技 術	2人	
		家 庭	2人	
	特別支援教育教員養成課程		6人	
養護教諭養成課程		8人		
医学部	医 学 科		(一般) 15人	(地域) 5人
	保健学科	看 護 学 専 攻	18人	
		放射線技術科学専攻	9人	
		検査技術科学専攻	9人	
薬学部	薬 学 科		10人	
	創薬・生命薬科学科		10人	
工学部	土 木 建 築 学 科		26人	(イ) 各学科 若干名
	機 械 数 理 工 学 科		21人	
	情 報 電 気 工 学 科		30人	
	材 料 ・ 応 用 化 学 科		34人	
合 計		240人		

(備考)

- 教育学部中学校教員養成課程（技術）の募集人員2人は、職業教育（工業・農業系）を主とする専門高校（学科）又は職業教育（工業・農業系）を主とする総合学科の出身者を対象としています。
- 医学部医学科（地域枠）の募集人員5人は、熊本県内高等学校の出身者で熊本県医師修学資金の貸与を受ける者を対象としています。
- 工学部（イ）の募集人員若干名は、工学部（ア）の募集人員の枠内とし、職業教育を主とする専門高校（学科）及び総合学科の出身者を対象としています。
- 学校推薦型選抜の入学手続完了者が募集人員に満たない場合（合格者が募集人員に満たなかった場合も含む）は、その不足する人員を前期日程の募集人員に加えます。

※ 医学部医学科の募集人員について

医学部医学科では、本来、入学定員（募集人員）が105人のところ、令和3年度（2021年度）入試における入学定員（募集人員）は110人（一般選抜（前期日程）：90人、学校推薦型選抜Ⅱ：20人（一般枠：15人、地域枠：5人））となっています。これは、熊本県内の地域医療に志のある学生の入学を推進し、地域等における医師不足を解消することを目的として、学校推薦型選抜Ⅱ（地域枠）において5人の臨時定員増員を行っているためです。

臨時定員増員に関する令和4年度（2022年度）入試以降の取扱いは、当該時点における医師養成数の将来見通しや定着状況を踏まえて判断されることになっているため、現時点で延長の有無は未定です。

なお、本件については、詳細が決まり次第、本学ウェブサイトで情報を更新していきますので、随時確認するようにしてください。（<https://www.kumamoto-u.ac.jp/nyuushi/gakubunyushi> 参照）

※ 工学部の教育プログラムについて

工学部では、4学科で学生を募集し、学科単位で選抜を行いますが（総合型選抜を除く。）、入学者は2年次進級の際にさらに学科毎に3つの教育プログラムに分かれて所属します。各教育プログラムの受け入れ可能な人数には制約があり、教育プログラムへの配属は希望と1年次の成績に基づいて決定されます。同一学科内であっても、配属される教育プログラムによって取得可能な資格等に違いがありますので注意してください。（<https://www.eng.kumamoto-u.ac.jp/department/> 参照）

2. 出願方法

国公立大学（※独自日程で入学者選抜試験を行う公立大学・学部を除く。以下同じ。）の学校推薦型選抜（大学入学共通テストを課す選抜、課さない選抜を含めて）へ出願できるのは、一つの大学・学部・学科に限られています。

したがって、本学の学校推薦型選抜に出願した者は、他の国公立大学が実施する学校推薦型選抜に出願することはできません。

※公立大学協会ウェブサイト（<http://www.kodaikyo.org/nyushi>）参照

2. 医学部 医学科 (一般枠)

(1) 募集人員

医学科 15人

(2) 推薦の要件

推薦人員は、一つの学校から1人とします。ただし、熊本県、福岡県、佐賀県、長崎県、大分県、宮崎県、鹿児島県の学校については、2人以内とします。

なお、学校推薦型選抜Ⅱ（地域枠）との併願はできません。

志望学科への入学の意志が強固な者で、次の1)～4)の全ての要件を満たすもの

1) 次のいずれかに該当する者

- ① 高等学校（特別支援学校の高等部を含む。）又は中等教育学校を令和3年3月卒業見込みの者（令和2年度中に卒業を認められる者を含む。）
- ② 高等専門学校の第3学年を令和3年3月修了見込みの者
- ③ 文部科学大臣が高等学校の課程と同等の課程又は相当する課程を有するものとして認定又は指定した在外教育施設の当該課程を令和3年3月修了見込みの者（令和2年度中に修了を認められる者を含む。）

2) 上記1)の教育施設における学習成績の状況が4.0以上であって、人物・能力及び適性等について当該学校長が責任をもって推薦できる者

3) 令和3年度大学入学共通テストの5教科7科目以上（「(3) 選抜方法」参照）を受験した者

4) 合格した場合、入学することを確約できる者

(3) 選抜方法

大学入学共通テスト、推薦書、調査書、志望理由書（800字程度）及び面接の成績により総合的に判定します。

大学入学共通テストで受験を要する教科・科目

学 科	教 科 ・ 科 目
医 学 科	国 : 国語……1 地歴 : 世B, 日B, 地理B 公民 : 現社, 倫, 政経, 倫・政経 } から1 数 : 数I・数A……1 数II・数B, ※簿, ※情報から1 } 2 理 : 物理, 化学, 生物から2 外 : 英, 独, 仏, 中, 韓から1 <div style="text-align: right;">[5教科7科目]</div>

(注) 1. 「地歴」及び「公民」の教科について、2科目を受験している者の成績は、第1解答科目の成績を採用します。

2. 「地歴」及び「公民」の教科について、第1解答科目が医学科の指定した利用教科・科目でなく、第2解答科目が医学科の指定した利用教科・科目である場合は、当該利用教科・科目を「0点」として取扱います。

3. 大学入学共通テストで受験を要する教科・科目欄中※印の科目を選択解答できる者は、出願要件となる教育施設においてこれらの科目を履修した者に限ります。

(4) 評価基準・配点

1) 評価基準

【面接】

医学科の教育を受けるために必要な基礎学力，科学的・知的探究心，医学に対する熱意と適性，柔軟な思考力，高等学校における活動状況を参考とします。

調査書，推薦書及び志望理由書を参考にしながら，複数の面接官による個人面接を実施します。

2) 配点

区分 学科	大学入学共通テスト					個別学力検査等		合計	
	教科・科目等					計	面接		計
	国語	地歴・公民	数学	理科	外国語				
医学科	200	100	200	200	200	100	15	15	115
	合計点を100点に換算する								

※大学入学共通テストで課す「外国語『英語』」については，リーディング100点満点を200点満点に，リスニング100点満点を50点満点に換算し，その合計点を200点満点に圧縮したうえで，学科における配点のとおり換算します。

また，大学入学共通テスト（特例追試験）の受験者については，「外国語『英語』」の筆記（200点満点）とリスニング（50点満点）の合計点を200点満点に圧縮したうえで，学科における配点のとおり換算します。

なお，リスニング免除者及び英語以外の「外国語」受験者については，リーディング100点満点を200点満点に換算し，学科における配点のとおり換算します。

(5) 合否判定基準

- 1) 令和3年度大学入学共通テストの 5教科7科目以上を受験し，かつ，7科目合計点の80%以上を得た者を対象に，総得点の高い順に募集人員の範囲で合格者を決定します。
- 2) 面接について，複数の面接官が最低の評価点を与えた場合，合格としません。

(6) 試験日時等

- 1) 日時 令和3年2月6日(土) 集合時間 12時30分
- 2) 試験場 熊本大学医学部医学科 熊本市中央区本荘1丁目1番1号

※ インターネット出願登録システムから出力した本学の受験票（学校推薦型選抜Ⅱ用）及び「大学入学共通テスト受験票」を持参してください。

[本件に関する問合せ先]

熊本大学医薬保健学系事務課医学事務チーム教務担当 電話：096-373-5027

3. 医学部 医学科 (地域枠)

(1) 募集人員

医学科 5人

(2) 推薦の要件

熊本県内の高等学校から募集し、推薦できるのは一つの学校から2人以内とします。

なお、学校推薦型選抜Ⅱ（一般枠）との併願はできません。

推薦要件は、志望学科への入学の意志が強固、かつ将来、熊本県の地域医療を目指す者で、次の

1)～4)までの全ての要件を満たすもの

- 1) 高等学校（特別支援学校の高等部を含む。）又は中等教育学校を令和2年3月以降に卒業した者及び令和3年3月卒業見込みの者
- 2) 上記1)の教育施設における学習成績の状況が4.0以上であって、将来、熊本県の地域医療において中心的役割を担う人材であると判断でき、人物・能力及び適性等について当該学校長が責任をもって推薦できる者
- 3) 令和3年度大学入学共通テストの5教科7科目以上（「(3)選抜方法」参照）を受験した者
- 4) 合格した場合、熊本県医師修学資金の貸与を受け入学し、在学中は継続して貸与を受けることを確約できる者（注）

（注）卒業後の決められた一定期間、熊本県知事が指定する地域の病院等で勤務していただきます。

(3) 選抜方法

大学入学共通テスト、推薦書、調査書、志望理由書（地域医療に対する抱負や意見について800字程度）及び面接の成績により総合的に判定します。

大学入学共通テストで受験を要する教科・科目

学 科	教 科 ・ 科 目	
医 学 科	国 : 国語……1	
	地歴 : 世B, 日B, 地理B	
	公民 : 現社, 倫, 政経, 倫・政経	} から 1
	数 : 数Ⅰ・数A……1	
	数Ⅱ・数B, ※簿, ※情報から 1	} 2
	理 : 物理, 化学, 生物から 2	
外 : 英, 独, 仏, 中, 韓から 1		
	[5教科7科目]	

(注) 1. 「地歴」及び「公民」の教科について、2科目を受験している者の成績は、第1解答科目の成績を採用します。

2. 「地歴」及び「公民」の教科について、第1解答科目が医学科の指定した利用教科・科目でなく、第2解答科目が医学科の指定した利用教科・科目である場合は、当該利用教科・科目を「0点」として取扱います。

3. 大学入学共通テストで受験を要する教科・科目欄中※印の科目を選択解答できる者は、出願要件となる教育施設においてこれらの科目を履修した者に限ります。

(4) 評価基準・配点

1) 評価基準

【面接】

医学科の教育を受けるために必要な基礎学力，科学的・知的探究心，医学（地域医療を含む）に対する熱意と適性，柔軟な思考力，高等学校における活動状況を参考とします。

調査書，推薦書及び志望理由書を参考にしながら，複数の面接官による個人面接を実施します。

2) 配点

学科	大学入学共通テスト					計	個別学力検査等		合計
	教科・科目等						面接	計	
	国語	地歴・公民	数学	理科	外国語				
医学科	200	100	200	200	200	100	30	30	130
合計点を100点に換算する									

※大学入学共通テストで課す「外国語『英語』」については，リーディング100点満点を200点満点に，リスニング100点満点を50点満点に換算し，その合計点を200点満点に圧縮したうえで，学科における配点のとおり換算します。

また，大学入学共通テスト（特例追試験）の受験者については，「外国語『英語』」の筆記（200点満点）とリスニング（50点満点）の合計点を200点満点に圧縮したうえで，学科における配点のとおり換算します。

なお，リスニング免除者及び英語以外の「外国語」受験者については，リーディング100点満点を200点満点に換算し，学科における配点のとおり換算します。

(5) 合否判定基準

- 1) 令和3年度大学入学共通テストの **5教科7科目以上を受験し，かつ，7科目合計点の78%以上を得た者を対象に**，総得点の高い順に募集人員の範囲で合格者を決定します。
- 2) 面接について，複数の面接官が最低の評価点を与えた場合，合格としません。

(6) 試験日時等

- 1) 日 時 令和3年2月6日(土) 集合時間 12時30分
- 2) 試験場 熊本大学医学部医学科 熊本市中央区本荘1丁目1番1号

※ インターネット出願登録システムから出力した本学の受験票（学校推薦型選抜Ⅱ用）及び「大学入学共通テスト受験票」を持参してください。

〔本件に関する問合せ先〕

熊本大学医薬保健学系事務課医学事務チーム教務担当 電話：096-373-5027

「熊本県医師修学資金」について

学校推薦型選抜Ⅱ（地域枠）による合格者は，熊本県医師修学資金の貸与を受けていただきます。この修学資金は，医師が不足している地域の医師確保を目的としたものです。貸与を受けた方は，熊本県医師修学資金貸与医師キャリア形成プログラム（熊本県医師修学資金貸与条例，熊本県医師修学資金貸与医師の勤務等に関する要綱で規定）の対象となり，大学卒業後には貸与を受けた期間の1.5倍に相当する期間（6年間貸与を受けた場合は9年間），熊本県知事が指定する医師不足地域の病院等で勤務していただきます。（この期間には，熊本県内の医療機関で行う2年間の初期臨床研修，1年間の後期研修の期間を含みます。）必要な勤務期間を満了すると，貸与を受けた修学資金の返還が免除されます。なお，当該指定病院等で医師業務に従事しなかった場合等，被貸与者となった後，熊本県医師修学資金貸与条例第8条に規定する事項に該当した場合，貸与を受けた修学資金の額に利息を加えた額を一定期間内に一括して返還する必要が生じますのでご注意ください。

- ・ 貸与内訳：入学料相当額（1年生のみ），授業料相当額，生活費相当額（月額75,000円）
（6年間で約900万円程度の貸与となります。）

熊本県医師修学資金の詳しい内容については，以下の問合せ先へお尋ねください。

〔問合せ先〕熊本県医療政策課（電話）096-333-2204

熊本県医師修学資金制度の お知らせ



推薦入試Ⅱ（地域枠）による合格者は、熊本県医師修学資金の貸与を受けていただきます。この修学資金は、医師が不足している地域の医師確保を目的としたもので、大学卒業後の一定期間、知事が指定する地域の病院等*で勤務した場合は、修学資金の返還が全額免除されます。

※知事の指定する病院及び診療所で、熊本県内の公的な医療機関を中心とした35施設

1 貸与内容

対象者	熊本大学医学部医学科推薦入試Ⅱ（地域枠）入学者 ※熊本県内の高等学校からの推薦者が対象 ※選抜は熊本大学が実施
貸与額 （定額）	① 入学料相当額 <u>282,000円</u> （入学年度のみ） ② 授業料相当額 <u>535,800円</u> （年額） ③ 生活費相当額 <u>75,000円</u> （月額） ※6年間の貸与総額見込み： <u>8,896,800円</u>
定員数	5人

2 返還免除の要件等

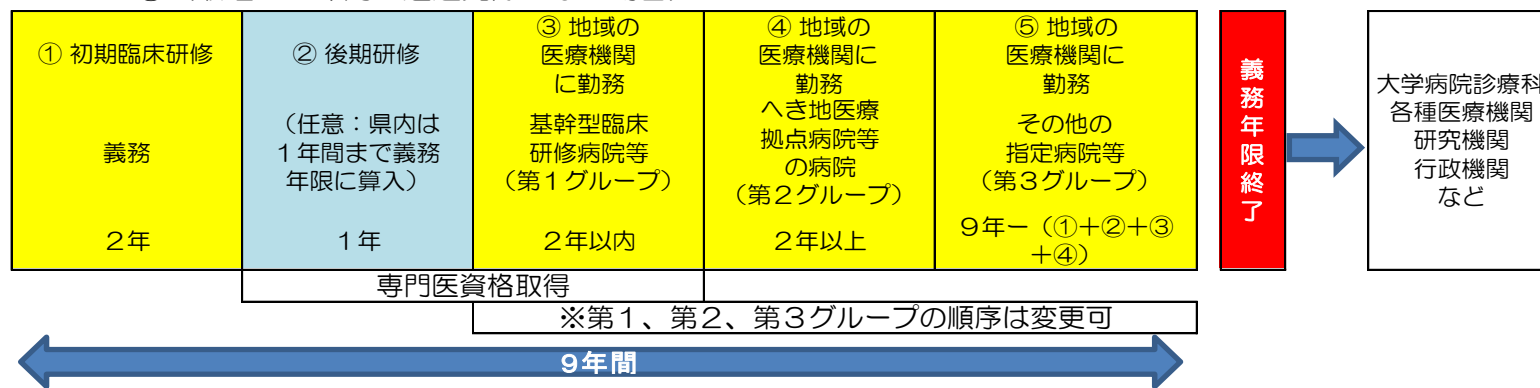
貸与期間と 義務年限*	貸与期間：入学年度の4月から、大学を卒業する日の属する月 義務年限：貸与期間の1.5倍に相当する期間 ・貸与期間：6年間の場合 ⇒ 義務年限：9年間 ※大学卒業後、知事指定病院等で医師として勤務する期間
返還免除の 要件	① 大学卒業後、2年以内に医師の免許を取得すること。 ② 医師免許取得後、直ちに条例で定める病院（熊本大学医学部附属病院又は県内の基幹型臨床研修病院）で臨床研修に従事すること。 ③ 臨床研修修了後、直ちに知事が指定する病院等に勤務すること。 ④ 返還免除に必要な指定病院等での勤務期間を満たすこと。 等

3 申請方法

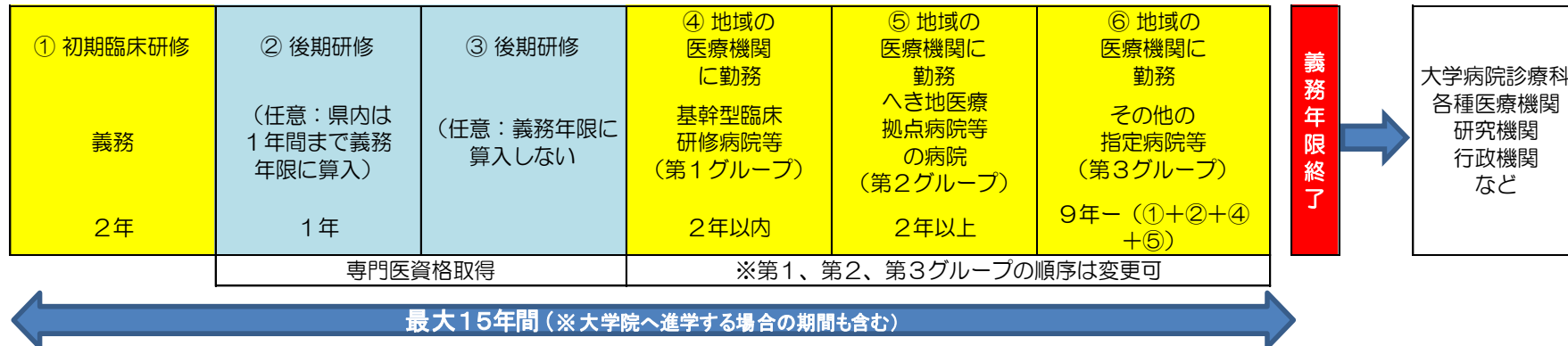
申請書類	熊本大学医学部医学科推薦入試Ⅱ（地域枠）の合格者に対して、手続案内を送付しますので、「貸与申請書」「誓約書」「住民票の写し」を提出してください。
提出先	〒860-8556 熊本市中央区本荘1丁目1番1号 熊本大学生命科学系事務課 医学事務チーム教務担当
申請期間 （予定）	3月

4 医師修学資金貸与医師のキャリアパス例

パターン①（最短の9年間で返還免除となる場合）



パターン②（義務年限期間外の後期研修を受ける場合）



※ 新専門医制度における専門医資格取得のために、1年を超えて後期研修を受けることができますが、義務年限期間に算入できるのは、県内医療機関での1年間までです。

5 知事が指定する病院等

第1グループ

	医療圏	開設者区分	種別	名称
1	有明圏域	荒尾市	病院	荒尾市民病院
2		地方独立行政法人	病院	公立玉名中央病院
3	鹿本圏域	山鹿市	病院	山鹿市民医療センター
4	菊池圏域	独立行政法人	病院	国立病院機構熊本再春医療センター
5	八代圏域	独立行政法人	病院	労働者健康安全機構熊本労災病院
6		独立行政法人	病院	地域医療機能推進機構熊本総合病院
7	芦北圏域	水俣市	病院	国保水俣市立総合医療センター
8	球磨圏域	独立行政法人	病院	地域医療機能推進機構人吉医療センター
9	天草圏域	医師会	病院	天草郡市医師会立天草地域医療センター
10		独立行政法人	病院	地域医療機能推進機構天草中央総合病院

第2グループ

	医療圏	開設者区分	種別	名称
1	阿蘇圏域	阿蘇市	病院	阿蘇医療センター
2		南小国町・小国町	病院	小国公立病院
3	上益城圏域	山都町	病院	山都町包括医療センターそよう病院
4	球磨圏域	あさぎり町・多良木町・湯前町・水上村	病院	球磨郡公立多良木病院
5	天草圏域	上天草市	病院	上天草市立上天草総合病院
6		天草市	病院	国民健康保険天草市立河浦病院
7		天草市	病院	国民健康保険天草市立新和病院
8		天草市	病院	天草市立栖本病院

第3グループ

	医療圏	開設者区分	種別	名称
1	熊本医療圏	熊本県	病院	こころの医療センター
2	宇城圏域	独立行政法人	病院	国立病院機構・熊本南病院
3		熊本県	病院	こども総合療育センター
4		宇城市	病院	宇城市民病院
5	有明圏域	恩賜財団	病院	済生会みすみ病院
6		地方独立行政法人	病院	玉名地域保健医療センター
7		和水町	病院	国民健康保険和水町立病院
8	菊池圏域	医師会	病院	菊池郡市医師会立病院
9		独立行政法人	病院	国立病院機構・菊池病院
10	八代圏域	医師会	病院	八代市医師会立病院
11		医師会	病院	八代北部地域医療センター
12	天草圏域	天草市	病院	天草市立牛深市民病院
13		医師会	病院	天草郡市医師会立葦北医師会病院
14	阿蘇圏域	産山村	診療所	産山村診療所
15	八代圏域	八代市	診療所	八代市立椎原診療所
16	天草圏域	上天草市	診療所	上天草市立湯島へき地診療所
17		天草市	診療所	国民健康保険天草市立御所浦診療所

6 その他 地域医療の現場では、保健や福祉、行政等の関係者とも密に連携し、医療の面から地域をコーディネートする役割を持った総合診療専門医の活躍が期待されています。修学資金貸与学生等を対象にしたゼミ、実習、セミナー等へは、できる限り参加をお願いします。

7 問い合わせ先 熊本県 医療政策課
電話 096-333-2204 (直通)
E-mail: iryoseisaku@pref.kumamoto.lg.jp



©2010 熊本県 くまモン

令和3年2月22日

報道機関各位

熊本大学

熊本大学医学部医学科の入試制度が変わります

熊本大学医学部医学科では、令和4年度入学者選抜より、学校推薦型選抜Ⅱ（大学入学共通テストを課す）において、新たな入試区分として「熊本みらい医療枠」（募集人員10人）を設定いたします。また、このことに伴い、各選抜区分の募集人員を下記のとおり変更します。

その背景や趣旨については、別紙をご参照ください。

なお、これらの変更について、高等学校関係者へ広く周知し理解を深めていただけるよう、3月下旬に高等学校等の進路指導担当教員等を対象とした説明会を開催する予定です。広く一般の方へお知らせいただきますようよろしくお願いいたします。

記

【医学部医学科における入学定員等】

年度	令和3年度入試 (令和2年度に実施)		令和4年度入試 (令和3年度に実施)	
入試区分	一般選抜 (前期日程)	学校推薦型 選抜Ⅱ (大学入学共通 テストを課す)	一般選抜 (前期日程)	学校推薦型 選抜Ⅱ (大学入学共通 テストを課す)
入学定員	110人		110人(予定)*1	
募集人員	<u>90</u> 人	<u>20</u> 人 (内訳) ・一般枠 <u>15</u> 人 ・地域枠 <u>5</u> 人	<u>87</u> 人(予定)	<u>23</u> 人(予定) (内訳) ・一般枠 <u>5</u> 人 ・熊本みらい医療枠 <u>10</u> 人 ・地域枠 <u>8</u> 人

*1 令和4年度の入学定員については、文部科学省、厚生労働省から、「医療従事者の需給に関する検討会医師需給分科会」における議論を踏まえて、暫定的に令和2・3年度と同様の方法で設定し、臨時定員が維持される方針であることが通知されており、本学においても入学定員5人の臨時定員を維持することを計画しております。

今後、文部科学省大学設置・学校法人審議会での審議を経て、臨時定員の維持が認められた場合は、令和4年度の入学定員（募集人員）は令和2・3年度に引き続き110人となる予定です。

【お問い合わせ先】

熊本大学医薬保健学系事務課
医学事務チーム教務担当
担当：松崎
TEL：096-373-5027

熊本大学医学部医学科学学校推薦型選抜Ⅱにおける
「熊本みらい医療枠」の導入及び「地域枠」の増員について

背景

- ① 熊本県全体の医師数は全国平均を上回っていますが、その実情は、県内の地域によって医師の偏在が著しく、しかも医師が少ない地域の医師は、高齢化が進行している傾向が見られます。このような状況を踏まえ、2020年3月に策定された熊本県医師確保計画においては、本学病院、県医師会、関係医療機関及び県が連携し、「オール熊本で医師を育て地域を支える」を基本方針に掲げ、地域に定着する医師を増やすことを目指しています。
- ② これまで本学においては、熊本県医師修学資金の貸与を受け、卒業後の一定期間、知事が指定する地域（僻地）の病院で勤務することを条件とした「地域枠」（定員5人）を導入するとともに、地域枠以外の入試制度による入学者を対象として、熊本県医師修学資金貸与者の募集（募集人員5人）を行ってきました。しかしながら、この制度への応募が少なく、2019年度に募集が停止されたことから、将来、地域医療を担う医師が不足することが懸念されています。
- ③ 本学では医学研究を志す者を増やすことに力を入れており、本学大学院への進学率を高め、若手医学研究者及びリサーチマインドに富む臨床医を育成したいと考えています。

これらの背景を踏まえ、以下の趣旨に基づき、医学部医学科の入試制度を変更いたしました。

趣旨

- これまでの「地域枠」の定員を8人に増員するとともに、新たに、出願資格を熊本県出身者に限定し、かつ、卒業後の進路条件を緩やか（勤務する地域病院の選択肢を拡大）にするなど、多様性のある「熊本みらい医療枠」を導入することで、引き続き熊本県に定着し、地域医療を担う人材の確保に貢献します。
- 将来医学研究者及びリサーチマインドに富む臨床医を目指す医師を育成する観点から、「熊本みらい医療枠」入学者の卒業後の進路条件の選択肢に「本学大学院への進学」を加えることにより、熊本の未来の医療や臨床医学研究を推進・牽引する人材の育成を図ります。

令和4年度（2022年度） 入学者選抜要項

目	次
教育学部の改組計画について	1
1. 令和4年度入学者選抜の主な変更点	5
2. インターネット出願	7
3. アドミッション・ポリシー	
(1) 各学部学科・課程のアドミッション・ポリシー	8
(2) グローバルリーダーコース（文学部，法学部，理学部，工学部）の アドミッション・ポリシー	26
4. 入学者選抜概要	
(1) 募集人員	29
(2) 出願資格	30
(3) 志望方法	31
(4) 推薦方法	32
5. 入学者選抜実施日程	33
6. 入学者選抜方法等	34
7. 一般選抜	
入学者選抜の実施教科・科目等	38
8. 特別選抜	
(1) 総合型選抜【グローバルリーダーコース】	52
(2) 学校推薦型選抜	56
(3) 帰国生徒選抜	75
(4) 社会人選抜	78
(5) 私費外国人留学生選抜	79
9. 障がい等を有する入学志願者との事前相談	83
10. 入学志願者の入学検定料の免除	84
11. 学生募集要項等の公表時期及び入手方法	85
(参考資料)	
令和3年度入学試験実施状況表	86
熊本大学位置図	92

[令和3年6月]



IV 各選抜で特に重視するポイント（◎：特に大きい比重，○：大きい比重）

評価観点 入試区分	学力の3要素			求める人材像 (アドミッション・ポリシー)			
	知識・技能 (基礎学力)	思考力, 判断力, 表現力	主体性, 多様性, 協働性	論理的 思考力	科学的 探求心	応用力, 実践力	国際的情報取 集発信能力, 外国語能力
前期日程	◎	◎		◎		○	○
後期日程	◎	◎		◎		○	○
総合型選抜	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
私費外国人 留学生選抜	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎

※ 評価の観点の「求める人材像」の用語は、「I 求める学生像」の理学部が求める学生像を抽象化したものです。

医学部

熊本大学医学部では、医学・保健学（看護学・放射線技術科学・検査技術科学）の発展に寄与し、広く社会に貢献できる医療者・研究者・教育者を育成するために、豊かな人間性、優れた協調性、高い倫理観、十分な基礎学力、科学的探究心、国際的視野を持つ人を求めています。

<医学科>

I 求める学生像

熊本大学医学部医学科の使命

豊かな人間性と高い倫理観を持ち、医学およびその関連領域における社会的な使命を追求、達成しうる医師・医学者を育てる。

アドミッション・ポリシー

熊本大学医学部医学科の使命を達成するために、医学部医学科では、次のような人を求めています。

1. 病める人たちやその家族の気持ちを理解できる人
2. チーム医療の中心的役割を果たすための優れた協調性を持つ人
3. 地域医療に関心を持ち、地域住民の健康増進に貢献する意欲を持つ人
4. 科学的探究心が旺盛で、国際的視野で医科学研究を展開する意欲に溢れる人
5. 社会に対する幅広い視野を有し、地域や国際社会における保健医療や福祉に深い関心を持つ人
6. 日々進歩する医学や医療の最新知識を吸収できる基礎学力を持ち、生涯にわたって自己学習を継続できる人

II 入学者選抜の基本方針

医学部医学科の入学試験では、高等学校までの教育課程を踏まえ、基礎的知識（基礎学力）、論理的思考力・判断力・表現力等を評価します。

(医学科への入学までに身につけてほしいこと)

受験生の多様性に合わせて、大学入学共通テスト及び個別学力検査では物理・化学・生物から2科目選択となっていますが、入学後、医学科の様々な専門科目の基礎として、高等学校で学ぶ「生物・生物基礎」は重要な科目です。生物学の教科書はバランス良く構成されており、最新の生命現象についても平易に解説されていますので、幅広く学んでおくことが必要です。

また、教科の基礎学力だけでなく、論理的文章を書くための国語力、グローバルでグローバルな医療の世界での共有言語である英語の素養を十分に身につけ、国際的な広い視野とコミュニケーション能力を備えていることも重要です。

Ⅲ 選抜方法

【一般選抜】

1. 前期日程

「知識・技能」については、大学入学共通テストを利用して高等学校の教育課程の教科・科目に関する総合的な学力を、個別学力検査により、入学後の学習とより密接にかかわる教科・科目について学力をより深く判定します。また、「思考力・判断力・表現力」及び「主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度」については調査書及び面接により判定し、それらの判定結果から入学者を選抜します。

【特別選抜】

2. 学校推薦型選抜Ⅱ

「知識・技能」については、大学入学共通テストを利用して高等学校の教育課程の教科・科目に関する総合的な学力を、個別学力検査により、入学後の学習とより密接にかかわる教科・科目について学力をより深く判定します。また、「思考力・判断力・表現力」及び「主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度」については、推薦書、調査書及び面接により判定し、それらの判定結果から入学者を選抜します。

3. 私費外国人留学生選抜

「知識・技能」については、日本留学試験を利用してこれまでの教育課程の教科・科目及び日本語に関する総合的な学力を、個別学力検査により、入学後の学習とより密接にかかわる教科・科目について学力をより深く判定します。また、「思考力・判断力・表現力」及び「主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度」については面接により判定し、それらの判定結果から入学者を選抜します。

IV 各選抜で特に重視するポイント（◎：特に大きい比重，○：大きい比重）

評価観点 入試区分	学力の3要素			求める人材像 (アドミッション・ポリシー)		
	知識・技能 (基礎学力)	思考力, 判断力, 表現力	主体性, 多様性, 協働性	チーム医療に 必要とされる コミュニケーション能力・ 協調性	地域医療 への関心 ・貢献	医科学研究への関 心・持続 的な学習 意欲
前期日程	◎	◎	◎	◎	◎	◎
学校推薦型選 抜Ⅱ（一般枠）	◎	◎	◎	◎	◎	◎
学校推薦型選 抜Ⅱ（熊本み らい医療枠）	◎	◎	◎	◎	◎	◎
学校推薦型選 抜Ⅱ（地域枠）	◎	◎	◎	◎	◎	◎
私費外国人 留学生選抜	◎	◎	◎	○	○	○

<保健学科>

I 求める学生像

保健学（看護学，放射線技術科学，検査技術科学）の発展を担い，広く社会に貢献できる資質の高い医療者・研究者・教育者を育成するために，保健学科では次のような人を求めています。

1. 看護職（看護師，保健師，助産師）並びに診療放射線技師，臨床検査技師という職業に魅力を感じ，専門分野において地域貢献するとともに，国際的な広い視野で物事を考え，活躍する意欲と熱意のある人
2. 人間に対する尊厳の念を持ち，多様な価値観を受け入れる寛容さと優れた協調性を備えた人間性豊かな人で，医療における高い倫理観とマナーを育ていける資質を持った人
3. 高等学校までの履修科目の基礎事項を理解した上で，国語，外国語とともに2科目以上の理科（生物，化学，物理）において優れた学力を有する人
4. 高等学校までに自らの目標に基づいて取り組んだ経験やクラブ活動あるいは生徒会活動，ボランティア活動等の経験を有し，様々な社会環境を受け入れることができる豊かな人間性を持った人
5. 専門分野の知識や技術に興味・関心を持って学び，実験や臨地実習においても真摯な態度で自らの課題を設定して問題解決し，新しい分野にも積極的に取り組んでいくフロンティア精神を持った人
6. 協調性に富み，チーム医療の一員としてお互いの仕事を尊重しつつ協同的に働き，専門分野における役割・機能の責務を果たし，指導的役割を担える資質を有する人
7. 科学的探求心と積極的学習意欲を備え，学部卒業後は専門職業人や教育者・研究者としての能力を高め，指導的立場に立って社会貢献しようという意欲のある人

II 入学者選抜の基本方針

医学部保健学科の入学試験では，高等学校までの教育課程を踏まえ，知識・技能（基礎学力）・思考力・判断力・表現力等を評価します。また，入学後のカリキュラムを考慮して，選抜にあたっては数学・理科科目を主とした論理的思考力や科学的探究心，英語科目による読解・表現のための外国語能力，国語科目を主とした理解力及び構成的論述能力，医療従事者に必要な倫理観や協調性，社会貢献等への関心やその他学習意欲等を重視します。

4. 入学者選抜概要

(1) 募集人員

学 部	学 科・課 程・専 攻	入学定員	募 集 人 員 (人)												
			一 般 選 抜		特 別 選 抜										
			前 期 日 程	後 期 日 程	総合型選抜 (グローバルリーダーコース)	学校推薦型選抜		帰国生徒選抜	社会人選抜	私費外国人留学生選抜					
		学校推薦型選抜Ⅰ (大学入学共通テストを課さない)	学校推薦型選抜Ⅱ (大学入学共通テストを課す)												
文 学 部	総合人間学科	55	55	38	8		9								
	歴史学科	35	35	24	7		4								
	文学科	50	50	35	5	10	5					各学科 若干名			
	コミュニケーション情報学科	30	30	20			5								
	計	170	170	117	20	10	23								
教育学部	学校教育教員養成課程 初等・中等教育コース	220	小学校専攻	110	80				30						
			国語専攻	7	7										
			社会専攻	7	7										
			数学専攻	10	10										
			理科専攻	10	5					5					
			英語専攻	6	6										
			実技系専攻	音楽											
				美術											
				保健体育	20	10									
				技術								10			
				家庭											
			計	170	125						45				
			特別支援教育コース	20	14						6				
養護教育コース	30	22						8							
計	220	220	161					59							
法 学 部	法学科	210	210	145	25	10	30			若干名		若干名			
理 学 部	理学科	200	200	150	40	10						若干名			
医 学 部	医学科	110	※110	87					※23						
	保健学科	看護学専攻		70	50					18			2		
		放射線技術科学専攻	144	37	28					9					
		検査技術科学専攻		37	28					9					
		計	254	254	193					59			2		
薬 学 部	薬学科	55	55	40					15						
	創薬・生命薬科学科	35	35	25					10						
	計	90	90	65					25						
工 学 部	土木建築学科	124	124	82	11				26						
	機械数理工学科	109	109	73	10				21						
	情報電気工学科	149	149	100	14	20			30			各学科 若干名			
	材料・応用化学科	131	131	80	12				34						
	計	513	513	335	47	20			111						
合 計		1,657	1,657	1,166	132	50	53		254			2			

(備考) 1. 教育学部学校教育教員養成課程初等・中等教育コースの国語専攻，社会専攻，数学専攻，英語専攻は，一般選抜（前期日程）のみで募集する。

教育学部学校教育教員養成課程初等・中等教育コースの実技系専攻における一般選抜（前期日程）は，音楽，美術，保健体育，技術，家庭を統合して募集する。なお，学校推薦型選抜Ⅱ募集人員における（ ）内人数は，それぞれの合格者数の目安を示す。

教育学部学校教育教員養成課程初等・中等教育コースの小学校専攻における学校推薦型選抜Ⅱは，一般枠，地域枠，理数枠を設定し，募集人員はそれぞれ10人とする。

教育学部学校教育教員養成課程初等・中等教育コースにおける実技系専攻（技術）の学校推薦型選抜Ⅱは，職業教育（工業・農業系）を主とする専門高校（学科）又は職業教育（工業・農業系）を主とする総合学科の出身者を対象とする学校推薦型選抜の募集人員を示す。

2. 医学部医学科の学校推薦型選抜Ⅱ募集人員には，熊本みらい医療枠（熊本県出身等の卒業見込み者を対象とした学校推薦型選抜）の募集人員（10人），地域枠（熊本県出身等の卒業見込み者及び卒業者を対象とした学校推薦型選抜）の募集人員（8人）を含む。
3. 工学部の学校推薦型選抜Ⅱ募集人員には，職業教育を主とする専門高校（学科）及び総合学科の出身者を対象とした学校推薦型選抜の募集人員（若干名）を含む。（学校推薦型選抜Ⅱ（イ）と称する。）
4. 総合型選抜，学校推薦型選抜及び社会人選抜の入学手続完了者が募集人員に満たない場合（合格者が募集人員に満たなかった場合も含む）は，その不足する人員を前期日程の募集人員にそれぞれ加える。
5. 総合型選抜（グローバルリーダーコース）については，学部単位での募集とする。

※ 医学部医学科の募集人員について

医学部医学科では、本来、入学定員（募集人員）が105人のところ、令和4年度（2022年度）入試における入学定員（募集人員）は110人（一般選抜（前期日程）：87人、学校推薦型選抜Ⅱ：23人（一般枠：5人、熊本みらい医療枠：10人、地域枠：8人））となっています。これは、熊本県内の地域医療に志のある学生の入学を推進し、地域等における医師不足を解消することを目的として、令和2・3年度に引き続き、令和4年度においても入学定員5人の臨時定員を維持することを計画しているためです。

今後、文部科学省大学設置・学校法人審議会での審議を経て、臨時定員の維持が認められた場合に、令和4年度入試における入学定員は110人となり、本表の募集人員にて入学者選抜を実施する予定です。

なお、本件については、内容が確定次第、本学ウェブサイトで情報を更新していきますので、随時確認するようにしてください。（<https://www.kumamoto-u.ac.jp/nyuushi/gakubunyushi> 参照）

◎ 教育学部学校教育教員養成課程初等・中等教育コースにおける実技系専攻の募集について

一般選抜（前期日程）における実技系専攻は、音楽、美術、保健体育、技術、家庭を1専攻として統合し選抜を実施します。実技系専攻の志願者は、出願時に上記から1つを選択して出願するものとし、実技系専攻内で相互志望は認めません。

また、学校推薦型選抜Ⅱでは、実技系専攻として募集人員を設定しますが、音楽、美術、保健体育、技術、家庭で個別に選抜を実施し、募集人員欄に示す（ ）内の人数を合格者数の目安とします。

◎ 法学部法学科のコース所属について

法学部法学科の一般選抜合格による入学者は、1年次において「法学・公共政策学コース」に所属します。入学後のコース変更は可能ですが、その際は入学後の成績に基づく選考が行われます。学校推薦型選抜合格による入学者のコース所属は、57～58ページをご参照ください。

（<http://www.law.kumamoto-u.ac.jp/curriculum/> 参照）

◎ 工学部の教育プログラムについて

工学部は4学科で学生を募集し、学科単位で選抜を行いますが（総合型選抜を除く）、入学者は2年次進級の際にさらに学科毎に3つの教育プログラムに分かれて所属します。各教育プログラムの受け入れ可能な人数には制約があり、教育プログラムへの配属は希望と1年次の成績に基づいて決定されます。同一学科内であっても、配属される教育プログラムによって取得可能な資格等に違いがありますので注意してください。（<https://www.eng.kumamoto-u.ac.jp/department/> 参照）

(2) 出 願 資 格

次の1)～3)のいずれかに該当する者で、かつ、志望する学部・学科・課程・専攻が指定する令和4年度大学入学共通テストの教科・科目（指定する教科・科目以上を受験した者を含む）を受験した者とします。

ただし、特別選抜（総合型選抜、学校推薦型選抜、帰国生徒選抜、社会人選抜及び私費外国人留学生選抜）については、別に定める出願要件（52～79ページ参照）とします。

- 1) 高等学校又は中等教育学校を卒業した者及び令和4年3月までに卒業見込みの者
- 2) 通常の課程による12年の学校教育を修了した者及び令和4年3月までに修了見込みの者（※1）
※1 特別支援学校の高等部又は高等専門学校の3年次を修了した者（見込みの者）が該当します。
- 3) 学校教育法施行規則（昭和22年文部省令第11号）第150条の規定により、高等学校を卒業し

た者と同等以上の学力があると認められる者及び令和4年3月31日までにこれに該当する見込みの者（次のア～カに該当する者）

- ア. 外国において学校教育における12年の課程を修了した者又はこれに準ずる者で文部科学大臣の指定したもの
- イ. 文部科学大臣が高等学校の課程と同等の課程を有するものとして認定した在外教育施設の当該課程を修了した者
- ウ. 専修学校の高等課程（修業年限が3年以上であることその他の文部科学大臣が定める基準を満たすものに限る。）で文部科学大臣が別に指定するものを文部科学大臣が定める日以後に修了した者
- エ. 文部科学大臣の指定した者
- オ. 高等学校卒業程度認定試験規則による高等学校卒業程度認定試験に合格した者（旧規程による大学入学資格検定に合格した者を含む。）で、18歳に達したもの
- カ. 本学において、個別の入学資格審査により、高等学校を卒業した者と同等以上の学力があると認めた者で、18歳に達したもの（※2）

※2 上記出願資格のカ.により出願する場合は、個別の出願資格審査を行います。

詳細は、熊本大学学生支援部入試課（096-342-2148）にお問い合わせください。

期 限 令和3年8月31日（火）（必着、郵送に限る）まで

ただし、大学入学共通テスト出願の際に、他大学の個別の入学資格審査により出願資格の認定を受けて出願した者で、本学の個別学力検査に出願する場合は、令和4年1月20日（木）（必着、郵送に限る）までとします。

(3) 志 望 方 法

1) 一般選抜

各学部の出願方法は、次のとおりです。

学 部 等		前 期 日 程	後 期 日 程
文 学 部		4学科（総合人間学科，歴史学科，文学科，コミュニケーション情報学科）の中から1学科を志望してください。第2志望は認めません。	3学科（総合人間学科，歴史学科，文学科）の中から1学科を志望してください。第2志望は認めません。
教 育 学 部	学 校 教 育 教 員 養 成 課 程 初等・中等教育コース 特別支援教育コース	初等・中等教育コース（7専攻）及び特別支援教育コースの中から3つまで志望することができます。 なお、 <u>実技系専攻を志望する場合は、音楽，美術，保健体育，技術及び家庭のいずれか1つを志望してください。</u>	後期日程は実施しません。
	養護教育コース	他のコースと併せて志望することはできません。	
法 学 部		法学科を志望してください。	
理 学 部		理学科を志望してください。	

学校推薦型選抜Ⅱ（一般枠）（大学入学共通テストを課す）

実施学部・学科名	医学部 医学科																		
募集人員	5人																		
出願要件	<p>推薦人員は、一つの学校から1人とします。 ただし、熊本県、福岡県、佐賀県、長崎県、大分県、宮崎県、鹿児島県の学校については、2人以内とします。 なお、学校推薦型選抜Ⅱ（地域枠）及び（熊本みらい医療枠）との併願はできません。 志望学科への入学の意志が強固な者で、次の1)～4)の全ての要件を満たすもの</p> <p>1) 次のいずれかに該当する者</p> <p>① 高等学校（特別支援学校の高等部を含む。）又は中等教育学校を令和4年3月卒業見込みの者（令和3年度中に卒業を認められる者を含む。）</p> <p>② 高等専門学校の第3学年を令和4年3月修了見込みの者</p> <p>③ 文部科学大臣が高等学校の課程と同等の課程又は相当する課程を有するものとして認定又は指定した在外教育施設の当該課程を令和4年3月修了見込みの者（令和3年度中に修了を認められる者を含む。）</p> <p>2) 上記1)の教育施設における全体の学習成績の状況が4.0以上であって、人物・能力及び適性等について当該学校長が責任をもって推薦できる者</p> <p>3) 令和4年度大学入学共通テストの5教科7科目以上（選抜方法等欄参照）を受験した者</p> <p>4) 合格した場合、入学することを確約できる者</p>																		
選抜方法等	<p>大学入学共通テスト、推薦書、調査書、志望理由書（800字程度）及び面接の成績により総合的に判定します。</p> <p>大学入学共通テストで受験を要する教科・科目</p> <table style="margin-left: 20px;"> <tr> <td>国</td> <td>: 国語……1</td> <td rowspan="3">} から1</td> </tr> <tr> <td>地歴</td> <td>: 世B, 日B, 地理B</td> </tr> <tr> <td>公民</td> <td>: 現社, 倫, 政経, 倫・政経</td> </tr> <tr> <td>数</td> <td>: 数Ⅰ・数A……1</td> <td rowspan="2">} 2</td> </tr> <tr> <td></td> <td>: 数Ⅱ・数B, 簿, 情報から1</td> </tr> <tr> <td>理</td> <td>: 物, 化, 生から2</td> <td></td> </tr> <tr> <td>外</td> <td>: 英, 独, 仏, 中, 韓から1</td> <td></td> </tr> </table> <p style="text-align: right;">〔5教科7科目〕</p> <p>(注) 「簿」及び「情報」を選択解答できる者は、出願要件となる教育施設においてこれらの科目を履修した者に限ります。</p>	国	: 国語……1	} から1	地歴	: 世B, 日B, 地理B	公民	: 現社, 倫, 政経, 倫・政経	数	: 数Ⅰ・数A……1	} 2		: 数Ⅱ・数B, 簿, 情報から1	理	: 物, 化, 生から2		外	: 英, 独, 仏, 中, 韓から1	
国	: 国語……1	} から1																	
地歴	: 世B, 日B, 地理B																		
公民	: 現社, 倫, 政経, 倫・政経																		
数	: 数Ⅰ・数A……1	} 2																	
	: 数Ⅱ・数B, 簿, 情報から1																		
理	: 物, 化, 生から2																		
外	: 英, 独, 仏, 中, 韓から1																		
出願期間	令和4年1月17日（月）～令和4年1月21日（金）																		
選抜期日	令和4年2月5日（土）																		
合格発表日	令和4年2月9日（水）																		
その他																			

学校推薦型選抜Ⅱ（熊本みらい医療枠）（大学入学共通テストを課す）

実施学部・学科名	医学部 医学科																					
募集人員	10人																					
出願要件	<p>熊本県内の高等学校が推薦できる人数は、一つの学校から4人以内とします。 熊本県外の高等学校が推薦できる人数は、一つの学校から3人以内とし、出願時において保護者が3年以上継続して熊本県内に在住（住民票登録）している者を対象とします。</p> <p>なお、学校推薦型選抜Ⅱ（一般枠）及び（地域枠）との併願はできません。 志望学科への入学の意志が強固な者で、次の1)～4)の全ての要件を満たすもの</p> <p>1) 次のいずれかに該当する者</p> <p>① 高等学校（特別支援学校の高等部を含む。）又は中等教育学校を令和4年3月卒業見込みの者（令和3年度中に卒業を認められる者を含む。）</p> <p>② 高等専門学校の第3学年を令和4年3月修了見込みの者</p> <p>③ 文部科学大臣が高等学校の課程と同等の課程又は相当する課程を有するものとして認定又は指定した在外教育施設の当該課程を令和4年3月修了見込みの者（令和3年度中に修了を認められる者を含む。）</p> <p>2) 人物・能力及び適性等について当該学校長が責任をもって推薦できる者</p> <p>3) 令和4年度大学入学共通テストの5教科7科目以上（選抜方法等欄参照）を受験した者</p> <p>4) 合格した場合、卒業後の初期臨床研修修了後、熊本大学大学院医学教育部への進学又は熊本大学病院専門研修プログラムの履修（熊本大学病院及びその関連施設での勤務）が確約できる者</p>																					
選抜方法等	<p>大学入学共通テスト、推薦書、調査書、志望理由書（800字程度）及び面接の成績により総合的に判定します。</p> <p>大学入学共通テストで受験を要する教科・科目</p> <table style="margin-left: 20px;"> <tr> <td>国</td> <td>: 国語……1</td> <td rowspan="3" style="font-size: 2em; vertical-align: middle;">}</td> <td rowspan="3" style="vertical-align: middle;">から1</td> </tr> <tr> <td>地歴</td> <td>: 世B, 日B, 地理B</td> </tr> <tr> <td>公民</td> <td>: 現社, 倫, 政経, 倫・政経</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">数</td> <td>: 数I・数A……1</td> <td rowspan="2" style="font-size: 2em; vertical-align: middle;">}</td> <td rowspan="2" style="vertical-align: middle;">2</td> </tr> <tr> <td>: 数II・数B, 簿, 情報から1</td> </tr> <tr> <td>理</td> <td>: 物, 化, 生から2</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>外</td> <td>: 英, 独, 仏, 中, 韓から1</td> <td></td> <td></td> </tr> </table> <p style="text-align: right;">[5教科7科目]</p> <p>(注) 「簿」及び「情報」を選択解答できる者は、出願要件となる教育施設においてこれらの科目を履修した者に限ります。</p>	国	: 国語……1	}	から1	地歴	: 世B, 日B, 地理B	公民	: 現社, 倫, 政経, 倫・政経	数	: 数I・数A……1	}	2	: 数II・数B, 簿, 情報から1	理	: 物, 化, 生から2			外	: 英, 独, 仏, 中, 韓から1		
国	: 国語……1	}	から1																			
地歴	: 世B, 日B, 地理B																					
公民	: 現社, 倫, 政経, 倫・政経																					
数	: 数I・数A……1	}	2																			
	: 数II・数B, 簿, 情報から1																					
理	: 物, 化, 生から2																					
外	: 英, 独, 仏, 中, 韓から1																					
出願期間	令和4年1月17日（月）～令和4年1月21日（金）																					
選抜期日	令和4年2月5日（土）																					
合格発表日	令和4年2月9日（水）																					
その他																						

学校推薦型選抜Ⅱ（地域枠）（大学入学共通テストを課す）

実施学部・学科名	医学部 医学科																					
募集人員	8人																					
出願要件	<p>熊本県内の高等学校が推薦できる人数は、一つの学校から4人以内とします。 熊本県外の高等学校が推薦できる人数は、一つの学校から3人以内とし、出願時において保護者が3年以上継続して熊本県内に在住（住民票登録）している者を対象とします。</p> <p>なお、学校推薦型選抜Ⅱ（一般枠）及び（熊本みらい医療枠）との併願はできません。</p> <p>志望学科への入学の意志が強固、かつ将来、熊本県の地域医療を目指す者で、次の1)～4)までの全ての要件を満たすもの</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 高等学校（特別支援学校の高等部を含む。）又は中等教育学校を令和2年3月以降に卒業した者及び令和4年3月卒業見込みの者 2) 上記1)の教育施設における全体の学習成績の状況が4.0以上であって、将来、熊本県の地域医療において中心的役割を担う人材であると判断でき、人物・能力及び適性等について当該学校長が責任をもって推薦できる者 3) 令和4年度大学入学共通テストの5教科7科目以上（選抜方法等欄参照）を受験した者 4) 合格した場合、熊本県医師修学資金の貸与を受け入学し、在学中は継続して貸与を受けることを確約できる者（注） （注）卒業後の決められた一定期間、熊本県知事が指定する地域の病院等で勤務していただきます。 																					
選抜方法等	<p>大学入学共通テスト、推薦書、調査書、志望理由書（地域医療に対する抱負や意見について800字程度）及び面接の成績により総合的に判定します。</p> <p>大学入学共通テストで受験を要する教科・科目</p> <table style="margin-left: 20px;"> <tr> <td>国</td> <td>：国語……1</td> <td rowspan="3" style="font-size: 2em; vertical-align: middle;">}</td> <td rowspan="3" style="vertical-align: middle;">から1</td> </tr> <tr> <td>地歴</td> <td>：世B, 日B, 地理B</td> </tr> <tr> <td>公民</td> <td>：現社, 倫, 政経, 倫・政経</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">数</td> <td>：数Ⅰ・数A……1</td> <td rowspan="2" style="font-size: 2em; vertical-align: middle;">}</td> <td rowspan="2" style="vertical-align: middle;">2</td> </tr> <tr> <td>数Ⅱ・数B, 簿, 情報から1</td> </tr> <tr> <td>理</td> <td>：物, 化, 生から2</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>外</td> <td>：英, 独, 仏, 中, 韓から1</td> <td></td> <td></td> </tr> </table> <p style="text-align: right;">[5教科7科目]</p> <p>（注）「簿」及び「情報」を選択解答できる者は、出願要件となる教育施設においてこれらの科目を履修した者に限ります。</p>	国	：国語……1	}	から1	地歴	：世B, 日B, 地理B	公民	：現社, 倫, 政経, 倫・政経	数	：数Ⅰ・数A……1	}	2	数Ⅱ・数B, 簿, 情報から1	理	：物, 化, 生から2			外	：英, 独, 仏, 中, 韓から1		
国	：国語……1	}	から1																			
地歴	：世B, 日B, 地理B																					
公民	：現社, 倫, 政経, 倫・政経																					
数	：数Ⅰ・数A……1	}	2																			
	数Ⅱ・数B, 簿, 情報から1																					
理	：物, 化, 生から2																					
外	：英, 独, 仏, 中, 韓から1																					
出願期間	令和4年1月17日（月）～令和4年1月21日（金）																					
選抜期日	令和4年2月5日（土）																					
合格発表日	令和4年2月10日（木）																					
その他																						

熊本大学医学部医学科モデルカリキュラム

【1年次】

区分	授業科目	単位	強化する事項
専門基礎科目	医学情報処理	2	
	早期臨床体験実習 I	1.5	これまでの地域医療機関や介護老人保健施設の他に、保健所の見学を実施し、地域保健医療計画、衛生行政等の熊本県における地域保健を学ばせる。また、新たな実習の受入先として、特色のある地域医療機関を開拓する。
	分子細胞生物学 I	2	
	医学概論	1	
	最新医学セミナー	2	
	行動科学 I	1	
基礎医学科目	分子遺伝学	1.5	
	人体発生・肉眼解剖学	3	
	生化学I	1.5	
	生化学II	1.5	
	生理学I	3	

【2年次】

専門基礎科目	早期臨床体験実習 II	1	
	放射線基礎医学	1	
	医学英語	2	
基礎医学科目	解剖学実習	4	
	神経解剖学	2	
	組織学	4	
	生理学II	3	
	免疫学	2	
	感染防御学	2	
	微生物学(寄生虫病学を含む。)	3	
	薬理学	4.5	
	病理学I	2	
病理学II	3.5		

【3年次】

専門基礎科目	早期臨床体験実習Ⅲ	1	地域医療を身近に感じられる地域の中核病院や熊本市内・市外の地域医療機関(診療所等)での体験実習を通して、熊本県における地域医療の現状、地域医療に求められる医師像、地域医療への関心を醸成する。
	行動科学Ⅱ	1	
	医療と情報	1	
学基礎医 科目目	基礎一般実習コース	6	
	基礎演習	10	
臨床医学科目	呼吸器内科学	2.5	
	消化器内科学	2.5	
	血液・膠原病・内科学	3.5	
	腎臓内科学	2.5	
	代謝・内分泌内科学	3.5	
	循環器内科学	2.5	
	心臓血管外科学	1	
	呼吸器外科学	1	
	消化器外科学	3.5	
	乳腺・内分泌外科学	1	
	泌尿器科学	1	
	産科婦人科学	2	
	皮膚科学	2.5	
	整形外科学	2.5	
	歯科口腔外科学	1	
	耳鼻咽喉科学	2.5	
	眼科学	1	
	脳神経内科学	2.5	
	神経精神医学	2.5	
	脳神経外科学	2.5	
	画像診断学	1	
	放射線腫瘍学	1	
	臨床検査医学	1.5	

【4年次】

専門基礎科	医療と社会	1	地域医療に求められる医師としての役割と機能などの値域医療の在り方の他に、熊本県における医師の偏在(地域及び診療科)の現状とその理由を学ばせ、地域医療の基盤となるプライマリ・ケアの必要性を理解させる。
基礎医学科目	公衆衛生学	4	地域における福祉施設の体系と機能、介護保険法制定後の老人福祉・医療施設の現状、地域における健康福祉システム、地域保健・保健所の機能に係る講義について、個別の対面的実習を取り入れ教育を強化する。また、保健師を非常勤講師として招聘し、地域の保健師活動の現状と課題について学ばせる。
	法医学	3	
	生命倫理学	2	
臨床医学科目	小児科学(小児発達学を含む。)	3	
	小児外科学	1	
	麻酔科学	2.5	
	総合診療学	1	
	腫瘍医学	2	
	救急医学	1	
	臨床腫瘍学	1	
	臨床実習入門	4	
	チュートリアル実習(総合講義を含む。)	2.5	
	臨床形態診断学	1	
漢方医学	1		

【5年次】

臨床医学科目	臨床実習	26	地域開業診療所に学生を派遣し、地域のプライマリ・ケアの体験を充実させ、もって地域医療の基盤となるプライマリ・ケアの必要性を理解させ、医師としてどのような実践能力を身につけるべきかを学修させる。
	特別臨床実習	38	地域医療を志す医師、研修医及び医学生に対し実践教育の場を提供することを目的に、地域医療機関の中核である2施設に開設した教育拠点において、地域医療の実際を体験し、医師としてどのような態度・能力が求められているかを学修させる。

【6年次】

臨床医学科目	特別臨床実習	38	地域医療を志す医師、研修医及び医学生に対し実践教育の場を提供することを目的に、地域医療機関の中核である2施設に開設した教育拠点において、地域医療の実際を体験し、医師としてどのような態度・能力が求められているかを学修させる。
--------	--------	----	---

令和4年度
医学部入学定員増員計画熊大経企第9号
令和3年8月25日

文部科学省高等教育局長 殿

国立大学法人熊本大学長
小川久雄

「地域の医師確保等の観点からの令和4年度医学部入学定員の増加について（令和3年8月16日文部科学省高等教育局長・厚生労働省医政局長通知）」を受けて、標記に関する資料を提出します。

<連絡先>

責任者連絡先	職名・氏名	経営企画本部課長・松久保 大作
	TEL	096-342-3971
	FAX	096-342-3007
	E-mail	sgo-kikaku@jimu.kumamoto-u.ac.jp

大学名	国公立
熊本大学	国立

1. 現在(令和3年度)の入学定員(編入学定員)及び収容定員

入学定員	2年次編入学定員	3年次編入学定員	収容定員
110	0	0	680

(収容定員計算用)

	H28	H29	H30	R1	R2	R3	計
(ア)入学定員	115	115	115	115	110	110	680
(イ)2年次編入学定員	0	0	0	0	0	0	0
(ウ)3年次編入学定員	0	0	0	0	0	0	0
計	115	115	115	115	110	110	680

2. 本増員計画による入学定員増を行わない場合の令和4年度の入学定員(編入学定員)及び収容定員

入学定員	2年次編入学定員	3年次編入学定員	収容定員
105	0	0	630

(収容定員計算用)

	R4	R5	R6	R7	R8	R9	計
(ア)入学定員	105	105	105	105	105	105	630
(イ)2年次編入学定員	0	0	0	0	0	0	0
(ウ)3年次編入学定員	0	0	0	0	0	0	0
計	105	105	105	105	105	105	630
(臨時的な措置で減員した場合、その人数)	0	0	0	0	0	0	

3. 令和4年度の増員計画

入学定員	2年次編入学定員	3年次編入学定員	収容定員
110	0	0	635

(収容定員計算用)

	R4	R5	R6	R7	R8	R9	計
(ア)入学定員	110	105	105	105	105	105	635
(イ)2年次編入学定員	0	0	0	0	0	0	0
(ウ)3年次編入学定員	0	0	0	0	0	0	0
計	110	105	105	105	105	105	635
(臨時的な措置で減員した場合、その人数)	0	0	0	0	0	0	

増員希望人数 5

(内訳)

(1) 地域の医師確保のための入学定員／編入学定員増(地域枠)	5
(2) 研究医養成のための入学定員／編入学定員増(研究医枠)	0
(3) 歯学部入学定員の削減を行う大学の特例に伴う入学定員／編入学定員増(歯学部振替枠)	0
計	5

1. 地域の医師確保のための入学定員増について

増員希望人数 5

(1) 対象都道府県名及び増員希望人数

大学が所在する都道府県	都道府県名	増員希望人数
大学所在地以外の都道府県	熊本県	5
計		5

※「大学所在地以外の都道府県」が「都道府県未満」の場合は、残りの欄は空欄でご提出ください。

(2) 修学資金の貸与を受けた地域枠学生の確保状況

都道府県名	R2地域枠定員 (※1)	R2貸与者数 (※2)	R3地域枠定員 (※1)	R3貸与者数 (※2)	R2とR3の貸与 者数のうち多い 方の数
熊本県	5	5	5	5	5
					0
					0
					0
					0
計	5	5	5	5	5

(※1) 臨時定員分のみご記入ください。

(※2) 恒久定員の中で地域枠を実施している場合、恒久定員分の地域枠の人数も含めた修学資金の貸与実績をご記入ください。

※6 都道府県未満の場合は、残りの欄は空欄でご提出ください。

(3) 令和4年度地域の医師確保のための入学定員増について

1. 大学が講ずる措置

1-1. 地域枠学生の選抜

①令和2年度に実施した地域枠学生(令和3年入学)の選抜について、下記をご記入ください。複数種類の選抜を行った場合には、それぞれご記入ください。また、参考として学生募集要項の写しをご提出ください。

名称	入試区分	選抜方式	募集人数		選抜方法(※1)	出願要件(※1)	開始年度	備考
			うち臨時定員分					
熊本県医師修学資金地域枠(学校推薦型選抜Ⅱ(地域枠))	(i) 学校推薦型選抜	別枠(先行型)	5	5	入学共通テスト、推薦書、調査書、志望理由書(地域医療に対する抱負や意見)について800字程度)及び面接の成績により総合的に判定します。	熊本県内の高等学校から募集し、推薦できるのは一つの学校から2人以内とします。 なお、学校推薦型選抜Ⅱ(一般枠)との併願はできません。 推薦要件は、志望学科への入学の意欲が強く、かつ将来、熊本県の地域医療を目指す者で、次の1)~4)までの全ての要件を満たすもの 1) 高等学校(特別支援学校の高等部を含む。)又は中等教育学校を令和2年3月以降に卒業した者及び令和3年3月卒業見込みの者 2) 上記1)の教育施設における学習成績の状況が4.0以上であって、将来、熊本県の地域医療において中心的役割を担う人材であると判断でき、人物・能力及び適性等について当該学校長が責任をもって推薦できる者 3) 令和3年度入学共通テストの5教科7科目以上(「(3)選抜方法」参照)を受験した者	H22	
合計			5	5				

(※1) 貴大学において作成した学生募集要項に記載の内容をご記入ください。

※空欄がある場合は、何も記入せずにそのままご提出ください。

②令和3年度に実施する地域枠学生(令和4年入学)の選抜について、下記をご記入ください。複数種類の選抜を行っている場合には、それぞれご記入ください。

また、参考としてPRのために作成した文書(リーフレット、ホームページ、テレビ、新聞、雑誌等)の写しをご提出ください。

名称	入試区分	選抜方式	募集人数		選抜方法(※1)	出願要件(※1)	開始年度	備考
			うち臨時定員分					

熊本県医師修学資金地域枠(学校推薦型選抜Ⅱ(地域枠))	(i) 学校推薦型選抜	別枠(先行型)	8	5	<p>大学入学共通テスト、推薦書、調査書、志望理由書(地域医療に対する抱負や意見について800字程度)及び面接の成績により総合的に判定します。</p> <p>熊本県内の高等学校が推薦できる人数は、一つの学校から4人以内とします。</p> <p>熊本県外の高等学校が推薦できる人数は、一つの学校から3人以上とし、出願時において保護者が3年以上継続して熊本県内に在住(住民票登録)している者を対象とします。</p> <p>なお、学校推薦型選抜Ⅱ(一般枠)及び(熊本みらい医療枠)との併願はできません。</p> <p>志望学科への入学の意志が強く、かつ将来、熊本県の地域医療を目指す者で、次の1)～4)までの全ての要件を満たすもの</p> <p>1) 高等学校(特別支援学校の高等部を含む。)又は中等教育学校を令和2年3月以降に卒業した者及び令和4年3月卒業見込みの者</p> <p>2) 上記1)の教育施設における全体の学習成績の状況が4.0以上であって、 <small>※1) 熊本県の地域医療において中</small></p>	H22	
合計			8	5			

(※1) 貴大学において、PRのために作成した文書(リーフレット、ホームページ、ホームページ、テレビ、新聞、雑誌等)に記載の内容(貴大学において作成予定の学生募集要項に記載予定の内容)をご記入ください。
 ※空欄がある場合は、何も記入せずにそのままご提出ください。

1-2. 教育内容

①地域枠学生が卒業後に勤務することが見込まれる都道府県での地域医療実習など、地域医療を担う医師養成の観点からの教育内容の概要(令和4年度)について、5～6行程度で簡潔にご記入ください。

1年次には、必修科目「早期臨床体験実習Ⅰ」にて、療養型病院など地域の医療・介護・福祉の現場で患者や住民の側から医療・福祉をみる体験を積み、患者と接する態度を学び、3年次には、必修科目「早期臨床体験実習Ⅲ」にて、熊本県内各地の診療所等での体験実習を通して、地域医療への理解を深めている。また、平成30年度より「特別臨床実習」の地域医療実習を必修化し、地域医療に関する教育を充実させている。

(参考:記入例)
1～2年次には、「○○」という科目を開講するとともに「△△」を必修化し、～を学んでいる。3～4年次には、××実習を行い、～を学んでいる。またキャリア支援として□□を実施している。令和4年度からは、■を新たに開始するなど、～を図ることとしている。

②(過去に地域枠を設定したことがある場合)これまでの取組・実績を、3～5行程度で簡潔にご記入ください。

平成21年度から地域枠による増員を開始し、熊本県医師修学資金地域枠の周知、地域枠学生へのキャリア形成支援などの取組を行った。令和3年度までに87名の地域枠学生を確保し、そのうち32名が現在、臨床研修を終え、へき地等医療機関を中心に、県内の各地域で医師として地域医療に貢献している。

(参考:記入例)

平成○年度から地域枠による増員を開始し、□□、■などの取組を行った。令和3年度までに△名の地域枠学生を確保し、そのうち▲名が現在～として地域医療に貢献している。

③上記①の教育内容(正規科目)について、講義・実習科目内容をご記入ください。また、参考としてシラバスの写しをご提出ください。

対象学年	講義・実習名	対象者 (※1)	必修/選択の別		講義/実習の 別	単 位 数	開始年度
			地域枠学生	その他の学生			
1	早期臨床体験実習Ⅰ	全員	必修	必修	実習	1.5	H27
2	早期臨床体験実習Ⅱ	全員	必修	必修	実習	1	H28
3	早期臨床体験実習Ⅲ	全員	必修	必修	実習	1	H29
4	医療と社会	全員	必修	必修	講義	1	R1
4	公衆衛生学	全員	必修	必修	講義	4	H21以前
5.6	特別臨床実習	全員	必修	必修	実習	38	H30

(※1)対象者は、当該講義・実習を受講可能な学生を「地域枠学生」「全員」のうちから選択ください。(地域枠学生の希望者のみ)の場合は、対象者を「地域枠学生」、必修/選択の別を「選択」とご記載ください。 ※空欄がある場合は、何も記入せずそのままにご提出ください。

④大学の正規科目以外で、提供する地域医療教育プログラムがあれば、その内容をご記入ください。

対象学年	プログラム名	対象者 (※1)	都道府県との連携	期間 (例:○週間)	プログラムの概要(1~2行程度)	開始年度
全学年	夏季地域医療特別実習	全員	熊本県寄附講座「熊本大学病院 地域医療・総合診療実践学 講座」が主体として開催	2日間	熊本県医師修学資金被貸与者と自治医科大学学生(熊本出身)が協力し、聞き取り調査等により、地域の問題点を探り出す。	H21以前
全学年	地域医療ゼミ	全員	熊本県寄附講座「熊本大学病院 地域医療・総合診療実践学 講座」が主体として開催	毎月1回開催	地域医療に関して、教員によるレクチャー、学生による発表会を実施。	H21以前

(※1)対象者は、当該講義・実習を受講可能な学生を「地域枠学生」「全員」のうちから選択ください。
※空欄がある場合は、何も記入せずにご提出ください。

⑤上記③④以外に、地域医療を担う医師の養成に関する取組等があれば、簡潔にご記入ください。(令和3年度以前から継続する取組を含む)(1~2行程度)

取組の名称	取組の概要(1~2行程度)	開始年度

※空欄がある場合は、何も記入せずにご提出ください。

2. 都道府県等との連携

①都道府県が設定する奨学金について、以下をご記入ください。併せて、都道府県が厚生労働省に提出する予定の地域の医師確保等に関する計画及び「地域における医療及び介護の総合的・確実な確保の促進に関する法律」(平成元年法律第64号)第4条に規定する都道府県計画等に位置づけることを約束する文書を添付して下さい。なお、複数の奨学金を設定している場合は、それぞれ記入ください。

奨学金の設定主体	貸与人数	貸与対象	貸与額 (例:200,000)		返還免除要件	選抜方法	診療科の限定の有無	(診療科の限定がある場合)その診療科名	備考
			月額	総貸与額					
熊本県	8	新入生	75,000	8,896,800	(1)大学卒業後、2年以内に医師免許を取得すること。 (2)医師免許取得後、直ちに条例で定める病院で臨床研修に従事すること。 (3)臨床研修終了後、直ちに知事が指定する病院等に勤務すること。 (4)返還免除に必要な指定病院等での勤務期間(貸与期間の1.5倍に相当する期間)を満たすこと。	○	×	学校推薦型選抜Ⅱ(地域枠)受験者の面接(医学科教員3名)後、引き続き熊本県医師修学資金面接(熊本県職員及び熊本県地域医療支援機構(熊本大学病院地域医療支援センター)職員)を実施。面接終了後、熊本県医師修学資金面接合格者のうち、地域枠)合格者の上位8名を対象学生とする。	

(※1)○の場合は、備考欄に詳細をご記入ください。
※空欄がある場合は、何も記入せずにそのままご提出ください。

②その他、都道府県と連携した取組があれば、簡潔にご記入ください。(例:在学中の学生に対する都道府県と連携した相談・指導、卒後のキャリアパス形成等に対する支援)(1~2行程度)

取組の名称	取組の概要(1~2行程度)	開始年度
熊本県地域医療支援機構(熊本大学病院地域医療支援センター)及び熊本県寄附講座「熊本大学病院地域医療・総合診療実践学寄附講座」による取組	熊本県医師修学資金被貸与者への個人面談実施(年1回以上)、地域医療ゼミナール・講演会の開催、夏季地域医療特別実習の実施等	H21以前

※空欄がある場合は、何も記入せずにそのままご提出ください。

3. その他

1～2に記入したものの以外で、その他、地域の医師確保の観点から大学の今後の取組があれば、簡潔にご記入ください。(1～3行程度)
特に、都道府県からの奨学金の貸与を受ける者、地域枠入学者を確保するために貴大学で取り組まれていることや今後の取組み予定がありましたら、ご記入ください。

令和4年度入学試験より新たに学校推薦型選抜Ⅱ(熊本みらい医療枠)を設ける。
この枠は卒業後の進路条件を地域枠より緩やかにするなど、志願者が選択できる幅を拡大。両枠の運用により、熊本県に定着し、地域医療を担う人材の確保を促進する。

令和3年度（2021年度）
学校推薦型選抜 学生募集要項

○学校推薦型選抜 II

（大学入学共通テストを課す）

教 育 学 部
医 学 部
薬 学 部
工 学 部

インターネットによる出願受付のみ



医学部

熊本大学医学部では、医学・保健学（看護学・放射線技術科学・検査技術科学）の発展に寄与し、広く社会に貢献できる医療者・研究者・教育者を育成するために、豊かな人間性、優れた協調性、高い倫理観、十分な基礎学力、科学的探究心、国際的視野を持つ人を求めています。

〈医学科〉

I 教育理念・目標及び求める人材像

熊本大学医学部医学科の使命

豊かな人間性と高い倫理観を持ち、医学およびその関連領域における社会的な使命を追求、達成しうる医師・医学者を育てる。

アドミッション・ポリシー

熊本大学医学部医学科の使命を達成するために、医学部医学科では、次のような人を求めています。

1. 病める人たちやその家族の気持ちを理解できる人
2. チーム医療の中心的役割を果たすための優れた協調性を持つ人
3. 地域医療に関心を持ち、地域住民の健康増進に貢献する意欲を持つ人
4. 科学的探究心が旺盛で、国際的視野で医科学研究を展開する意欲に溢れる人
5. 社会に対する幅広い視野を有し、地域や国際社会における保健医療や福祉に深い関心を持つ人
6. 日々進歩する医学や医療の最新知識を吸収できる基礎学力を持ち、生涯にわたって自己学習を継続できる人

II 入学者選抜の基本方針

医学部医学科の入学試験では、高等学校までの教育課程を踏まえ、基礎的知識（基礎学力）・論理的思考力・判断力・表現力等を評価します。

（医学科への入学までに身につけてほしいこと）

受験生の多様性に合わせて、大学入学共通テスト及び個別学力検査では物理・化学・生物から2科目選択となっていますが、入学後、医学科の様々な専門科目の基礎として、高等学校で学ぶ「生物・生物基礎」は重要な科目です。生物学の教科書はバランス良く構成されており、最新の生命現象についても平易に解説されていますので、幅広く学ぶことが必要です。

また、教科の基礎学力だけでなく、論理的な文章を書くための国語力、グローバルでグローバルな医療の世界での共有言語である英語の素養を十分に身につけ、国際的な広い視野とコミュニケーション能力を備えていることも重要です。

III 選抜方法

【特別入試】

1. 学校推薦型選抜Ⅱ（一般枠）

高等学校での学習成績が優秀であり、出身学校長が責任をもって推薦できる者を対象に、大学入学共通テスト、推薦書、調査書及び面接で総合的に選抜します。

2. 学校推薦型選抜Ⅱ（地域枠）

将来、地域医療を目指す者で、高等学校での学習成績が優秀であり、出身学校長が責任をもって推薦できるものを対象に、大学入学共通テスト、推薦書、調査書及び面接で総合的に選抜します。

IV 各選抜で特に重視するポイント（◎：特に大きい比重，○：大きい比重）

評価観点	学力の3要素			求める人材像 (アドミッション・ポリシー)		
	知識・技能 (基礎学力)	思考力, 判断力, 表現力	主体性, 多様性, 協働性	チーム医療に 必要とされる コミュニケーション能力・ 協調性	地域医療 への関心 ・貢献	医学研究 への関心・ 持続的な学 習意欲
入試区分						
前期日程	◎	◎	◎	◎	◎	◎
学校推薦型選 抜Ⅱ (一般枠)	◎	◎	◎	◎	◎	◎
学校推薦型選 抜Ⅱ (地域枠)	◎	◎	◎	◎	◎	◎
私費外国人 留学生入試	◎	◎	◎	○	○	○

〈保健学科〉

I 教育理念・目標及び求める人材像

保健学（看護学，放射線技術科学，検査技術科学）の発展を担い，広く社会に貢献できる資質の高い医療者・研究者・教育者を育成するために，保健学科では次のような人を求めています。

1. 看護職（看護師，保健師，助産師）並びに診療放射線技師，臨床検査技師という職業に魅力を感じ，専門分野において地域貢献するとともに，国際的な広い視野で物事を考え，活躍する意欲と熱意のある人
2. 人間に対する尊厳の念を持ち，多様な価値観を受け入れる寛容さと優れた協調性を備えた人間性豊かな人で，医療における高い倫理観とマナーを育ていける資質を持った人
3. 高等学校までの履修科目の基礎事項を理解した上で，国語，外国語とともに2科目以上の理科（生物，化学，物理）において優れた学力を有する人
4. 高等学校までに自らの目標に基づいて取り組んだ経験やクラブ活動あるいは生徒会活動，ボランティア活動等の経験を有し，様々な社会環境を受け入れることができる豊かな人間性を持った人
5. 専門分野の知識や技術に興味・関心を持って学び，実験や臨地実習においても真摯な態度で自らの課題を設定して問題解決し，新しい分野にも積極的に取り組んでいくフロンティア精神を持った人
6. 協調性に富み，チーム医療の一員としてお互いの仕事を尊重しつつ協同的に働き，専門分野における役割・機能の責務を果たし，指導的役割を担える資質を有する人
7. 科学的探求心と積極的学習意欲を備え，学部卒業後は専門職業人や教育者・研究者としての能力を高め，指導的立場に立って社会貢献しようという意欲のある人

II 入学者選抜の基本方針

医学部保健学科の入学試験では，高等学校までの教育課程を踏まえ，基礎的知識（基礎学力）・思考力・判断力・表現力等を評価します。また，入学後のカリキュラムを考慮して，選抜にあたっては数学・理科科目を主とした論理的思考能力や科学的探求心，英語科目による読解・表現のための外国語能力，国語科目を主とした理解力及び構成的論述能力，医療従事者に必要な倫理観や協調性，社会貢献等への関心やその他学習意欲等を重視します。

募集人員・出願方法

本学では、特別選抜として学校長（出願要件を満たす教育施設）の推薦に基づき、入学定員の一部について、次のとおり入学者選抜を実施します。

1. 募集人員

学 部	学 科 ・ 課 程 ・ 専 攻		募 集 人 員	
教育学部	小学校教員養成課程		30人	
	中学校教員養成課程	理 科	5人	
		技 術	2人	
		家 庭	2人	
	特別支援教育教員養成課程		6人	
養護教諭養成課程		8人		
医学部	医 学 科		(一般) 15人	(地域) 5人
	保健学科	看 護 学 専 攻	18人	
		放射線技術科学専攻	9人	
		検査技術科学専攻	9人	
薬学部	薬 学 科		10人	
	創薬・生命薬科学科		10人	
工学部	土 木 建 築 学 科	(ア)	26人	(イ) 各学科 若干名
	機 械 数 理 工 学 科		21人	
	情 報 電 気 工 学 科		30人	
	材 料 ・ 応 用 化 学 科		34人	
合 計		240人		

(備考)

- 教育学部中学校教員養成課程（技術）の募集人員2人は、職業教育（工業・農業系）を主とする専門高校（学科）又は職業教育（工業・農業系）を主とする総合学科の出身者を対象としています。
- 医学部医学科（地域枠）の募集人員5人は、熊本県内高等学校の出身者で熊本県医師修学資金の貸与を受ける者を対象としています。
- 工学部（イ）の募集人員若干名は、工学部（ア）の募集人員の枠内とし、職業教育を主とする専門高校（学科）及び総合学科の出身者を対象としています。
- 学校推薦型選抜の入学手続完了者が募集人員に満たない場合（合格者が募集人員に満たなかった場合も含む）は、その不足する人員を前期日程の募集人員に加えます。

※ 医学部医学科の募集人員について

医学部医学科では、本来、入学定員（募集人員）が105人のところ、令和3年度（2021年度）入試における入学定員（募集人員）は110人（一般選抜（前期日程）：90人、学校推薦型選抜Ⅱ：20人（一般枠：15人、地域枠：5人））となっています。これは、熊本県内の地域医療に志のある学生の入学を推進し、地域等における医師不足を解消することを目的として、学校推薦型選抜Ⅱ（地域枠）において5人の臨時定員増員を行っているためです。

臨時定員増員に関する令和4年度（2022年度）入試以降の取扱いは、当該時点における医師養成数の将来見通しや定着状況を踏まえて判断されることになっているため、現時点で延長の有無は未定です。

なお、本件については、詳細が決まり次第、本学ウェブサイトで情報を更新していきますので、随時確認するようにしてください。（<https://www.kumamoto-u.ac.jp/nyuushi/gakubunyushi> 参照）

※ 工学部の教育プログラムについて

工学部では、4学科で学生を募集し、学科単位で選抜を行います（総合型選抜を除く。）、入学者は2年次進級の際にさらに学科毎に3つの教育プログラムに分かれて所属します。各教育プログラムの受け入れ可能な人数には制約があり、教育プログラムへの配属は希望と1年次の成績に基づいて決定されます。同一学科内であっても、配属される教育プログラムによって取得可能な資格等に違いがありますので注意してください。（<https://www.eng.kumamoto-u.ac.jp/department/> 参照）

2. 出願方法

国公立大学（※独自日程で入学者選抜試験を行う公立大学・学部を除く。以下同じ。）の学校推薦型選抜（大学入学共通テストを課す選抜、課さない選抜を含めて）へ出願できるのは、一つの大学・学部・学科に限られています。

したがって、本学の学校推薦型選抜に出願した者は、他の国公立大学が実施する学校推薦型選抜に出願することはできません。

※公立大学協会ウェブサイト（<http://www.kodaikyo.org/nyushi>）参照

2. 医学部 医学科（一般枠）

（1）募集人員

医学科 15人

（2）推薦の要件

推薦人員は、一つの学校から1人とします。ただし、熊本県、福岡県、佐賀県、長崎県、大分県、宮崎県、鹿児島県の学校については、2人以内とします。

なお、学校推薦型選抜Ⅱ（地域枠）との併願はできません。

志望学科への入学の意志が強固な者で、次の1)～4)の全ての要件を満たすもの

1) 次のいずれかに該当する者

- ① 高等学校（特別支援学校の高等部を含む。）又は中等教育学校を令和3年3月卒業見込みの者（令和2年度中に卒業を認められる者を含む。）
- ② 高等専門学校の第3学年を令和3年3月修了見込みの者
- ③ 文部科学大臣が高等学校の課程と同等の課程又は相当する課程を有するものとして認定又は指定した在外教育施設の当該課程を令和3年3月修了見込みの者（令和2年度中に修了を認められる者を含む。）

2) 上記1)の教育施設における学習成績の状況が4.0以上であって、人物・能力及び適性等について当該学校長が責任をもって推薦できる者

3) 令和3年度大学入学共通テストの5教科7科目以上（「（3）選抜方法」参照）を受験した者

4) 合格した場合、入学することを確約できる者

（3）選抜方法

大学入学共通テスト、推薦書、調査書、志望理由書（800字程度）及び面接の成績により総合的に判定します。

大学入学共通テストで受験を要する教科・科目

学 科	教 科 ・ 科 目
医 学 科	国 : 国語……1 地歴 : 世B, 日B, 地理B 公民 : 現社, 倫, 政経, 倫・政経 } から1 数 : 数I・数A……1 数II・数B, ※簿, ※情報から1 } 2 理 : 物理, 化学, 生物から2 外 : 英, 独, 仏, 中, 韓から1 [5教科7科目]

(注) 1. 「地歴」及び「公民」の教科について、2科目を受験している者の成績は、第1解答科目の成績を採用します。

2. 「地歴」及び「公民」の教科について、第1解答科目が医学科の指定した利用教科・科目でなく、第2解答科目が医学科の指定した利用教科・科目である場合は、当該利用教科・科目を「0点」として取扱います。

3. 大学入学共通テストで受験を要する教科・科目欄中※印の科目を選択解答できる者は、出願要件となる教育施設においてこれらの科目を履修した者に限ります。

(4) 評価基準・配点

1) 評価基準

【面接】

医学科の教育を受けるために必要な基礎学力，科学的・知的探究心，医学に対する熱意と適性，柔軟な思考力，高等学校における活動状況を参考とします。

調査書，推薦書及び志望理由書を参考にしながら，複数の面接官による個人面接を実施します。

2) 配点

区分 学科	大学入学共通テスト					個別学力検査等		合計	
	教科・科目等					計	面接		計
	国語	地歴・公民	数学	理科	外国語				
医学科	200	100	200	200	200	100	15	15	115
合計点を100点に換算する									

※大学入学共通テストで課す「外国語『英語』」については，リーディング100点満点を200点満点に，リスニング100点満点を50点満点に換算し，その合計点を200点満点に圧縮したうえで，学科における配点のとおり換算します。

また，大学入学共通テスト（特例追試験）の受験者については，「外国語『英語』」の筆記（200点満点）とリスニング（50点満点）の合計点を200点満点に圧縮したうえで，学科における配点のとおり換算します。

なお，リスニング免除者及び英語以外の「外国語」受験者については，リーディング100点満点を200点満点に換算し，学科における配点のとおり換算します。

(5) 合否判定基準

- 1) 令和3年度大学入学共通テストの 5教科7科目以上を受験し，かつ，7科目合計点の80%以上を得た者を対象に，総得点の高い順に募集人員の範囲で合格者を決定します。
- 2) 面接について，複数の面接官が最低の評価点を与えた場合，合格としません。

(6) 試験日時等

- 1) 日時 令和3年2月6日(土) 集合時間 12時30分
- 2) 試験場 熊本大学医学部医学科 熊本市中央区本荘1丁目1番1号

※ インターネット出願登録システムから出力した本学の受験票（学校推薦型選抜Ⅱ用）及び「大学入学共通テスト受験票」を持参してください。

[本件に関する問合せ先]

熊本大学医薬保健学系事務課医学事務チーム教務担当 電話：096-373-5027

3. 医 学 部 医 学 科 (地域枠)

(1) 募集人員

医 学 科 5 人

(2) 推薦の要件

熊本県内の高等学校から募集し、推薦できるのは一つの学校から2人以内とします。

なお、学校推薦型選抜Ⅱ（一般枠）との併願はできません。

推薦要件は、志望学科への入学の意志が強固、かつ将来、熊本県の地域医療を目指す者で、次の

1)～4)までの全ての要件を満たすもの

- 1) 高等学校（特別支援学校の高等部を含む。）又は中等教育学校を令和2年3月以降に卒業した者及び令和3年3月卒業見込みの者
- 2) 上記1)の教育施設における学習成績の状況が4.0以上であって、将来、熊本県の地域医療において中心的役割を担う人材であると判断でき、人物・能力及び適性等について当該学校長が責任をもって推薦できる者
- 3) 令和3年度大学入学共通テストの5教科7科目以上（「(3)選抜方法」参照）を受験した者
- 4) 合格した場合、熊本県医師修学資金の貸与を受け入学し、在学中は継続して貸与を受けることを確約できる者（注）

（注）卒業後の決められた一定期間、熊本県知事が指定する地域の病院等で勤務していただきます。

(3) 選抜方法

大学入学共通テスト、推薦書、調査書、志望理由書（地域医療に対する抱負や意見について800字程度）及び面接の成績により総合的に判定します。

大学入学共通テストで受験を要する教科・科目

学 科	教 科 ・ 科 目	
医 学 科	国 : 国語……1	
	地歴 : 世B, 日B, 地理B	
	公民 : 現社, 倫, 政経, 倫・政経	} から 1
	数 : 数Ⅰ・数A……1	
	数Ⅱ・数B, ※簿, ※情報から 1	} 2
	理 : 物理, 化学, 生物から 2	
外 : 英, 独, 仏, 中, 韓から 1		
	[5教科7科目]	

(注) 1. 「地歴」及び「公民」の教科について、2科目を受験している者の成績は、第1解答科目の成績を採用します。

2. 「地歴」及び「公民」の教科について、第1解答科目が医学科の指定した利用教科・科目でなく、第2解答科目が医学科の指定した利用教科・科目である場合は、当該利用教科・科目を「0点」として取扱います。

3. 大学入学共通テストで受験を要する教科・科目欄中※印の科目を選択解答できる者は、出願要件となる教育施設においてこれらの科目を履修した者に限ります。

(4) 評価基準・配点

1) 評価基準

【面接】

医学科の教育を受けるために必要な基礎学力，科学的・知的探究心，医学（地域医療を含む）に対する熱意と適性，柔軟な思考力，高等学校における活動状況を参考とします。

調査書，推薦書及び志望理由書を参考にしながら，複数の面接官による個人面接を実施します。

2) 配点

学科	大学入学共通テスト					計	個別学力検査等		合計
	教科・科目等						面接	計	
	国語	地歴・公民	数学	理科	外国語				
医学科	200	100	200	200	200	100	30	30	130
	合計点を100点に換算する								

※大学入学共通テストで課す「外国語『英語』」については，リーディング100点満点を200点満点に，リスニング100点満点を50点満点に換算し，その合計点を200点満点に圧縮したうえで，学科における配点のとおり換算します。

また，大学入学共通テスト（特例追試験）の受験者については，「外国語『英語』」の筆記（200点満点）とリスニング（50点満点）の合計点を200点満点に圧縮したうえで，学科における配点のとおり換算します。

なお，リスニング免除者及び英語以外の「外国語」受験者については，リーディング100点満点を200点満点に換算し，学科における配点のとおり換算します。

(5) 合否判定基準

- 1) 令和3年度大学入学共通テストの **5教科7科目以上を受験し，かつ，7科目合計点の78%以上を得た者を対象に**，総得点の高い順に募集人員の範囲で合格者を決定します。
- 2) 面接について，複数の面接官が最低の評価点を与えた場合，合格としません。

(6) 試験日時等

- 1) 日時 令和3年2月6日(土) 集合時間 12時30分
- 2) 試験場 熊本大学医学部医学科 熊本市中央区本荘1丁目1番1号

※ インターネット出願登録システムから出力した本学の受験票（学校推薦型選抜Ⅱ用）及び「大学入学共通テスト受験票」を持参してください。

[本件に関する問合せ先]

熊本大学医薬保健学系事務課医学事務チーム教務担当 電話：096-373-5027

「熊本県医師修学資金」について

学校推薦型選抜Ⅱ（地域枠）による合格者は，熊本県医師修学資金の貸与を受けていただきます。この修学資金は，医師が不足している地域の医師確保を目的としたものです。貸与を受けた方は，熊本県医師修学資金貸与医師キャリア形成プログラム（熊本県医師修学資金貸与条例，熊本県医師修学資金貸与医師の勤務等に関する要綱で規定）の対象となり，大学卒業後には貸与を受けた期間の1.5倍に相当する期間（6年間貸与を受けた場合は9年間），熊本県知事が指定する医師不足地域の病院等で勤務していただきます。（この期間には，熊本県内の医療機関で行う2年間の初期臨床研修，1年間の後期研修の期間を含みます。）必要な勤務期間を満了すると，貸与を受けた修学資金の返還が免除されます。なお，当該指定病院等で医師業務に従事しなかった場合等，被貸与者となった後，熊本県医師修学資金貸与条例第8条に規定する事項に該当した場合，貸与を受けた修学資金の額に利息を加えた額を一定期間内に一括して返還する必要がありますのでご注意ください。

- ・貸与内訳：入学料相当額（1年生のみ），授業料相当額，生活費相当額（月額75,000円）
（6年間で約900万円程度の貸与となります。）

熊本県医師修学資金の詳しい内容については，以下の問合せ先へお尋ねください。

[問合せ先] 熊本県医療政策課（電話）096-333-2204

令和4年度（2022年度） 入学者選抜要項

目	次
教育学部の改組計画について	1
1. 令和4年度入学者選抜の主な変更点	5
2. インターネット出願	7
3. アドミッション・ポリシー	
(1) 各学部学科・課程のアドミッション・ポリシー	8
(2) グローバルリーダーコース（文学部，法学部，理学部，工学部）の アドミッション・ポリシー	26
4. 入学者選抜概要	
(1) 募集人員	29
(2) 出願資格	30
(3) 志望方法	31
(4) 推薦方法	32
5. 入学者選抜実施日程	33
6. 入学者選抜方法等	34
7. 一般選抜	
入学者選抜の実施教科・科目等	38
8. 特別選抜	
(1) 総合型選抜【グローバルリーダーコース】	52
(2) 学校推薦型選抜	56
(3) 帰国生徒選抜	75
(4) 社会人選抜	78
(5) 私費外国人留学生選抜	79
9. 障がい等を有する入学志願者との事前相談	83
10. 入学志願者の入学検定料の免除	84
11. 学生募集要項等の公表時期及び入手方法	85
(参考資料)	
• 令和3年度入学試験実施状況表	86
• 熊本大学位置図	92

〔令和3年6月〕



IV 各選抜で特に重視するポイント（◎：特に大きい比重，○：大きい比重）

評価観点 入試区分	学力の3要素			求める人材像 (アドミッション・ポリシー)			
	知識・技能 (基礎学力)	思考力, 判断力, 表現力	主体性, 多様性, 協働性	論理的 思考力	科学的 探求心	応用力, 実践力	国際的情報収 集発信能力, 外国語能力
前期日程	◎	◎		◎		○	○
後期日程	◎	◎		◎		○	○
総合型選抜	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
私費外国人 留学生選抜	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎

※ 評価の観点の「求める人材像」の用語は、「I 求める学生像」の理学部が求める学生像を抽象化したものです。

医学部

熊本大学医学部では、医学・保健学（看護学・放射線技術科学・検査技術科学）の発展に寄与し、広く社会に貢献できる医療者・研究者・教育者を育成するために、豊かな人間性、優れた協調性、高い倫理観、十分な基礎学力、科学的探究心、国際的視野を持つ人を求めています。

<医学科>

I 求める学生像

熊本大学医学部医学科の使命

豊かな人間性と高い倫理観を持ち、医学およびその関連領域における社会的な使命を追求、達成しうる医師・医学者を育てる。

アドミッション・ポリシー

熊本大学医学部医学科の使命を達成するために、医学部医学科では、次のような人を求めています。

1. 病める人たちやその家族の気持ちを理解できる人
2. チーム医療の中心的役割を果たすための優れた協調性を持つ人
3. 地域医療に関心を持ち、地域住民の健康増進に貢献する意欲を持つ人
4. 科学的探究心が旺盛で、国際的視野で医科学研究を展開する意欲に溢れる人
5. 社会に対する幅広い視野を有し、地域や国際社会における保健医療や福祉に深い関心を持つ人
6. 日々進歩する医学や医療の最新知識を吸収できる基礎学力を持ち、生涯にわたって自己学習を継続できる人

II 入学者選抜の基本方針

医学部医学科の入学試験では、高等学校までの教育課程を踏まえ、基礎的知識（基礎学力）、論理的思考力・判断力・表現力等を評価します。

(医学科への入学までに身につけてほしいこと)

受験生の多様性に合わせて、大学入学共通テスト及び個別学力検査では物理・化学・生物から2科目選択となっていますが、入学後、医学科の様々な専門科目の基礎として、高等学校で学ぶ「生物・生物基礎」は重要な科目です。生物学の教科書はバランス良く構成されており、最新の生命現象についても平易に解説されていますので、幅広く学んでおくことが必要です。

また、教科の基礎学力だけでなく、論理的な文章を書くための国語力、グローバルでグローバルな医療の世界での共有言語である英語の素養を十分に身につけ、国際的な広い視野とコミュニケーション能力を備えていることも重要です。

Ⅲ 選抜方法

【一般選抜】

1. 前期日程

「知識・技能」については、大学入学共通テストを利用して高等学校の教育課程の教科・科目に関する総合的な学力を、個別学力検査により、入学後の学習とより密接にかかわる教科・科目について学力をより深く判定します。また、「思考力・判断力・表現力」及び「主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度」については調査書及び面接により判定し、それらの判定結果から入学者を選抜します。

【特別選抜】

2. 学校推薦型選抜Ⅱ

「知識・技能」については、大学入学共通テストを利用して高等学校の教育課程の教科・科目に関する総合的な学力を、個別学力検査により、入学後の学習とより密接にかかわる教科・科目について学力をより深く判定します。また、「思考力・判断力・表現力」及び「主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度」については、推薦書、調査書及び面接により判定し、それらの判定結果から入学者を選抜します。

3. 私費外国人留学生選抜

「知識・技能」については、日本留学試験を利用してこれまでの教育課程の教科・科目及び日本語に関する総合的な学力を、個別学力検査により、入学後の学習とより密接にかかわる教科・科目について学力をより深く判定します。また、「思考力・判断力・表現力」及び「主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度」については面接により判定し、それらの判定結果から入学者を選抜します。

IV 各選抜で特に重視するポイント（◎：特に大きい比重，○：大きい比重）

評価観点 入試区分	学力の3要素			求める人材像 (アドミッション・ポリシー)		
	知識・技能 (基礎学力)	思考力, 判断力, 表現力	主体性, 多様性, 協働性	チーム医療に 必要とされる コミュニケーション能力・ 協調性	地域医療 への関心 ・貢献	医科学研究への関 心・持続 的な学習 意欲
前期日程	◎	◎	◎	◎	◎	◎
学校推薦型選 抜Ⅱ（一般枠）	◎	◎	◎	◎	◎	◎
学校推薦型選 抜Ⅱ（熊本み らい医療枠）	◎	◎	◎	◎	◎	◎
学校推薦型選 抜Ⅱ（地域枠）	◎	◎	◎	◎	◎	◎
私費外国人 留学生選抜	◎	◎	◎	○	○	○

<保健学科>

I 求める学生像

保健学（看護学，放射線技術科学，検査技術科学）の発展を担い，広く社会に貢献できる資質の高い医療者・研究者・教育者を育成するために，保健学科では次のような人を求めています。

1. 看護職（看護師，保健師，助産師）並びに診療放射線技師，臨床検査技師という職業に魅力を感じ，専門分野において地域貢献するとともに，国際的な広い視野で物事を考え，活躍する意欲と熱意のある人
2. 人間に対する尊厳の念を持ち，多様な価値観を受け入れる寛容さと優れた協調性を備えた人間性豊かな人で，医療における高い倫理観とマナーを育ていける資質を持った人
3. 高等学校までの履修科目の基礎事項を理解した上で，国語，外国語とともに2科目以上の理科（生物，化学，物理）において優れた学力を有する人
4. 高等学校までに自らの目標に基づいて取り組んだ経験やクラブ活動あるいは生徒会活動，ボランティア活動等の経験を有し，様々な社会環境を受け入れることができる豊かな人間性を持った人
5. 専門分野の知識や技術に興味・関心を持って学び，実験や臨地実習においても真摯な態度で自らの課題を設定して問題解決し，新しい分野にも積極的に取り組んでいくフロンティア精神を持った人
6. 協調性に富み，チーム医療の一員としてお互いの仕事を尊重しつつ協同的に働き，専門分野における役割・機能の責務を果たし，指導的役割を担える資質を有する人
7. 科学的探求心と積極的学習意欲を備え，学部卒業後は専門職業人や教育者・研究者としての能力を高め，指導的立場に立って社会貢献しようという意欲のある人

II 入学者選抜の基本方針

医学部保健学科の入学試験では，高等学校までの教育課程を踏まえ，知識・技能（基礎学力）・思考力・判断力・表現力等を評価します。また，入学後のカリキュラムを考慮して，選抜にあたっては数学・理科科目を主とした論理的思考力や科学的探究心，英語科目による読解・表現のための外国語能力，国語科目を主とした理解力及び構成的論述能力，医療従事者に必要な倫理観や協調性，社会貢献等への関心やその他学習意欲等を重視します。

4. 入学者選抜概要

(1) 募集人員

学 部	学 科・課 程・専 攻	入学定員	募 集 人 員 (人)											
			一 般 選 抜		特 別 選 抜									
			前 期 日 程	後 期 日 程	総合型選抜 (グローバルリーダーコース)	学校推薦型選抜		帰国生徒選抜	社会人選抜	私費外国人留学生選抜				
		学校推薦型選抜Ⅰ (大学入学共通テストを課さない)	学校推薦型選抜Ⅱ (大学入学共通テストを課す)											
文 学 部	総合人間学科	55	55	38	8		9							
	歴史学科	35	35	24	7		4							
	文学科	50	50	35	5	10	5					各学科 若干名		
	コミュニケーション情報学科	30	30	20			5							
	計	170	170	117	20	10	23							
教育学部	学校教育教員養成課程 初等・中等教育コース	220	小学校専攻	110	80				30					
			国語専攻	7	7									
			社会専攻	7	7									
			数学専攻	10	10									
			理科専攻	10	5				5					
			英語専攻	6	6									
			実技系専攻											
			音楽						(3人程度)					
			美術						(1人程度)					
			保健体育	20	10				(3人程度)					
			技術						(1人程度)					
			家庭						(2人程度)					若干名
計	170	125				45								
特別支援教育コース	20	14				6								
養護教育コース	30	22				8								
計	220	220	161			59								
法 学 部	法学科	210	210	145	25	10	30		若干名			若干名		
理 学 部	理学科	200	200	150	40	10						若干名		
医 学 部	医学科	110	※110	87				※23						
	保健学科	144	看護学専攻	70	50			18				2		
	放射線技術科学専攻		37	28			9							
	検査技術科学専攻		37	28			9							
	計		254	254	193			59				2		
薬 学 部	薬学科	55	55	40				15						
	創薬・生命薬科学科	35	35	25				10				各学科 若干名		
	計	90	90	65				25						
工 学 部	土木建築学科	124	124	82	11			26						
	機械数理工学科	109	109	73	10	20		21						
	情報電気工学科	149	149	100	14			30				各学科 若干名		
	材料・応用化学科	131	131	80	12			34						
	計	513	513	335	47	20		111						
合 計		1,657	1,657	1,166	132	50	53	254			2			

(備考) 1. 教育学部学校教育教員養成課程初等・中等教育コースの国語専攻，社会専攻，数学専攻，英語専攻は，一般選抜（前期日程）のみで募集する。

教育学部学校教育教員養成課程初等・中等教育コースの実技系専攻における一般選抜（前期日程）は，音楽，美術，保健体育，技術，家庭を統合して募集する。なお，学校推薦型選抜Ⅱ募集人員における（ ）内人数は，それぞれの合格者数の目安を示す。

教育学部学校教育教員養成課程初等・中等教育コースの小学校専攻における学校推薦型選抜Ⅱは，一般枠，地域枠，理数枠を設定し，募集人員はそれぞれ10人とする。

教育学部学校教育教員養成課程初等・中等教育コースにおける実技系専攻（技術）の学校推薦型選抜Ⅱは，職業教育（工業・農業系）を主とする専門高校（学科）又は職業教育（工業・農業系）を主とする総合学科の出身者を対象とする学校推薦型選抜の募集人員を示す。

2. 医学部医学科の学校推薦型選抜Ⅱ募集人員には，熊本みらい医療枠（熊本県出身等の卒業見込み者を対象とした学校推薦型選抜）の募集人員（10人），地域枠（熊本県出身等の卒業見込み者及び卒業者を対象とした学校推薦型選抜）の募集人員（8人）を含む。
3. 工学部の学校推薦型選抜Ⅱ募集人員には，職業教育を主とする専門高校（学科）及び総合学科の出身者を対象とした学校推薦型選抜の募集人員（若干名）を含む。（学校推薦型選抜Ⅱ（イ）と称する。）
4. 総合型選抜，学校推薦型選抜及び社会人選抜の入学手続完了者が募集人員に満たない場合（合格者が募集人員に満たなかった場合も含む）は，その不足する人員を前期日程の募集人員にそれぞれ加える。
5. 総合型選抜（グローバルリーダーコース）については，学部単位での募集とする。

※ 医学部医学科の募集人員について

医学部医学科では、本来、入学定員（募集人員）が105人のところ、令和4年度（2022年度）入試における入学定員（募集人員）は110人（一般選抜（前期日程）：87人、学校推薦型選抜Ⅱ：23人（一般枠：5人、熊本みらい医療枠：10人、地域枠：8人））となっています。これは、熊本県内の地域医療に志のある学生の入学を推進し、地域等における医師不足を解消することを目的として、令和2・3年度に引き続き、令和4年度においても入学定員5人の臨時定員を維持することを計画しているためです。

今後、文部科学省大学設置・学校法人審議会での審議を経て、臨時定員の維持が認められた場合に、令和4年度入試における入学定員は110人となり、本表の募集人員にて入学者選抜を実施する予定です。

なお、本件については、内容が確定次第、本学ウェブサイトで情報を更新していきますので、随時確認するようにしてください。（<https://www.kumamoto-u.ac.jp/nyuushi/gakubunyushi> 参照）

◎ 教育学部学校教育教員養成課程初等・中等教育コースにおける実技系専攻の募集について

一般選抜（前期日程）における実技系専攻は、音楽、美術、保健体育、技術、家庭を1専攻として統合し選抜を実施します。実技系専攻の志願者は、出願時に上記から1つを選択して出願するものとし、実技系専攻内で相互志望は認めません。

また、学校推薦型選抜Ⅱでは、実技系専攻として募集人員を設定しますが、音楽、美術、保健体育、技術、家庭で個別に選抜を実施し、募集人員欄に示す（ ）内の人数を合格者数の目安とします。

◎ 法学部法学科のコース所属について

法学部法学科の一般選抜合格による入学者は、1年次において「法学・公共政策学コース」に所属します。入学後のコース変更は可能ですが、その際は入学後の成績に基づく選考が行われます。学校推薦型選抜合格による入学者のコース所属は、57～58ページをご参照ください。

（<http://www.law.kumamoto-u.ac.jp/curriculum/> 参照）

◎ 工学部の教育プログラムについて

工学部は4学科で学生を募集し、学科単位で選抜を行いますが（総合型選抜を除く）、入学者は2年次進級の際にさらに学科毎に3つの教育プログラムに分かれて所属します。各教育プログラムの受け入れ可能な人数には制約があり、教育プログラムへの配属は希望と1年次の成績に基づいて決定されます。同一学科内であっても、配属される教育プログラムによって取得可能な資格等に違いがありますので注意してください。（<https://www.eng.kumamoto-u.ac.jp/department/> 参照）

(2) 出 願 資 格

次の1)～3)のいずれかに該当する者で、かつ、志望する学部・学科・課程・専攻が指定する令和4年度大学入学共通テストの教科・科目（指定する教科・科目以上を受験した者を含む）を受験した者とします。

ただし、特別選抜（総合型選抜、学校推薦型選抜、帰国生徒選抜、社会人選抜及び私費外国人留学生選抜）については、別に定める出願要件（52～79ページ参照）とします。

- 1) 高等学校又は中等教育学校を卒業した者及び令和4年3月までに卒業見込みの者
- 2) 通常の課程による12年の学校教育を修了した者及び令和4年3月までに修了見込みの者（※1）
※1 特別支援学校の高等部又は高等専門学校の3年次を修了した者（見込みの者）が該当します。
- 3) 学校教育法施行規則（昭和22年文部省令第11号）第150条の規定により、高等学校を卒業し

た者と同等以上の学力があると認められる者及び令和4年3月31日までにこれに該当する見込みの者（次のア～カに該当する者）

- ア. 外国において学校教育における12年の課程を修了した者又はこれに準ずる者で文部科学大臣の指定したもの
- イ. 文部科学大臣が高等学校の課程と同等の課程を有するものとして認定した在外教育施設の当該課程を修了した者
- ウ. 専修学校の高等課程（修業年限が3年以上であることその他の文部科学大臣が定める基準を満たすものに限る。）で文部科学大臣が別に指定するものを文部科学大臣が定める日以後に修了した者
- エ. 文部科学大臣の指定した者
- オ. 高等学校卒業程度認定試験規則による高等学校卒業程度認定試験に合格した者（旧規程による大学入学資格検定に合格した者を含む。）で、18歳に達したもの
- カ. 本学において、個別の入学資格審査により、高等学校を卒業した者と同等以上の学力があると認めた者で、18歳に達したもの（※2）

※2 上記出願資格のカ.により出願する場合は、個別の出願資格審査を行います。

詳細は、熊本大学学生支援部入試課（096-342-2148）にお問い合わせください。

期 限 令和3年8月31日（火）（必着、郵送に限る）まで

ただし、大学入学共通テスト出願の際に、他大学の個別の入学資格審査により出願資格の認定を受けて出願した者で、本学の個別学力検査に出願する場合は、令和4年1月20日（木）（必着、郵送に限る）までとします。

(3) 志 望 方 法

1) 一般選抜

各学部の志望方法は、次のとおりです。

学 部 等		前 期 日 程	後 期 日 程
文 学 部		4学科（総合人間学科，歴史学科，文学科，コミュニケーション情報学科）の中から1学科を志望してください。第2志望は認めません。	3学科（総合人間学科，歴史学科，文学科）の中から1学科を志望してください。第2志望は認めません。
教 育 学 部	学 校 教 育 教 員 養 成 課 程 初等・中等教育コース 特別支援教育コース	初等・中等教育コース（7専攻）及び特別支援教育コースの中から3つまで志望することができます。 なお、 <u>実技系専攻を志望する場合は、音楽、美術、保健体育、技術及び家庭のいずれか1つを志望してください。</u>	後期日程は実施しません。
	養護教育コース	他のコースと併せて志望することはできません。	
法 学 部		法学科を志望してください。	
理 学 部		理学科を志望してください。	

学校推薦型選抜Ⅱ（一般枠）（大学入学共通テストを課す）

実施学部・学科名	医学部 医学科
募集人員	5人
出願要件	<p>推薦人員は、一つの学校から1人とします。 ただし、熊本県、福岡県、佐賀県、長崎県、大分県、宮崎県、鹿児島県の学校については、2人以内とします。 なお、学校推薦型選抜Ⅱ（地域枠）及び（熊本みらい医療枠）との併願はできません。 志望学科への入学の意志が強固な者で、次の1)～4)の全ての要件を満たすもの</p> <p>1) 次のいずれかに該当する者</p> <p>① 高等学校（特別支援学校の高等部を含む。）又は中等教育学校を令和4年3月卒業見込みの者（令和3年度中に卒業を認められる者を含む。）</p> <p>② 高等専門学校の第3学年を令和4年3月修了見込みの者</p> <p>③ 文部科学大臣が高等学校の課程と同等の課程又は相当する課程を有するものとして認定又は指定した在外教育施設の当該課程を令和4年3月修了見込みの者（令和3年度中に修了を認められる者を含む。）</p> <p>2) 上記1)の教育施設における全体の学習成績の状況が4.0以上であって、人物・能力及び適性等について当該学校長が責任をもって推薦できる者</p> <p>3) 令和4年度大学入学共通テストの5教科7科目以上（選抜方法等欄参照）を受験した者</p> <p>4) 合格した場合、入学することを確約できる者</p>
選抜方法等	<p>大学入学共通テスト、推薦書、調査書、志望理由書（800字程度）及び面接の成績により総合的に判定します。</p> <p>大学入学共通テストで受験を要する教科・科目</p> <p>国：国語……1</p> <p>地歴：世B、日B、地理B</p> <p>公民：現社、倫、政経、倫・政経 } から1</p> <p>数：数Ⅰ・数A……1</p> <p>数Ⅱ・数B、簿、情報から1 } 2</p> <p>理：物、化、生から2</p> <p>外：英、独、仏、中、韓から1</p> <p style="text-align: right;">〔5教科7科目〕</p> <p>（注）「簿」及び「情報」を選択解答できる者は、出願要件となる教育施設においてこれらの科目を履修した者に限ります。</p>
出願期間	令和4年1月17日（月）～令和4年1月21日（金）
選抜期日	令和4年2月5日（土）
合格発表日	令和4年2月9日（水）
その他	

学校推薦型選抜Ⅱ（熊本みらい医療枠）（大学入学共通テストを課す）

実施学部・学科名	医学部 医学科
募集人員	10人
出願要件	<p>熊本県内の高等学校が推薦できる人数は、一つの学校から4人以内とします。 熊本県外の高等学校が推薦できる人数は、一つの学校から3人以内とし、出願時において保護者が3年以上継続して熊本県内に在住（住民票登録）している者を対象とします。</p> <p>なお、学校推薦型選抜Ⅱ（一般枠）及び（地域枠）との併願はできません。 志望学科への入学の意志が強固な者で、次の1)～4)の全ての要件を満たすもの</p> <p>1) 次のいずれかに該当する者</p> <p>① 高等学校（特別支援学校の高等部を含む。）又は中等教育学校を令和4年3月卒業見込みの者（令和3年度中に卒業を認められる者を含む。）</p> <p>② 高等専門学校の第3学年を令和4年3月修了見込みの者</p> <p>③ 文部科学大臣が高等学校の課程と同等の課程又は相当する課程を有するものとして認定又は指定した在外教育施設の当該課程を令和4年3月修了見込みの者（令和3年度中に修了を認められる者を含む。）</p> <p>2) 人物・能力及び適性等について当該学校長が責任をもって推薦できる者</p> <p>3) 令和4年度大学入学共通テストの5教科7科目以上（選抜方法等欄参照）を受験した者</p> <p>4) 合格した場合、卒業後の初期臨床研修修了後、熊本大学大学院医学教育部への進学又は熊本大学病院専門研修プログラムの履修（熊本大学病院及びその関連施設での勤務）が確約できる者</p>
選抜方法等	<p>大学入学共通テスト、推薦書、調査書、志望理由書（800字程度）及び面接の成績により総合的に判定します。</p> <p>大学入学共通テストで受験を要する教科・科目</p> <p>国：国語……1</p> <p>地歴：世B、日B、地理B</p> <p>公民：現社、倫、政経、倫・政経 } から1</p> <p>数：数Ⅰ・数A……1</p> <p>数Ⅱ・数B、簿、情報から1 } 2</p> <p>理：物、化、生から2</p> <p>外：英、独、仏、中、韓から1</p> <p style="text-align: right;">〔5教科7科目〕</p> <p>（注）「簿」及び「情報」を選択解答できる者は、出願要件となる教育施設においてこれらの科目を履修した者に限ります。</p>
出願期間	令和4年1月17日（月）～令和4年1月21日（金）
選抜期日	令和4年2月5日（土）
合格発表日	令和4年2月9日（水）
その他	

学校推薦型選抜Ⅱ（地域枠）（大学入学共通テストを課す）

実施学部・学科名	医学部 医学科																			
募集人員	8人																			
出願要件	<p>熊本県内の高等学校が推薦できる人数は、一つの学校から4人以内とします。 熊本県外の高等学校が推薦できる人数は、一つの学校から3人以内とし、出願時において保護者が3年以上継続して熊本県内に在住（住民票登録）している者を対象とします。</p> <p>なお、学校推薦型選抜Ⅱ（一般枠）及び（熊本みらい医療枠）との併願はできません。</p> <p>志望学科への入学の意志が強固、かつ将来、熊本県の地域医療を目指す者で、次の1)～4)までの全ての要件を満たすもの</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 高等学校（特別支援学校の高等部を含む。）又は中等教育学校を令和2年3月以降に卒業した者及び令和4年3月卒業見込みの者 2) 上記1)の教育施設における全体の学習成績の状況が4.0以上であって、将来、熊本県の地域医療において中心的役割を担う人材であると判断でき、人物・能力及び適性等について当該学校長が責任をもって推薦できる者 3) 令和4年度大学入学共通テストの5教科7科目以上（選抜方法等欄参照）を受験した者 4) 合格した場合、熊本県医師修学資金の貸与を受け入学し、在学中は継続して貸与を受けることを確約できる者（注） （注）卒業後の決められた一定期間、熊本県知事が指定する地域の病院等で勤務していただきます。 																			
選抜方法等	<p>大学入学共通テスト、推薦書、調査書、志望理由書（地域医療に対する抱負や意見について800字程度）及び面接の成績により総合的に判定します。</p> <p>大学入学共通テストで受験を要する教科・科目</p> <table style="margin-left: 20px;"> <tr> <td>国</td> <td>：国語……1</td> <td></td> </tr> <tr> <td>地歴</td> <td>：世B，日B，地理B</td> <td rowspan="2">} から1</td> </tr> <tr> <td>公民</td> <td>：現社，倫，政経，倫・政経</td> </tr> <tr> <td>数</td> <td>：数Ⅰ・数A……1</td> <td rowspan="2">} 2</td> </tr> <tr> <td></td> <td>数Ⅱ・数B，簿，情報から1</td> </tr> <tr> <td>理</td> <td>：物，化，生から2</td> <td></td> </tr> <tr> <td>外</td> <td>：英，独，仏，中，韓から1</td> <td></td> </tr> </table> <p style="text-align: right;">[5教科7科目]</p> <p>（注）「簿」及び「情報」を選択解答できる者は、出願要件となる教育施設においてこれらの科目を履修した者に限ります。</p>	国	：国語……1		地歴	：世B，日B，地理B	} から1	公民	：現社，倫，政経，倫・政経	数	：数Ⅰ・数A……1	} 2		数Ⅱ・数B，簿，情報から1	理	：物，化，生から2		外	：英，独，仏，中，韓から1	
国	：国語……1																			
地歴	：世B，日B，地理B	} から1																		
公民	：現社，倫，政経，倫・政経																			
数	：数Ⅰ・数A……1	} 2																		
	数Ⅱ・数B，簿，情報から1																			
理	：物，化，生から2																			
外	：英，独，仏，中，韓から1																			
出願期間	令和4年1月17日（月）～令和4年1月21日（金）																			
選抜期日	令和4年2月5日（土）																			
合格発表日	令和4年2月10日（木）																			
その他																				

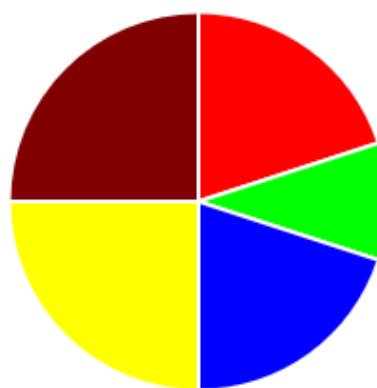
科目名：早期臨床体験実習I（H27以降入用）（日） / Early Clinical ExposureI（英）

基本情報

科目ナンバー	MME1-010-62-0	開講年次	1年生
年度・学期	2021年 通年	曜日・時限	他
担当教員	古川 昇, 王 百慧, 松井 邦彦, 谷口 純一	単位数	1.5単位
選択/必修	各学部・大学院の履修方法による	授業回数	8
時間割所属	医学部 (42)	時間割コード	20024

学修成果とその割合

A) 豊かな人間性	20 %
B) 基本的診療能力	10 %
C) 自己研鑽とプロフェッショナリズム	20 %
D) チーム医療と信頼される医療の実績	25 %
E) 医科学研究	0 %
F) 国際的視野	0 %
G) 地域医療と社会貢献	25 %



詳細情報

講義題目(テーマ) 早期臨床体験実習 1

使用言語 「日本語」による授業

教科書・資料の言語 「日本語」のテキスト

授業の形態 実習

対面・遠隔の別 対面形式

授業の方法 グループ学習、学外施設での実習、発表会

授業の目的

医療という人の命に係わる職業に携わるものとしての職業的使命感、特に患者の心を理解する豊かな人間性を育てることは極めて重要である。このような観点から、特に、入学当初の一年次学生に医療・保健・福祉の現場で臨場体験を行うことによって、医学を学ぶためのモチベーションを獲得し、患者や住民の側から医療・福祉をみる体験を積み、患者と接する態度を学び、医師、スタッフ、患者のチームワークのあり方を考えることを早期臨床体験実習I(Early Clinical Exposure1, ECE1)の目的とする。さらに平成28年度改訂版医学教育モデルコアカリキュラムの「A-1-2)患者中心の視点」「A-1-3)医師としての責務と裁量権」「A-4)コミュニケーション能力」「A-5)チーム医療の実践」「A-6)医療の質と安全の管理」「A-7-1)地域医療への貢献」「B-1-6)社会・環境と健康」「B-1-7)地域医療・地域保健」「B-1-8)保健・医療・福祉・介護の制度」「F-2-14)リハビリテーション」「F-2-15)在宅医療と介護」にある学修目標の習得の足掛りを得ることを目的とする。

授業の概要

日時：令和3年9月13日～9月17日（発表会は9月30日、10月7日）。場所：各実習施設（心身障がい児(者)施設、慢性疾患療養施設、老人保健施設、特別養護老人ホーム、療養型病院、等）、熊本大学医学部医学科。内容：オリエンテーション・グループワークを行い、実習する施設にて学ぶべきことを確認する。施設での実習では、グループに分かれて各施設に赴き、医療・介護・福祉の現場で見学・体験実習を行う。具体的には、施設の全体像（施設、スタッフ、患者の概要、主な設備、活動の内容）の把握・記録、看護（介護）体験、リハビリ見学、ケースワーカーとの面接、ケースカンファレンス参加等。特定の患者についてのケースワーク（面接調査：現在の状況、既往歴、生活歴等）も可。施設での実習では、スタッフの指導・評価を受ける。グループで振り返りとまとめを行い、発表会にて口頭での発表を行う。

実務経験を活かした授業

該当

（実習施設にて医療活動を行っている指導者より直接指導を受ける。）

学修目標

A水準（到達すれば「優」に相当）

早期臨床体験実習Iで該当する熊本大学医学部医学科の学修成果および医学教育モデル・コア・カリキュラムについて、十分に達成しているレベルをA水準とする。なお、医学科学修成果の詳細は、医学科学修成果および、その対応表（<http://www.medphas.kumamoto-u.ac.jp/medical/obe/>）を参照する。

具体的には、学修成果に関して以下の項目について十分に達成しているレベルをA水準とする。

レベルB(模擬診療や研究体験で実践できる、計画立案できる)の段階:

A. 豊かな人間性(項目1, 2, 3, 4, 5)、B. 基本的診療能力(項目10)、C. 自己研鑽とプロフェッショナリズム(項目6, 7, 8)、D. チーム医療と信頼される医療の実践(項目1, 2, 3)

レベルC(基盤となる技能・態度の修得)の段階: B. 基本的診療能力(項目5, 6)、C. 自己研鑽とプロフェッショナリズム(項目1, 2, 3, 4, 5)、D. チーム医療と信頼される医療の実践(項目4, 5, 6, 7, 8)、F. 国際的視野(項目2, 3)、G. 地域医療と社会貢献(項目1, 2, 3, 4, 6)

レベルD(基盤となる知識の修得)の段階: B. 基本的診療能力(項目1, 2, 3, 4, 7, 8, 9, 11, 12, 13, 14)

A. 豊かな人間性の項目1, 3, 4について観察・知識獲得すること、項目2, 5について考察することが求められる。B. 基本的診療能力の項目10は、現場を体験し知識・態度を獲得することが望まれる。C. 自己研鑽とプロフェッショナリズム、D. チーム医療と信頼される医療の実践については、医療現場での医療スタッフの職務を観察・一部経験し、その能力獲得のための知識と態度を学ぶことが重要である。またG. 地域医療と社会貢献の項目1, 2については実際の現場の体験を通じ知識の獲得と理解に努める。

コアカリキュラムでは、

「A-1-2)患者中心の視点」「A-1-3)医師としての責務と裁量権」「A-4)コミュニケーション能力」「A-5)チーム医療の実践」「A-6)医療の質と安全の管理」「A-7-1)地域医療への貢献」「B-1-6)社会・環境と健康」「B-1-7)地域医療・地域保健」「B-1-8)保健・医療・福祉・介護の制度」「F-2-14)リハビリテーション」「F-2-15)在宅医療と介護」にある学修目標の獲得がある程度できているものをA水準とする。

C水準（到達すれば「可」に相当）

早期臨床体験実習Iで該当する熊本大学医学部医学科の学修成果および医学教育モデル・コア・カリキュラムについて、最低限達成しているレベルをC水準とする。なお、医学科学修成果の詳細は、医学科学修成果および、その対応表（<http://www.medphas.kumamoto->

u.ac.jp/medical/obe/) を参照する。

具体的には、学修成果に関して以下の項目について最低限達成しているレベルをC水準とする。

レベルB(模擬診療や研究体験で実践できる、計画立案できる)の段階:

A. 豊かな人間性 (項目1, 2, 3, 4, 5)、B. 基本的診療能力 (項目10)、
C. 自己研鑽とプロフェッショナリズム (項目6, 7, 8)、D. チーム医療
と信頼される医療の実践 (項目1, 2, 3)

レベルC(基盤となる技能・態度の修得) の段階: B. 基本的診療能力
(項目5, 6)、C. 自己研鑽とプロフェッショナリズム(項目1, 2, 3, 4,
5)、D. チーム医療と信頼される医療の実践 (項目4, 5, 6, 7, 8)、F. 国
際的視野 (項目2, 3)、G. 地域医療と社会貢献 (項目1, 2, 3, 4, 6)

レベルD(基盤となる知識の修得)の段階: B. 基本的診療能力 (項目1, 2,
3, 4, 7, 8, 9, 11, 12, 13, 14)

A. 豊かな人間性の項目1, 3, 4について観察・知識獲得すること、項目
2, 5について考察することが求められる。B. 基本的診療能力の項目10
は、現場を体験し知識・態度を獲得することが望まれる。C. 自己研鑽
とプロフェッショナリズム、D. チーム医療と信頼される医療の実践に
ついては、医療現場での医療スタッフの職務を観察・一部経験し、そ
の能力獲得のための知識と態度を学ぶことが重要である。またG. 地域
医療と社会貢献の項目1, 2については実際の現場の体験を通じ知識の
獲得と理解に努める。

また、コアカリキュラムでは、

「A-1-2)患者中心の視点」「A-1-3)医師としての責務と裁量権」「A-
4)コミュニケーション能力」「A-5)チーム医療の実践」「A-6)医療の質
と安全の管理」「A-7-1)地域医療への貢献」「B-1-6)社会・環境と健
康」「B-1-7)地域医療・地域保健」「B-1-8)保健・医療・福祉・介護
の制度」「F-2-14)リハビリテーション」「F-2-15)在宅医療と介護」
にある学修目標の獲得の足掛りを得ることをC水準とする。

本実習の評価はオリエンテーション・発表会も含めた実習中の態度について
となる。実習にやむを得ない理由 (病気・怪我・忌引など) なく欠席、遅
刻、早退したものは評価対象としない。

評価方法 ・基準

総括的評価は実習先指導者による評価(70%)、およびグループでの口頭発表
に対する教員と学生による評価(30%)にて行う。前記合計が60%以上で合
格とする。

また、ログブックにより自己評価・学生間の相互評価とスタッフからの形成
的評価を行う。

履修条件

各回の 授業内容と 事前・事後 学習

各回の授業内容と事前・事後学習

回	授業テーマ	内容概略
1	「医学情報処理」での 予習GW	「医学情報処理」にて、実 習施設についての予習など を行う。
2 2021-09-13	月曜日、全日、施設で のオリエンテーショ ン、実習	施設への移動と導入オリエ ンテーション、実習
3 2021-09-14	火曜日、全日、施設で の実習	実習先にてあらかじめ設定 されたスケジュールで実習 を行う。
4 2021-09-15	水曜日、全日、施設で の実習	実習先にてあらかじめ設定 されたスケジュールで実習 を行う。

回	授業テーマ	内容概略
5 2021-09-16	木曜日、全日、施設での実習	実習先にてあらかじめ設定されたスケジュールで実習を行う。
6 2021-09-17	金曜日、全日、施設での実習	実習先にてあらかじめ設定されたスケジュールで実習を行う。
7 2021-09-30	木曜日、3,4限、ECE1 発表会1	グループごとに実習についてスライドソフトと配布資料にてプレゼンテーションを行う。
8 2021-10-07	木曜日、3,4限、ECE1 発表会2	グループごとに実習についてスライドソフトと配布資料にてプレゼンテーションを行う。

授業外学修時間の 目安

本科目は、67.5時間の学修が必要な内容で構成されている。実習は48時間分となるため、19.5時間分相当の事前・事後学修（課題等含む）が、実習の理解を深めるために必要となる。

キーワード テキスト 参考文献

介護体験、多職種連携、心身障がい児（者）、老人保健・医療・福祉
特になし
特になし

文字列を選択して、右
クリックすると図書の
検索ができます

オフィス ・アワー

担当教員への 連絡方法

担当教員 からの メッセージ

この実習は医療・保健・福祉施設で行われることをわきまえ、言動服装に十分注意すること。施設のスタッフや患者・家族の方々に接する際には態度、言葉遣いに配慮すること。患者等に関する守秘義務を厳守すること。担当施設への詳細打合せ（集合時刻・集合場所・実習時の服装等）は、予め各グループで、責任をもって行っておくこと。
実習前に学生定期健康診断および抗体検査等を必ず受けておくこと。

科目名：早期臨床体験実習Ⅱ（H27以降入用）（日） / Early Clinical ExposureⅡ（英）

基本情報

科目ナンバー	MME1-020-62-0	開講年次	2年生
年度・学期	2021年 通年	曜日・時限	他
担当教員	古川 昇, 王 百慧, 谷口 純一	単位数	1単位
選択/必修	各学部・大学院の履修方法による	授業回数	7
時間割所属	医学部 (42)	時間割コード	20025

学修成果とその割合

A) 豊かな人間性	20 %
B) 基本的診療能力	10 %
C) 自己研鑽とプロフェッショナリズム	20 %
D) チーム医療と信頼される医療の実績	30 %
E) 医科学研究	5 %
F) 国際的視野	5 %
G) 地域医療と社会貢献	10 %



詳細情報

講義題目(テーマ) 早期臨床体験実習Ⅱ

使用言語 「日本語」による授業

教科書・資料の言語 「日本語」のテキスト

授業の形態 実習

対面・遠隔の別 対面形式

授業の方法 大学病院における実習

授業の目的 医学科学生にとって、医療という人の命に係わる職業に携わるものとしての職業的使命感、特に患者の心を理解する豊かな人間性を育むことは極めて重要である。1年次には早期臨床体験実習1として医療・保健・福祉の現場で臨場体験を行うことによって、患者や住民の側から医療・福祉をみる体験を積み、患者と接する態度を学んだ。早期臨床体験実習2では、熊本大学医学部附属病院において臨床体験を行うことにより、医学を学ぶためのモチベーションと患者と接する態度の向上の更なる獲得はもとより、先進医療の現場における診療体制の実際を見学・体験し、医師・スタッフ・患者とのチーム医療のあり方の理解をより深めることを目的とする。さらに平成28年度改訂版医学教育モデルコアカリキュラムの「A-1-2)患者中心の視点」「A-1-3)医師としての責務と裁量権」「A-4コミュニケーション能力」「A-5チーム医療の実践」「A-6医療の質と安全の管理」「A-7-1)地域医療への貢献」「B-1-6)社会・環境と健康」「B-1-8)保健・医療・福祉・介護の制度」「F-2 基本的診療知識」にある学修目標の習得の足掛りを得ることを目的とする。

授業の概要

日時：令和4年3月1日～3月7日。場所：熊本大学病院各診療科・各部署。
内容：学生を各診療科・各部署に配属し、各診療科・各部署が準備した実習スケジュールに従い、体験実習を行う。配属する診療科・部署は、学生の希望と診療科の許容人数に従い振り分ける。事前にオリエンテーションを行う。実習中はログブックにて実習記録を作成し振り返りを行う。一週間の実習終了後、個人毎にレポートを提出する。レポートの内容は後日レポート集として編集し学生や受け入れ部署に配布する。

実務経験を活かした授業

学修目標

該当 (実習施設にて医療活動を行っている指導者より直接指導を受ける。)

A水準 (到達すれば「優」に相当)

早期臨床体験実習IIで該当する熊本大学医学部医学科の学修成果および医学教育モデル・コア・カリキュラムについて、十分に達成しているレベルをA水準とする。なお、医学科学修成果の詳細は、医学科学修成果および、その対応表 (<http://www.medphas.kumamoto-u.ac.jp/medical/obe/>) を参照する。

学修成果に関しては以下の項目について十分に達成しているレベルをA水準とする。

① レベルB(模擬診療や研究体験で実践できる、計画立案できる)の段階: A. 豊かな人間性 (項目1, 2, 3, 4, 5)、B. 基本的診療能力 (項目10)、C. 自己研鑽とプロフェッショナリズム (項目6, 7, 8)、D. チーム医療と信頼される医療の実践 (項目1, 2, 3)

② レベルC(基盤となる技能・態度の修得)の段階: B. 基本的診療能力 (項目5, 6)、C. 自己研鑽とプロフェッショナリズム (項目1, 2, 3, 4, 5)、D. チーム医療と信頼される医療の実践 (項目4, 5, 6, 7, 8)、F. 国際的視野 (項目2, 3)、G. 地域医療と社会貢献 (項目1, 2, 3, 4, 6)

③ レベルD(基盤となる知識の修得)の段階: B. 基本的診療能力 (項目1, 2, 3, 4, 7, 8, 9, 11, 12, 13, 14)

特に早期臨床体験実習IIでは、A. 豊かな人間性の項目1, 3, 4について観察・知識獲得すること、項目2, 5についてさらに深い考察を行うことが求められる。B. 基本的診療能力については、医療スタッフの職務を観察・一部経験することにより基礎医学で得た知識を具体化するとともに臨床講義の準備として活用する。C. 自己研鑽とプロフェッショナリズム、D. チーム医療と信頼される医療の実践については、医療現場での医療スタッフの職務を観察・一部経験し、その能力獲得のためのさらなる考察・涵養が必要である。

また、コアカリキュラムでは、

「A-1-2)患者中心の視点」「A-1-3)医師としての責務と裁量権」「A-4)コミュニケーション能力」「A-5)チーム医療の実践」「A-6)医療の質と安全の管理」「A-7-1)地域医療への貢献」「B-1-6)社会・環境と健康」「B-1-8)保健・医療・福祉・介護の制度」「F-2 基本的診療知識」にある学修目標の獲得がある程度できているものをA水準とする。

C水準 (到達すれば「可」に相当)

この科目で該当する熊本大学医学部医学科の学修成果および医学教育モデル・コア・カリキュラムについて、最低限達成しているレベルをC水準とする。なお、医学科学修成果の詳細は、医学科学修成果および、その対応表 (<http://www.medphas.kumamoto-u.ac.jp/medical/obe/>) を参照する。

u.ac.jp/medical/obe/) を参照する。

学修成果に関しては以下の項目について最低限達成しているレベルをC水準とする。

① レベルB(模擬診療や研究体験で実践できる、計画立案できる)の段階: A. 豊かな人間性 (項目1, 2, 3, 4, 5)、B. 基本的診療能力 (項目10)、C. 自己研鑽とプロフェッショナリズム (項目6, 7, 8)、D. チーム医療と信頼される医療の実践 (項目1, 2, 3)

② レベルC(基盤となる技能・態度の修得)の段階: B. 基本的診療能力 (項目5, 6)、C. 自己研鑽とプロフェッショナリズム (項目1, 2, 3, 4, 5)、D. チーム医療と信頼される医療の実践 (項目4, 5, 6, 7, 8)、F. 国際的視野 (項目2, 3)、G. 地域医療と社会貢献 (項目1, 2, 3, 4, 6)

③ レベルD(基盤となる知識の修得)の段階: B. 基本的診療能力 (項目1, 2, 3, 4, 7, 8, 9, 11, 12, 13, 14)

特に早期臨床体験実習IIでは、A. 豊かな人間性の項目1, 3, 4について観察・知識獲得すること、項目2, 5について考察を行うことが求められる。B. 基本的診療能力については、医療スタッフの職務を観察・一部経験することにより基礎医学で得た知識を再確認する。C. 自己研鑽とプロフェッショナリズム、D. チーム医療と信頼される医療の実践については、医療現場での医療スタッフの職務を観察・一部経験し、その能力獲得のための足掛かりとなることが求められる。

また、コアカリキュラムでは、

「A-1-2)患者中心の視点」「A-1-3)医師としての責務と裁量権」「A-4)コミュニケーション能力」「A-5)チーム医療の実践」「A-6)医療の質と安全の管理」「A-7-1)地域医療への貢献」「B-1-6)社会・環境と健康」「B-1-8)保健・医療・福祉・介護の制度」「F-2 基本的診療知識」にある学修目標の獲得の足掛かりを得ることをC水準とする。

実習の評価は、オリエンテーション・振り返りも含めた実習中の態度による。実習にやむを得ない理由(傷病・事故・忌引など)なく欠席、遅刻、早退したものは評価対象としない。

評価方法 ・基準

総括的評価は実習先指導者の評価(60%)、および学生からのレポートへの評価(40%)にて行う。レポートは内容の妥当性、著しい倫理的逸脱の有無、文章量などを観点として評価する。前記合計が60%以上で合格とする。

また、ログブックにより自己評価・学生間の相互評価とスタッフからの形成的評価を行う。

履修条件

各回の 授業内容と 事前・事後 学習

各回の授業内容と事前・事後学習

回	授業テーマ	内容概略
1	オリエンテーション 1回目	早期臨床体験実習2全般の説明
2 2022-02-04	金曜日、1限、オリ エンテーション2回 目	医療情報取り扱い説明、看護部講義、受け入れ部署からの説明、実習の最終確認

回	授業テーマ	内容概略
3 2022-03-01	火曜日、全日、早期 臨床体験実習2、1日 目	学生を各診療科・各部署に配属し、各診療科・各部署が準備した実習スケジュールに従い、体験実習を行う。実習中はログブックにて実習記録を作成し振り返りを行う。
4 2022-03-02	水曜日、全日、早期 臨床体験実習2、2日 目	学生を各診療科・各部署に配属し、各診療科・各部署が準備した実習スケジュールに従い、体験実習を行う。実習中はログブックにて実習記録を作成し振り返りを行う。
5 2022-03-03	木曜日、全日、早期 臨床体験実習2、3日 目	学生を各診療科・各部署に配属し、各診療科・各部署が準備した実習スケジュールに従い、体験実習を行う。実習中はログブックにて実習記録を作成し振り返りを行う。
6 2022-03-04	金曜日、全日、早期 臨床体験実習2、4日 目	学生を各診療科・各部署に配属し、各診療科・各部署が準備した実習スケジュールに従い、体験実習を行う。実習中はログブックにて実習記録を作成し振り返りを行う。
7 2022-03-07	月曜日、全日、早期 臨床体験実習2、5日 目	学生を各診療科・各部署に配属し、各診療科・各部署が準備した実習スケジュールに従い、体験実習を行う。実習中はログブックにて実習記録を作成し振り返りを行う。

授業外学修時間の 目安

本科目は、45時間の学修が必要な内容で構成されている。実習は40時間分となるため、5時間分相当の事前・事後学修（課題等含む）が、実習の理解を深めるために必要となる。

キーワード

先進医療、コミュニケーション、チーム医療

テキスト

特になし

参考文献

各診療科・各部署より、必要に応じて適宜指示あり。

文字列を選択して、右
クリックすると図書の
検索ができます

オフィス ・アワー

担当教員への 連絡方法

担当教員 からの メッセージ

- 1) 服装、言動には十分配慮すること。すべての世代の方から受け入れてもらえる服装、髪型、言動であること。白衣、胸章（名札）を着用すること。
- 2) 体調不良などあれば、すぐに各科実習担当医あるいは近くの医療関係者に報告すること。がまんしない。過去に手術部にて気分不良で倒れた学生さんがいます。倒れる前に報告してください。
- 3) 実習前に学生定期健康診断および抗体検査等を必ず受けておくこと。

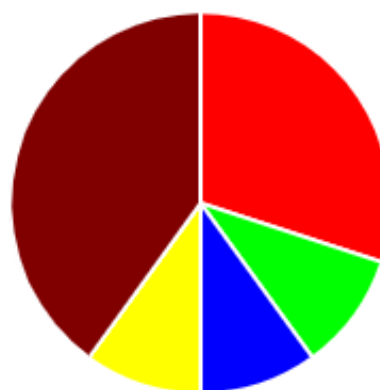
科目名：早期臨床体験実習Ⅲ（H27以降入用）（日） / Early Clinical ExposureⅢ（英）

基本情報

科目ナンバー	MME1-030-62-0	開講年次	3年生
年度・学期	2021年 通年	曜日・時限	他
担当教員	谷口 純一, 田宮 貞宏, 松井 邦彦, 古川 昇, 高柳 宏史	単位数	1単位
選択/必修	各学部・大学院の履修方法による	授業回数	8
時間割所属	医学部 (42)	時間割コード	20026

学修成果とその割合

A) 豊かな人間性	30 %
B) 基本的診療能力	10 %
C) 自己研鑽とプロフェッショナリズム	10 %
D) チーム医療と信頼される医療の実績	10 %
E) 医科学研究	0 %
F) 国際的視野	0 %
G) 地域医療と社会貢献	40 %



詳細情報

講義題目(テーマ) 早期臨床体験実習Ⅲ

使用言語 「日本語」による授業

教科書・資料の言語 「日本語」のテキスト

授業の形態 実験

対面・遠隔の別 対面形式

授業の方法 学外実習施設における実習

授業の目的 この早期臨床体験実習3 (Early Clinical Exposure 3, ECE3)は医学部医学科3年次に課す必修科目の一つである。医学科学生にとって、医療という人の命に係わる職業に携わるものとしての職業的使命感、特に患者の心を理解する豊かな人間性を育むことは極めて重要である。1年次には早期臨床体験実習1として医療・保健・福祉の現場で臨場体験を行うことによって、患者や住民の側から医療・福祉をみる体験を積み、患者と接する態度を学んだ。早期臨床体験実習2では、熊本大学医学部附属病院において臨床体験を行うことにより、医学を学ぶためのモチベーションと患者と接する態度の向上の更なる獲得はもとより、先進医療の現場における診療体制の実際を見学・体験し、医師・スタッフ・患者とチーム医療のあり方の理解を深めた。早期臨床体験実習3では、地域社会（市中の医療機関、へき地・離島、等）で求められる医療・保健・福祉・介護等の活動を経験し、そこで求められる臨床能力

を理解し、各々の実態や連携（多職種連携やチーム医療）とコミュニケーションの必要性を学ぶことを目的とする。

日時：2021年11月26日、11月29日～12月3日。場所：熊本大学医学部、熊本県内の医療機関。内容：学生を各施設に配属し、各施設が準備した実習スケジュールに従い、体験実習を行う。配属する施設は、学生の希望と施設の許容人数に従い振り分ける。11月26日に導入のワークを大学にて行う。11月29日から12月3日まで県内の医療機関において実習を行う。実習中は口グブックにて実習記録を作成し、実習先指導担当者と振り返りを行う。12月3日午後は大学に戻り、振り返りを行う。

授業の概要

実務経験を活かした授業

該当
(地域の医療機関で診療・医学教育を担当したことのある教員が、本実習について担当する。)

学修目標

A水準（到達すれば「優」に相当）

早期臨床体験実習では、熊本大学医学部医学科教育成果において、以下の項目についてそれぞれのレベル段階での能力を獲得することを到達目標とする。

レベルB(模擬診療や研究体験で実践できる、計画立案できる)の段階:
A. 豊かな人間性(項目1, 2, 3, 4, 5)、B. 基本的診療能力(項目10)、
C. 自己研鑽とプロフェッショナリズム(項目6, 7, 8)、D. チーム医療と信頼される医療の実践(項目1, 2, 3)

レベルC(基盤となる技能・態度の修得)の段階: B. 基本的診療能力(項目5, 6)、C. 自己研鑽とプロフェッショナリズム(項目1, 2, 3, 4, 5)、D. チーム医療と信頼される医療の実践(項目4, 5, 6, 7, 8)、F. 国際的視野(項目2)、G. 地域医療と社会貢献(項目1, 2, 3, 4, 6)

レベルD(基盤となる知識の修得)の段階: B. 基本的診療能力(項目1, 2, 3, 4, 7, 8, 9, 11, 12, 13, 14)

特にECE3では、レベルBの段階としてA(項目3,4,5)、D(項目1,2,3)、レベルCの段階としてB(項目5,6)、C(項目2,3)、D(項目4,5,6,7)、G(項目1,2,3,4,5)、レベルDの段階としてB(項目7,12,13)、以上の項目と段階については、地域医療の現場での体験を通してさらなる知識を獲得し、より深く観察・経験・考察し能力の獲得に努める。

C水準（到達すれば「可」に相当）

合否科目のため、A基準の目標を参照すること。また、評価方法・基準の項目に記載のあるように、大学で実施する「導入」「振り返り」ならびに各医療機関で実施される「実習」での評価をもとに総合的に判断する。

評価方法・基準

実習の評価は、大学で実施する導入・振り返りワークへの参加態度、提出物、さらに実習先指導担当者による実習期間中の評価票を合わせて、総括的評価を行う。実習にやむを得ない理由（傷病・事故・忌引など）なく欠席、遅刻、早退したものは評価対象としない。

履修条件

各回の授業内容と事前・事後学習

各回の授業内容と事前・事後学習

回	授業テーマ	内容概略
1	オリエンテーション	実習の説明、実習先振り分けなど
2	導入ワーク	講義室に集まり導入のための個人ワーク、グループワークを行う

2021-11-26

回	授業テーマ	内容概略
3 2021-11-29	学外実習1日目	各実習施設にて実習を行う。
4 2021-11-30	学外実習2日目	各実習施設にて実習を行う。
5 2021-12-01	学外実習3日目	各実習施設にて実習を行う。
6 2021-12-02	学外実習4日目	各実習施設にて実習を行う。
7 2021-12-03	学外実習5日目	午前中まで各実習施設にて実習を行う。遠方での実習の場合は移動時間となる。
8 2021-12-03	振り返りワーク	実習最終日の午後に大学の講義室に集まる。実習期間中に経験した内容をもとに振り返りを行う。

授業外学修時間の目安 45時間の学修が必要な内容で構成されている。

目安

キーワード 地域医療、コミュニケーション、チーム医療、基本的臨床技能

テキスト 特になし

参考文献 各施設より、必要に応じて適宜指示あり。

文字列を選択して、右クリックすると図書の検索ができます

**オフィス
・アワー**

**担当教員への
連絡方法**

**担当教員
からの
メッセージ**

- 1) 実習施設は学生が主体となって割り振りを行う。
- 2) 実習前に、実習施設へ連絡を行う。事前に実習の準備等の打ち合わせを行うこと。
- 3) 地域住民のご理解で実習を行えることを重々意識して実習をすること。服装、言動には十分配慮し、すべての世代の方から受け入れてもらえる服装、髪型、言動であること。白衣、胸章（名札）を着用すること。
- 4) 体調不良などあれば、すぐに各施設実習担当者あるいは教務係に報告すること。
- 5) 実習の移動に際しては、公共交通機関を利用し、事故等に十分気をつけること。
- 6) 実習前に学生定期健康診断、各種抗体検査、インフルエンザワクチン等を必ず受けておくこと。

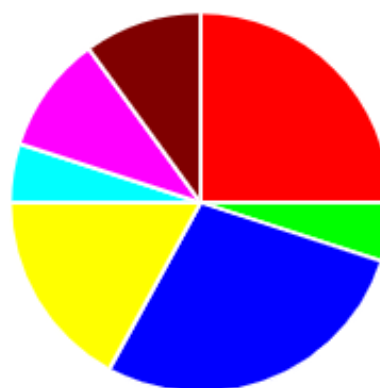
科目名：医療と社会（H28以降入用）（日） / Sociomedical Sciences（英）

基本情報

科目ナンバー	MME1-100-79-0	開講年次	4年生
年度・学期	2021年 前期	曜日・時限	他
担当教員	古川 昇, 王 百慧	単位数	1単位
選択/必修	各学部・大学院の履修方法による	授業回数	17
時間割所属	医学部 (42)	時間割コード	20060

学修成果とその割合

A) 豊かな人間性	25 %
B) 基本的診療能力	5 %
C) 自己研鑽とプロフェッショナリズム	28 %
D) チーム医療と信頼される医療の実績	17 %
E) 医科学研究	5 %
F) 国際的視野	10 %
G) 地域医療と社会貢献	10 %



詳細情報

講義題目(テーマ) 医療と社会

使用言語 「日本語」による授業

教科書・資料の言語 「日本語」のテキスト
(特になし(各担当教員が独自に資料を作成する))

授業の形態 講義

対面・遠隔の別 併用(対面主)

授業の方法 複数の教官によるオムニバス形式

授業の目的 医療法制や医療行政、医療安全、臨床心理学、医療人類学などを通して、社会的・行動科学的側面から医療や健康に関する問題を理解する。
平成28年度改訂版医学教育モデルコアカリキュラムの「A-7-2) 国際医療への貢献」「A-9 生涯にわたって共に学ぶ姿勢」「B-1-8) 保健・医療・福祉・介護の制度」「B-4 医療に関連のある社会科学領域」「C-5 人の行動と心理」の学修目標の習得を目的とする。特に「B-4 医療に関連のある社会科学領域」の以下の目標の習得を目的とする。
医療人類学や医療社会学等の行動科学・社会科学の基本的な視点・方法・理論を概説できる。
病気・健康・医療・死をめぐる文化的な多様性を説明できる。
自分が所属する文化を相対化できる。
人々の暮らしの現場において病気・健康がどのようにとらえられているかを説明できる。
人の言動の意味をその人の人生史や社会関係の文脈の中で説明することがで

きる。
文化・ジェンダーと医療の関係を考えることができる。
国際保健・医療協力の現場における文化的な摩擦について、文脈に応じた課題を設定して解決案を提案できる。
社会をシステムとして捉えることができる。

以下の内容について学修する。

- 1) 行動科学、社会医学および医療倫理学を、科学的知見の進歩に基づき理解する。
- 2) 医師法など基本的な法律と医療裁判の現状について理解する。
- 3) 医療行政の現状について理解する。
- 4) 臨床心理学について、基本的な心理臨床や臨床心理学の実際について理解する。
- 5) 災害医療、医療安全、喫煙行動について理解する。
- 6) 社会的少数集団（発達障害や性的マイノリティー）や医療人類学を理解する。

授業の概要

実務経験を活かし 該当

た授業

(その領域の第一人者としての実務経験に基づく講義)

学修目標

A水準（到達すれば「優」に相当）

この科目で該当する熊本大学医学部医学科の学修成果および医学教育モデル・コア・カリキュラムについて、十分に達成しているレベルをA水準とする。なお、医学科学修成果の詳細は、医学科学修成果および、その対応表（<http://www.medphas.kumamoto-u.ac.jp/medical/obe/>）を参照する。

学修成果について具体的には、

- ① レベルC(基盤となる技能・態度の修得)の段階: A. 豊かな人間性(項目1, 2, 3)、C. 自己研鑽とプロフェッショナリズム(項目4, 5, 6, 7, 8)、F. 国際的視野(項目3)、G. 地域医療と社会貢献(項目3, 4)
- ② レベルD(基盤となる知識の修得)の段階: A. 豊かな人間性(項目4, 5)、B. 基本的診断能力(項目1, 2, 3, 4, 5, 6, 7, 8, 9, 14)、C. 自己研鑽とプロフェッショナリズム(項目1, 2, 3)、D. チーム医療と信頼される医療の実践(項目1, 2, 3, 4, 5, 6, 7, 8)、E. 医科学研究(項目1, 2, 3, 4, 5)、F. 国際的視野(項目2, 4)、G. 地域医療と社会貢献(項目1, 2, 5, 6)

医学教育モデルコアカリキュラムについて具体的には、

- ① 医療人類学や医療社会学等の行動科学・社会科学の基本的な視点・方法・理論を概説できる。
- ② 病気・健康・医療・死をめぐる文化的な多様性を説明できる。
- ③ 自分が所属する文化を相対化できる。
- ④ 人々の暮らしの現場において病気・健康がどのようにとらえられているかを説明できる。
- ⑤ 人の言動の意味をその人の人生史や社会関係の文脈の中で説明することができる。
- ⑥ 文化・ジェンダーと医療の関係を考えることができる。
- ⑦ 国際保健・医療協力の現場における文化的な摩擦について、文脈に応じた課題を設定して解決案を提案できる。
- ⑧ 社会をシステムとして捉えることができる。

C水準（到達すれば「可」に相当）

この科目で該当する熊本大学医学部医学科の学修成果および医学教育モデル・コア・カリキュラムについて、最低限達成しているレベルをC水準とする。なお、医学科学修成果の詳細は、医学科学修成果および、その対応表（<http://www.medphas.kumamoto-u.ac.jp/medical/obe/>）を参照する。

学修成果について具体的には、

- ① レベルC(基盤となる技能・態度の修得)の段階: A. 豊かな人間性(項目1, 2, 3)、C. 自己研鑽とプロフェッショナリズム(項目4, 5, 6, 7, 8)、F. 国際的視野(項目3)、G. 地域医療と社会貢献(項目3, 4)
- ② レベルD(基盤となる知識の修得)の段階: A. 豊かな人間性(項目4, 5)、B. 基本的診断能力(項目1, 2, 3, 4, 5, 6, 7, 8, 9, 14)、C. 自己研鑽とプロフェッショナリズム(項目1, 2, 3)、D. チーム医療と信頼される医療の実践(項目1, 2, 3, 4, 5, 6, 7, 8)、E. 医科学研究(項目1, 2, 3, 4, 5)、F. 国際的視野(項目2, 4)、G. 地域医療と社会貢献(項目1, 2, 5, 6)

医学教育モデルコアカリキュラムについて具体的には、

- ① 医療人類学や医療社会学等の行動科学・社会科学の基本的な視点・方法・理論を概説できる。
- ② 病気・健康・医療・死をめぐる文化的な多様性を説明できる。
- ③ 自分が所属する文化を相対化できる。
- ④ 人々の暮らしの現場において病気・健康がどのようにとらえられているかを説明できる。
- ⑤ 人の言動の意味をその人の人生史や社会関係の文脈の中で説明することができる。
- ⑥ 文化・ジェンダーと医療の関係を考えることができる。
- ⑦ 国際保健・医療協力の現場における文化的な摩擦について、文脈に応じた課題を設定して解決案を提案できる。
- ⑧ 社会をシステムとして捉えることができる。

この講義では筆記試験を実施しない。学生の評価は出席を含めた学習態度と以下のレポート評価による。やむを得ない理由(傷病、事故、忌引など)なく欠席、遅刻、早退したものは評価対象としない。

評価方法

- 各講義での小レポート(70%)
- 講義期間を通じての総合レポート(レポート内容は講義で示す)(30%)

評価基準

レポートは内容の妥当性、著しい倫理的逸脱の有無、文章量などを観点として評価する。総括的評価として上記2項目合計が60%に満たないものは不可とする。

再試験は原則行わない。

評価方法 ・基準

履修条件

各回の 授業内容と 事前・事後 学習

各回の授業内容と事前・事後学習		
回	授業テーマ	内容概略
1 2021-04-05	月曜3限 臨床心理学(1)	王百慧先生(臨床医学教育研究センター・特任助教) 臨床心理学の基本的知識について概説する。

回	授業テーマ	内容概略
2 2021-04-12	月曜3限 行動科学	加藤貴彦先生（公衆衛生学分野・教授） 行動科学について解説し、最新の研究トピックについて講義を行う。
3 2021-04-19	月曜3限 臨床心理学（2）	王百慧先生（臨床医学教育研究センター・特任助教） 医療における臨床心理学の実践について講義を行う
4 2021-04-26	月曜3限 顧みられない熱帯病（NTDs）	濱野真二郎先生（長崎大学熱帯医学研究所 寄生虫学分野 教授・非常勤講師） 顧みられない熱帯病について講義を行う。
5 2021-04-28	水曜1限 医療安全	西谷陽子先生（法医学分野・教授） リスクマネジメントの基本
6 2021-05-10	（日程注意・月曜日午後5時より）	勝村久司先生（大阪府立牧野高等学校 首席・非常勤講師） 患者および家族の視点からの医療安全について、講義を行う。
7 2021-05-12	水曜1限 災害医療、国際医療	岡村直樹先生（熊本赤十字病院・非常勤講師） 国際保健と災害医療

回	授業テーマ	内容概略
8 2021-05-17	月曜3限 世界の水銀汚染と水俣条約	井芹道一先生（熊本大学先導機構H I G Oプログラム・非常勤講師） 水俣病の発生から半世紀以上が経過し、2013年10月、熊本市で国連の新環境条約「水銀に関する水俣条約」が採択された。いまなぜ水銀が地球環境問題化しているのか。その意義と水俣条約の中身を、国際取材の現場から解説する。
9 2021-05-19	水曜1限 医療人類学	下地明友先生（菊池有働病院・非常勤講師） 医療人類学について講義を行い、医療が人類にどのように貢献し、今後発展していくか、考察を行う。
10 2021-05-24	月曜3限 医事法制	高木絹子先生（高木法律事務所 弁護士・非常勤講師） 法廷から見た医学と医療について、講義を行う。
11 2021-05-26	水曜1限 医療の質の改善	近本亮先生（医療の質・安全管理部長・教授） 医療安全とリスクマネジメントの実際について、講義を行う。
12 2021-05-31	月曜3限 医療行政	福島靖正先生（厚生労働省・医務技監） 医療行政について、講義を行う。
13 2021-06-02	水曜1限 行動科学・禁煙	高野義久先生（たかの呼吸器科内科クリニック 院長・非常勤講師） 禁煙外来における臨床経験をとおして、行動科学に関する基本的知識の習得を図る。

回	授業テーマ	内容概略
14 2021-06-07	月曜3限 医事法制	西谷陽子先生（法医学分野・教授） 医療安全を中心に講義を行う。
15 2021-06-09	水曜1限 性的マイノリティ・ダイバーシティ	平村英寿先生（長嶺南クリニック 院長・非常勤講師） いわゆるLGBTと呼ばれる性的マイノリティなど、社会的少数集団に関する理解を深め、多様性を尊重する臨床的態度について講義を行う。
16 2021-06-16	水曜1限 男女共同参画	蓮沼直子先生（広島大学 教授・非常勤講師）、市原麻子先生（地域医療センター）、後藤理英子先生（地域医療支援センター・特任助教） 医師の男女比の変遷や男女共同参画の流れ等について学び、社会および医療従事者のワークライフバランスについて認識し、考察を行う。また、社会の多様性への理解を深め、将来の医師としてのプロフェッショナリズムを形成する一助とする。
17 2021-06-23	水曜1限 予備日	予備日とする。また、講義日程が変更となる場合があります。授業内の指示を確認するようにしてください。

授業外学修時間の目安

本科目は、45時間の学修が必要な内容で構成されている。授業は34時間分（2h×17コマ）となるため、11時間分相当の事前・事後学修（課題等含む）が、授業の理解を深めるために必要となる。

キーワード

行動科学、社会医学、医療倫理学、医療安全、ヘルスプロモーション、循環・共生社会、水俣病、医療政策、地域医療、臨床心理学、医療人類学、多様性

テキスト

特になし（各担当教官が独自に資料を作成する）

参考文献

授業時に適宜紹介する。

文字列を選択して、右クリックすると図書の検索ができます

オフィス

・アワー
担当教員への
連絡方法
担当教員
からの
メッセージ

社会の出来事に興味をもつこと。

科目名：公衆衛生学（H26以降入用）（日） / Public Health（英）

基本情報

科目ナンバー	MME2-360-81-0	開講年次	4年生
年度・学期	2021年 前期	曜日・時限	他
担当教員	加藤 貴彦, 魏 長年, 盧 溪, 増田 翔太, 古川 昇, 谷口 純一, 大森 久光	単位数	4単位
選択/必修	各学部・大学院の履修方法による	授業回数	46
時間割所属	医学部 (42)	時間割コード	36014

学修成果とその割合

A) 豊かな人間性	20 %
B) 基本的診療能力	20 %
C) 自己研鑽とプロフェッショナリズム	5 %
D) チーム医療と信頼される医療の実績	15 %
E) 医科学研究	15 %
F) 国際的視野	20 %
G) 地域医療と社会貢献	5 %



詳細情報

講義題目(テーマ) 公衆衛生学マインドの修得

使用言語 「日本語と英語によるミックス」授業
(日本語)

教科書・資料の言語 「日本語と英語を併用した」テキスト
(日本語)

授業の形態 講義・演習

対面・遠隔の別 対面形式

授業の方法 講義授業

授業の目的

21世紀のキーワードに高齢社会、情報社会、国際化があり、ヘルスプロモーションの理念と技術を基盤とする健康増進と疾病予防の新しい国際潮流がある。本科目ではこれらの時代的要請に応え、健康情報医学（疫学、生物統計学）、環境保健、産業保健、地域保健、感染症、国際保健医学、医療科学（保健・医療・福祉システム）に関する系統的な講義とともに、医学の社会的適用、医学と社会との関わりに関する理念、観察力、実践の手法を修得する。

授業の概要

個別学習目標SBO（Specific Behavored Objective）社会医学の分野として、下記項目に関して最新の情報も加味して講義を行う。

実務経験を活かした授業 非該当

学修目標

A水準（到達すれば「優」に相当）

「熊本大学医学部医学科教育成果において、以下の項目についてそれぞれのレベル段階での能力を獲得することを到達目標とする（熊本大学医学部医学科教育成果および講義実習対応表参照）。

レベルC（基盤となる技能・態度の修得）：A. 豊かな人間性（項目3）、E. 医学研究（項目1、2、3、4、5）、F. 国際的視野（項目4）、G. 地域医療と社会貢献（項目2、3、4、5）

レベルD（基盤となる知識の修得）：A. 豊かな人間性（項目4）、B. 基本的診療能力（項目1、2、3、5、6、7、8、9、14）、F. 国際的視野（項目1）、G. 地域医療と社会貢献（項目6）

一般的学習目標GIO (General Instruction Objective)

①公衆衛生学マインドを身につける：公衆衛生学の特徴は、臨床家の「clinical mind」に対し「public health mind」であることである。すなわち臨床家が一人の患者をみて病気を診断し治療する「patient oriented」であるのに対し、公衆衛生では、患者個人を対象とするのみならず、患者を含めて人々の存在する社会集団そのものを視野にいれている「population oriented」であることに大きな特徴がある。

「population」とは、ある国全体、あるいは一定の地域の住民、産業職場で働く人々、学童など、特定の間人集団を対象にする。公衆衛生学では、患者の診断、治療行為にとどまらず、人々が日々充実して過ごすための身体的、精神的、社会的な健康基盤を確保することを目標にする。

②健康の概念の理解している ③日本の医療・保健・福祉制度の理解している ④疫学的手法を理解し、研究計画の立案ができる ⑤健康教育理論の理解と具体的な実践方法を身につける ⑥国際的視野を身につける ⑦環境問題（保健）についての現状と課題について理解している ⑧産業保健の現状と課題について理解し、予防・対策の考察ができる ⑨感染症の疫学的指標を理解、予防・対策について立案できる。⑩母子・小児・成人・老人保健といった、人のライフステージに応じた健康維持・予防方策について理解し、説明できる。

C水準（到達すれば「可」に相当）

水準については、医学教育モデル・コア・カリキュラムおよび熊本大学医学部医学科の学習成果の達成状況に基づいて評価を行う。A水準とは、上記GIOに基づき、目標水準を達成し、さらに自ら課題を設定し解決できる能力を保持している。C水準とは、上記GIOに基づき、目標水準を最低限達成している。

評価方法 ・基準

課題レポートと学士筆記試験成績による。学士筆記試験の受験資格は医学部規則第11条2項による。課題レポート・学士筆記試験の評価基準の合計は60点（60%）以上を合格とする。再試験は1回実施する。

履修条件

各回の 授業内容と 事前・事後 学習

各回の授業内容と事前・事後学習

回	授業テーマ	内容概略
1 2021-04-06	健康・疾病・障害の概念と社会環境①：加藤	序論、公衆衛生・予防医学の概念
2 2021-04-06	健康・疾病・障害の概念と社会環境②：魏	序論、健康の概念・歴史
3 2021-04-13	社会保障制度と医療経済①：加藤	医療費、医療制度、医療保険

回	授業テーマ	内容概略
4 2021-04-13	地域保健、地域医療 ①：魏	健康の概念 QOL、生活機能分類について
5 2021-04-20	国際保健①：魏	国際保健・医療の課題
6 2021-04-20	国際保健②：魏	国際保健・医療協力 (WHO活動) ①Health promotion
7 2021-04-27	国際保健③：魏	国際保健・医療協力 (WHO活動) ②ICF (国際生活機能分類)
8 2021-04-27	疫学とその応用①：加藤	疫学概論：疫学の特徴、実践的方法論との違い
9 2021-05-11	疫学とその応用②：加藤	疫学研究に用いる指標：診断、感度や特異度
10 2021-05-11	疫学とその応用③：増田	研究デザイン、EBM、診療ガイドライン
11 2021-05-18	国民栄養と食品保健：増田	食品衛生、食中毒、サーベイランス
12 2021-05-18	予防医学と健康保持増進①：魏	予防、スクリーニング
13 2021-05-25	環境保健①：加藤	環境保健総論、環境把握、アセスメント
14 2021-05-25	環境保健②：Lu	毒性学概論、総論、環境の管理、実践的対処法地球環境、環境による疾患（寒冷、高温など）
15 2021-06-01	人口統計と保健統計①：増田	健康指標、人口構造、人口統計（動静）
16 2021-06-01	母子保健・小児保健①：Lu	母子の健康、小児コホート研究
17 2021-06-08	人口統計と保健統計②：増田	死因統計、生命表、ICD10、疾病統計
18 2021-06-08	母子保健・小児保健②：Lu	小児保健における予防接種の意義と内容、児童虐待、移行期医療の現状と課題
19 2021-06-15	学校保健：高野	様々な学校保健活動、生徒のQOL評価
20 2021-06-15	社会保障制度と医療経済②：増田	医療保険行政、災害医学
21 2021-06-18	保健・医療・福祉・介護の仕組み①：増田	地域保健の実践の場としての保健所機能
22 2021-06-18	産業保健①：加藤	過重労働、産業ストレスとストレスコーピング
23 2021-06-18	産業保健②：大森	産業保健総論、実践的活動
24 2021-06-18	高齢者保健：Lu	介護保険、高齢者福祉と高齢者医療の特徴

回	授業テーマ	内容概略
25 2021-06-22	保健・医療・福祉・介護の仕組み②：増田	医療従事者の資格免許、現状と業務範囲、職種間連携
26 2021-06-22	予防医学と健康維持増進②：古川	MetS、特定検診、特定保健指導
27 2021-06-24	成人保健：加藤	行動医学、ヘルスプロモーション、人の行動決定原理
28 2021-06-24	感染症対策：増田	感染症の疫学と予防対策、感染症法、検疫法、最近の動向、医療機関における感染症、事故等の対策
29 2021-06-25	地域保健、地域医療②：谷口（中本）	地域医療に関する地域医療行政
30 2021-06-25	地域保健、地域医療③：谷口（佐土原）	地域医療における我が国の医療供給体制の実際
31 2021-06-25	産業保健③：加藤	作業様態に起因する障害、物理的環境、温度湿度騒音等
32 2021-06-25	産業保健④：加藤	産業安全衛生マネジメントシステム、労働災害、化学物質、皮膚アレルギー、職業癌
33 2021-07-01	保健・医療・福祉・介護の仕組み③：谷口（鶴田）	地域医療の実際 2次医療圏、へき地に関して
34 2021-07-01	予防医学と健康維持増進③：谷口（高柳）	地域医療・保健 プライマリケアのアプローチ
35 2021-07-01	精神保健福祉①：井形	精神保健と健康、ストレス対策
36 2021-07-01	精神保健福祉②：井形	自殺問題と予防、ストレスコーピング
37 2021-07-02	地域保健、地域医療④：魏	農村保険の現状と課題
38 2021-07-02	予防医学と健康維持増進④：都竹	身体活動が生活習慣病、老年病の予防に及ぼす影響
39 2021-07-02	予防医学と健康維持増進⑤：大森	予防医学と健康増進、生活習慣病とリスク要因
40 2021-07-02	トピック① 日本の医療の課題：加藤	日本の医療の課題について
41 2021-07-08	トピック② 統計学：Lu	基本保健統計学、サンプル数
42 2021-07-08	トピック③ 国際保健の現状と課題：吉田	感染症、国際保健に関する現状
43 2021-07-08	トピック④ 疫学調査の実際：小田	国家プロジェクトによる大規模出生コホート「エコチル調査」について
44 2021-07-08	トピック⑤ 放射線衛生学：櫻田（録画配信）	放射線衛生学の総論・各論、事故事例紹介

回	授業テーマ	内容概略
45 2021-07-15	トピック⑥ JICAプロ グラムの紹介：魏	タイにおける知的障がい児 支援人材育成プロジェクト
46 2021-07-15	トピック⑦ こうのと りのゆりかご：蓮田	こうのとりのゆりかごを めぐる現状と課題

授業外学修時間の 目安

本科目は90時間の学修が必要な内容で構成されている。授業は92時間分（2h×46コマ）となる。

一層の知識を得るために、30時間分相当の事前・事後学修（課題等含む）を実行すると授業の理解を深めることができる。参考図書や新聞記事から社会医学的情報を収集を自ら学ぶことが望ましい。

キーワード

公衆衛生、社会医学、予防医学、疫学、産業医学

テキスト

特になし（各担当教官がプリント資料を作成する）

推薦図書：NEW予防医学・公衆衛生学、シンプル衛生公衆衛生学

参考文献

文字列を選択して、右
クリックすると図書の
検索ができます

1) シンプル衛生公衆衛生学、南江堂

2) NEW予防医学・公衆衛生学、南江堂

3) 厚生指針（臨時増刊）国民衛生の動向：厚生統計協会、東京

4) 基礎から学ぶ楽しい疫学（医学書院）

5) 医学的研究のデザイン、研究の質を高める疫学的アプローチ 第4版
メディカル・サイエンス・インターナショナル

オフィス ・アワー

担当教員への 連絡方法

担当教員 からの メッセージ

将来第一線で働く臨床医にも、公衆衛生、予防医学、産業医学などの社会医学の知識の修得および疫学的手法の修得の重要性を認識して講義に臨んでほしい。実習については、希望者で行う予定がある。ただし、実習先の協力のもとに行われるため、都合により夏期休暇中に行われることがある。相手あつての実習であることを予め認識しておくこと。

科目名：特別臨床実習（H26以降入用）（日） / Special Clinical Practice（英）

基本情報

科目ナンバー	MME4-830-62-0	開講年次	6年生
年度・学期	2021年 通年	曜日・時限	他
担当教員	古川 昇, 王 百慧, 谷口 純一	単位数	38単位
選択/必修	各学部・大学院の履修方法による	授業回数	2
時間割所属	医学部 (42)	時間割コード	46081

学修成果とその割合

A) 豊かな人間性	15 %
B) 基本的診療能力	25 %
C) 自己研鑽とプロフェッショナリズム	15 %
D) チーム医療と信頼される医療の実績	20 %
E) 医科学研究	5 %
F) 国際的視野	5 %
G) 地域医療と社会貢献	15 %



詳細情報

講義題目(テーマ)

使用言語 「日本語」 による授業

教科書・資料の言語 「日本語」 のテキスト

授業の形態 実技

対面・遠隔の別 対面形式

授業の方法 特別臨床実習（クリニカルクラークシップ、クリニカルインターンシップ）

授業の目的

診療チームに参加し、その一員として診療業務を分担しながら医師として最低限必要な医学知識、臨床推論、臨床判断・技能・態度などの能力を以下の4項目を行うことを通して身につけることを目標とする。(1) 臨床推論に基づいた情報収集(医療面接、身体診察、基本的臨床手技、連絡・報告)。(2) 診療計画の立案(基礎的な医学的知識の獲得の機会を提供する、教科書文献的知識と検索技法、症例提示と検討会、診療録記載)。(3) 治療計画の実施(基本的治療手技、他医療職や患者への伝達、文書作成、連絡・報告)。(4) 診療・学習行動の基盤となる倫理・態度(医師のプロフェッショナリズム:患者や患者家族および他の医療職への接し方、自己の職業的能力とその限界に即した行動、助力と助言の受け入れ、自己学習への意欲 など)。
また平成28年度改訂版医学教育モデルコアカリキュラムの「G 臨床実習」の学修目標の習得を目的とする

授業の概要 クリニカルクラークシップ

5年次から6年次にかけて、1ターム3週間、合計13ターム、39週間。学生を13グループに分け、必修（産科婦人科、小児科、神経精神医学、地域医療）、選択必修（内科系、感覚運動系、外科系、総合系）、選択（学生の希望をもとに配属、5ターム）を周る。6年次は第11タームから第13タームまで。

クリニカルインターンシップ

6年次、1ターム3週間、合計2ターム、6週間。各診療科に配属され、診療参加型の臨床実習を行う。配属診療科は学生の希望をもとに調整する。実習の詳細は「特別臨床実習の手引き」を参照すること。

該当

実務経験を活かした授業 (実臨床を実施している教員の指導の下、学生は診療チームに参加し、その一員として業務を担当しながら実務を学ぶ。)

A水準（到達すれば「優」に相当）

この科目で該当する熊本大学医学部医学科の学修成果および医学教育モデル・コア・カリキュラムについて、十分に達成しているレベルをA水準とする。なお、医学科学修成果の詳細は、医学科学修成果および、その対応表 (<http://www.medphas.kumamoto-u.ac.jp/medical/obe/>) を参照する。

学修成果について以下の項目について十分に達成しているレベルをA水準とする。

① レベルA(診療や研究の現場で実践できる)の段階: A. 豊かな人間性 (項目1, 2, 3, 4, 5)、B. 基本的診療能力 (項目1, 2, 3, 4, 5, 6, 7, 8, 9, 10, 11, 12, 13, 14)、C. 自己研鑽とプロフェッショナリズム (項目1, 2, 3, 4, 5, 6, 7, 8)、D. チーム医療と信頼される医療の実践 (項目1, 2, 3, 4, 5, 6, 7, 8)、F. 国際的視野 (項目1, 2, 3, 4)、G. 地域医療と社会貢献 (項目1, 2, 3, 4, 5, 6)

② レベルB(模擬診療や研究体験で実践できる、計画立案できる)の段階: E. 医科学研究 (項目1, 2, 3, 5)

医学教育モデルコアカリキュラムについては、「G 臨床実習」にある学修目標の獲得が十分にできているものをA水準とする。

学修目標

C水準（到達すれば「可」に相当）

この科目で該当する熊本大学医学部医学科の学修成果および医学教育モデル・コア・カリキュラムについて、最低限達成しているレベルをC水準とする。なお、医学科学修成果の詳細は、医学科学修成果および、その対応表 (<http://www.medphas.kumamoto-u.ac.jp/medical/obe/>) を参照する。

学修成果について以下の項目について最低限達成しているレベルをC水準とする。

① レベルA(診療や研究の現場で実践できる)の段階: A. 豊かな人間性 (項目1, 2, 3, 4, 5)、B. 基本的診療能力 (項目1, 2, 3, 4, 5, 6, 7, 8, 9, 10, 11, 12, 13, 14)、C. 自己研鑽とプロフェッショナリズム (項目1, 2, 3, 4, 5, 6, 7, 8)、D. チーム医療と信頼される医療の実践 (項目1, 2, 3, 4, 5, 6, 7, 8)、F. 国際的視野 (項目1, 2, 3, 4)、G. 地域医療と社会貢献 (項目1, 2, 3, 4, 5, 6)

② レベルB(模擬診療や研究体験で実践できる、計画立案できる)の段階: E. 医科学研究 (項目1, 2, 3, 5)

医学教育モデルコアカリキュラムについては、「G 臨床実習」にある学修目標の獲得が最低限達成しているレベルをC水準とする。

評価方法 ・基準

特別臨床実習の総括的評価は、特別臨床実習中の観察評価、統合卒業試験、臨床実習後OSCEによって行う。特別臨床実習中の観察評価は、指導教員（あるいは指導医）による評価を各診療科で行い、集計する。実習にやむを

得ない理由（傷病・事故・忌引など）なく欠席、遅刻、早退したものは評価対象としない。観察評価合計60%以上を合格とする。
 統合卒業試験本試験は、正答率65%以上を合格とする。なお、統合卒業試験は1回のみ再試験を行う。再試験は正答率70%以上で合格とする。臨床実習後OSCEも合格基準を満たせば合格とする。
 特別臨床実習観察評価、統合卒業試験、臨床実習後OSCEすべてで合格基準を満たすことが必要である。

履修条件

**各回の
授業内容と
事前・事後
学習**

各回の授業内容と事前・事後学習		
回	授業テーマ	内容概略
1	クリニカルクラークシップ	5年次から6年次にかけて、1チーム3週間、合計13チーム、39週間。学生を13グループに分け、必修（産科婦人科、小児科、神経精神医学、地域医療）、選択必修（内科系、感覚運動系、外科系、総合系）、選択（学生の希望をもとに配属、5チーム）を周る。診療チームの一員として、病棟、外来、検査室、手術室等での患者診療に参加する。実習内容は各実習先から提示される。
2	クリニカルインターンシップ	6年次、1チーム3週間、合計2チーム、6週間。各診療科に配属され、診療参加型の臨床実習を行い卒後の臨床研修への橋渡しとする。配属診療科は学生の希望をもとに調整する。

授業外学修時間の目安 本科目は、1710時間の学修が必要な内容で構成されている。実習は1710時間分となる。

キーワード 診療参加型臨床実習、問題解決能力、プライマリ・ケア

テキスト なし

参考文献 なし

文字列を選択して、右クリックすると図書の検索ができます

オフィス・アワー

担当教員への連絡方法

担当教員からのメッセージ

1. 臨床実習にともなう事故等をカバーする保険（熊本大学医学生総合保障制度等）に加入することを薦める。
2. 臨床実習前に学生定期健康診断および抗体検査等を必ず受けておくこと。

医政第344号
令和3年（2021年）8月20日

厚生労働省医政局長 様

熊本県健康福祉部長

地域の医師確保のための入学定員増に係る誓約書

令和3年8月16日付け3文科高第501号、医政発0816第9号に基づき、下記のとおり、令和4年度における地域の医師確保のための入学定員増を行うこととしました。

今後、地域の医師確保等に関する計画及び「地域における医療及び介護の総合的な確保の促進に関する法律」第4条に規定する都道府県計画等に位置付けるための必要な手続きを行います。

記

増員数

5名

・熊本大学医学部における地域枠：5名

担当 : 熊本県健康福祉部健康局医療政策課
企画・医師確保班 足立、村川
電話番号：096-333-2204
E-mail: adachi-m@pref.kumamoto.lg.jp

教 員 名 簿

学 長 の 氏 名 等						
調書 番号	役職名	フリガナ 氏名 <就任(予定)年月>	年齢	保有 学位等	月額基本給 (千円)	現 職 (就任年月)
—	学長	カガリ ヒサ 小川 久雄 <令和3年4月>		医学博士		熊本大学 学長 (令和3.4～令和9.3)

（注） 高等専門学校にあっては校長について記入すること。